

第4章

住民・関係者が語る被害体験



国土交通大臣賞(作文の部中学生)

「生きるということ」



岡谷市立
岡谷南部中学校3年
山岡 美菜

他人の死をととても悲しんだこと、それは多分、誰にでもあると思います。けれど、死という言葉が誰かが簡単に扱います。それは、自分の死がどれほど怖いか考えた人が少ないからだと思います。

七月の土石流災害で私は死にかけました。はつきり言つて生きていた方が奇跡でした。多分、たくさんの偶然が重なつて、なんとか生きていたんだと思います。

その日の朝、四時頃起きていました。雷のような音が続いていたからです。それは、山から流れてきた岩が、道路の下の土管を転がり落ちてきていたのです。そのうち、その岩は下でつまつて、水がふきあげました。濁つた水が、かなりの高さにあがっていました。私はその頃、着替えて、一日分の着替えをバッグにつめ終わり、明かりをつけて新聞を読んでいます。ですが、そのうち、停電したのです。私は外に出て

いた母に伝えました。

「お母さん、電気消えちゃつたよ。」

それが最後の言葉でした。電柱がゆれ始め、電線が次々に切れて、頭上で火花を散らしたのです。いそいで玄関に入り、ドアを閉めた瞬間、すきまから見えたものは、家ほどの高さの土と木の塊でした。

瞬間の判断で、私は二階に駆け上りました。そうしなければ私は肩までも泥につかつて流されていたか、埋もれていたでしょう。私の家の二階は川と化していました。大木も何十本も突っ込んでいました。

下でメキメキと音がするし、電柱が倒れ、電線がショートし、爆発が起きました。その爆発で、二軒上の家が火事になったのです。

家にとり残された私は、一刻も早く逃げたくて窓を開けました。土のにおいがすごかったです。救助をしに来てくれた方々が私をみつめてくれたので、私は裸足で屋根を歩いて脚立で下に降り、ひざまで泥につかつて久保寺へと逃げました。お寺で父と母に再会しました。

今も思い出せるほど、あの時の恐怖はすごかったです。普段どんなに「死」

という言葉を使つていても、そう簡単に死ぬ覚悟は出来ません。それを、身をもって体験しました。「死ぬ」だの、「死ぬ」だの、みんなが日常で使うけれど、「死」はそう簡単に表せるものではないし、表してはいけないと思います。やつぱり、「死ぬ」と感じると、すごく怖いし、「死にたくない」と思います。それは、聞いただけでは分かるようなことではないと思うけれど、そのことをたたくさんの人に、きちんと考えては

しいのです。

この災害は、あらゆるものを奪っていききました。家も、財産も、日常も。けれど、こうやって命があるのだから、この命を無駄にはしたくありません。そう考えられるようになったからこそ、「死」ということを簡単に扱わず、命を大切にすること、私は伝えたいと思います。どんなに小さいことでも考えることがあつたら、今から変えてほしいと思います。

国土交通大臣賞(作文の部小学生)

「湊が元気になるために私ががんばる」と



岡谷市立
湊小学校5年
中島 夏恋

私たちの住んでいる湊は、七月に土石流災害をうけて、七人も亡くなつてしまいました。

学校に行けるようになってから、災害にあった場所を見に行きました。高速道路のコンクリートに土砂がすごくかかつていて、こわれた家がたくさんありました。花岡の船魂神社の木が守つてくれた家もありました。

湊小学校や南部中学校もひなん所になつて、たくさんの人がひなんしたそうです。

災害は人の命をうばう事があつて、とてもこわいです。

このままじゃまた災害が起きて、人が亡くなつてしまいます。だけど、長野県の人たちが湊のために小田井沢の方などに砂防えん堤を作ってくれます。また災害が起きたら、砂防えん堤が少しでも役立つといいです。災害が起きた時はみんな元気がなかつたけれど、家の中に入ったドロや水を出したり、物運んだりしてがんばっていました。船魂神社のたおれた木やきずついた

木に葉をぬったり包帯をまいたりしてくれました。

私は、ひがいがあつた人や、地域の人に元氣よく挨拶をして、元氣になってもらいたいです。学校に行く時や帰る時に外に立って挨拶をしてくれる人がいるのでしっかり笑顔で挨拶をしたいです。

地域の人のすごいと思う所は、この災害で亡くなってしまった人や家をなくしてしまった人がいて悲しいけど私たちに笑顔で挨拶をしてくれる所です。

湊小学校は全校で、九月二十八日にお守りペンダント作りをやりました。災害にあつた地域の人や家族の人にあげる事にしました。うらに言葉を書いて作りました。元氣が出るようにがんばって作ったので、大切に使うてほしいです。

湊小学校は十一月十二日に音楽会があります。六年生はリコーダーをやつて、私たち四年生は合奏で「アイアイ」と言う合奏の曲と、合唱で「おそすぎないうちに」と言う歌を歌います。キレイな声で歌う事や、最初から最後までできるようにがんばっています。おそすぎないうちには少し悲しいけど、アイアイは楽しい曲なので元氣になつてほしいです。地域のたくさんの方が来てくれるとうれしいです。

おそすぎないうちに心をこめて歌いたい所は、「今あるすべての物は当たり前前なんかじゃなく、今あるすべての物がきせきてきにあるとしたら、き

みはどうやってそれを守るだろう」と言う所と、「おそすぎないうちに、まに合う今のうちに、できるかぎりのことをしよう、生まれてこられたお礼に」です。

二番も同じような所です。私の一番大切な物は、命、家族やおじいちゃん、おばあちゃんに買ってもらつた物です。一番大切な人は、家族、おじいちゃんおばあちゃん、すべての人です。

今できる事、やらなきゃいけない事は、親に心配をかけたり、うそをつかない事と、命の勉強をしつかりやつて、他の勉強も一生けん命やる事と、家族や友だちにやさしくしたり、お話をいっぱいする事です。

今できる事、本気でやつている事は、学校の行きと帰りに外に立っていたり散歩をしている人に大きい声で挨拶をする事です。

湊小の四年生は十一月二十一日に長野に行つて勉強をしてきます。県庁で防災センターの人の話を聞きます。話を聞く時に、話をしてる人の方を見つせずか聞きます。長野へ行く前に、災害の勉強や浅間山の噴火の勉強などを一生けん命やりたいです。浅間山の噴火は、どのくらい大ききかで、どのくらいの早さで流れてくるのかとかのわからない事をわかるようにしたいです。長野で他に行く所は、善光寺です。私は小さい時に二回善光寺に行つておかいだんめぐりでカギをさわりました。カギをさわると幸せになれると聞いて、

がんばつてさがしてさわりました。長野旅行で善光寺に行つておかいだんめぐりで幸せのカギをさわつたら、地域の人や家族の人に少しでも幸せを分

けて、自分も幸せになりたいです。ひがいをうけた人に元氣になつてほしいです。

国土交通事務次官賞(作文の部小学生) 「砂防ダムつてすごいな」



大鹿村立
大鹿小学校5年
伊波 瑠奈

「わー。私より重い大きな石が、川の中を、軽がる流れてる。」
六月二日に砂防ステーションに学習に行きました。

DVDを見た時のことです。昔のニュースの白と黒の画面を見て、私は思わずそう言っていました。

今から、四十五年前のことです。大西山がくずれる前に二週間以上、大雨が続いていたそうです。大西山がくずれた時、その土や木が少しぶ川の水をせきとめて、はらんさせました。

たくさん土や木がまぎつた川の水が、人間や家などを、うめてしまいました。その時、大鹿村の四十何人もの方たちが、亡くなりました。今もまだ、

岩の下にうまっている人がたくさんいるそうです。

私は、「土しゃくずればこわいな。もし、そんなことがあつたら、私はどうするんだろう。そんなこわいさい害は絶対におきてほしくない。」と思いました。

家や、畑をなおすためにたくさんの人たちが協力して、石を運んでいました。昔は、大きな機械がなかったから、人間が手やモッコで、石を運んでいるえいぞうを見ました。「本当に、大変そうだな。」と思いました。自えいたいの人たちもたくさん助けに来てくれました。岩や木を、村の人たちと二緒になつて、運び出していました。

私たちよりも、ものすごく大きい岩や木が、二しゅんで家や人をのみこんでしまうことを深く考えてみると、「いつもは川遊びや木登りをして楽しい自ぜんだけど、大雨がふると、こわくてあぶない自ぜんに変わつてしまうんだ。」

と思いました。私は、三六さい害を現場で見たような気持ちになって、なりにすわっていた明希子さんに「こわいね。こんなこと、絶対にいやだよ。」

と悲しい顔で言っていました。

砂防ダムも実さいに見せてもらいました。砂防ダムの下に大きな木がたくさん落ちていました。コンクリートのブロックが置いてありました。コンクリートは、川のその土しやが流れていかなないように置かれています。大水が出ると、動いてしまうそうです。

砂防ダムは、大きく二、三だんになっています。アーチ型です。恵理奈さんが、「砂防ダムは、どうしてアーチの形なんですか?。」

としつ問しました。

「アーチの形の方が真つすぐよりもじょうぶだからです。コンクリートの量も少なくすむんですよ。」

と国土交通省の鈴木さんが言ったので、びつくりしました。私は、真つすぐの方がじょうぶだと思っていたし、コンクリートの量が少ないなんて思わなかったからです。でも、アーチ型のダムはどこでも作れるわけではないそうです。大鹿村の砂防ダムは、両がわに大きくてかたい岩があるから作れたようです。

ダムの砂のことも、説明を聞きました。

「ダムにたまつた砂は、少しずつ大水の時に流れて、へつていくんです。」

私は、「たくさん砂が上流から流れてくるけど、少しずつ川に流されて

いくんだ。すごいな。」と思いました。今度は、ヘルメットをかぶつて砂防ダムを上から見ました。下から見るとより、もすこく流れが遠くてこわくなりました。

頭の上を見たら、アーチ型のダムの他に三ヶ所、二十四時間かんししているカメラがありました。私は、まえに十二チャンネルのテレビを見たら、サーザーと川の音がして、大西山の前辺り

砂防えん堤によつて直撃を免れた

岡谷塩嶺病院や養護老人ホーム、人家、耕地



岡谷市長
林 新一 郎

昨年七月の豪雨災害に際しましては、災害の発生以降、各方面の方々から様々なご支援をいただき、また心温まる多くの支援物資、義援金をお送りいただいたことに対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて七月十五日以降、活発化した梅雨前線により降り続いた雨は、岡谷市での観測史上最大となる総雨量四〇〇ミリを記録しました。

が見えました。「夜でも、ちゃんとかんししているんだ。」と思つて安心しました。

私は、砂防ダムの学習をして、私たちの知らないところで、こんなにたくさん私たちを守ってくれる人たちがいることを知りました。これからも私たちのためにお仕事をがんばつてほしいと思ひました。

災害発生前の七月十九日午前二時までに累計雨量一九一ミリを観測し、一時間に二〇〇ミリ程度の強い雨が二時間ほど降り続いた午前四時すぎ、湊川岸地区の背後にある西山地域の稜線付近から、居住地域に向かつて土石流が一気に沢筋を駆け下り、一瞬のうちには八名もの尊い命を奪うとともに、多くの建物への被害をもたらしました。

それまで平穏な地域が同時多発的に、かつて経験のない被害を受け市制が始まつて以来の大災害となりました。続々と入る現場からの情報で錯綜するなか、家屋の流出、倒壊、火災の発生、行方不明者など被害の状況が

明らかになるにつれ愕然としました。住民への避難勧告は最終的に九箇所へ発令を行い、その内、二箇所については避難指示を行いました。避難所は十三の施設で開設し、八月七日までに延べ二、三三五世帯、六、五〇〇人もの市民が避難を余儀なくされました。

被災された方々への支援として、岡谷市独自の支援金制度を創設するなど、一刻も早い生活再建に向け様々な対応を進めてきました。

また、土石流が発生した溪流等では二次災害の危険性が高いため、長野県の施工による応急対策として、土石流センサー、大型土のうによる導流堤が設置されました。

今回の災害は、土砂災害危険溪流とされる砂防河川で多く発生しました。岡谷市では現在二二の溪流が砂防指定を受けておりますが、砂防えん堤が整備されている箇所は四溪流のみであります。

そのなかで国道20号の塩嶺峠付近にあるヒライシ沢では、平成十六年度に整備された砂防えん堤により、上流部で発生した土石流や流木、約一、〇〇〇立方メートルを捕捉し、直下の国道20号や健康保険岡谷塩嶺病院、養護老人ホーム、人家、耕地等への直撃が防がれており、この砂防えん堤がなければさらに大きな被害が発生していたと思われまふ。

このような自然災害を防御する手段としては、土砂災害危険溪流への砂防えん堤の整備が最も直接的で有効

な防御策であるとの思いを強くしました。

この豪雨災害を受け、国及び長野県の速やかな対応のもと、災害関連緊急砂防事業及び治山事業が計画され、現在ではその復旧事業も本格化し、市民の安全確保の観点からもすべての事業の早期完成を祈念するものです。

しかしながら、市内の砂防河川のすべてに砂防えん堤が整備できる訳ではなく、今回のような局地的な豪雨による土砂災害など、いつ発生するか予測もできない自然災害に備えることは非常に困難です。

百年の時を超え起こりえなかつた土砂災害が突然襲ってくる可能性は、全国のどの溪流にも内在していることから、治水砂防事業のさらなる促進に期待を寄せるものです。

地方行政として行うべき地域防災力を高める取り組みとして何ができるのか、この災害を教訓としながら、地域防災計画を見直し防災情報の収集発信、的確な避難誘導体制の確立などの体制づくりはもとより、地域の自主防災会、住民、ボランティアなど、今回の災害で人々の生み出す大きな力を経験させていただくなかで、防災に関わる人的ネットワークの構築がこれから大きな財産になると確信しています。

これらを今後の大きな課題とし、二度とこのような災害を受けないまちを目指し、災害復興に全力を傾注し

てまいります。

〈引用文章〉

「砂防と治水」二七五号（二月号）

平成十八年七月豪雨災害

地域のつながりが大きな力を発揮



市長 山田 勝文

はじめに

諏訪市は、本州及び長野県のほぼ中央、諏訪盆地の中心に位置し標高七六・四五メートル、面積〇九九二平方キロメートル、人口約五二、〇〇〇人、地形の特徴としては、北西に諏訪湖、北東には八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている霧ヶ峰高原、南東に八ヶ岳連峰を望み、豊かな湧出量を持つ温泉に恵まれたまちです。

当市は昭和五十八年「台風二〇号」により大規模の災害に見舞われまし。以来施設整備を進めるなど十分注意を払ってきました。しかしながら七月豪雨は、想定外の出来事でした。

被害の状況

活発な梅雨前線の影響により七月

十五日から降り続いた雨は、十九日午後までに三九二ミリに達しました。この間、市内は一級河川や中小河川の溢水や、沢筋からの異常出水がみられ多数の土砂崩落と二箇所土石流が発生しました。また、湖畔の市街地を中心に約二、〇〇〇世帯の家屋が浸水被害をうけました。これは、昭和五十八年「台風二〇号」による被害以来二十三年ぶりの大災害となりました。

それは大雨、雷、洪水注意報で始まった七月十七日午前六時十四分、大雨、雷、洪水注意報が発令され、危機管理室職員が庁舎に集合しました。午前八時頃より新川などの冠水情報が入り始め、消防団に出動要請を行うとともに、企画部を中心とする担当課長で構成する配備検討会を開催して、本部長（理事者・部長）を召集し本部長会議を開催し、災害警戒本部を午前二時三〇分に設置いたしました。

降り続く雨のため翌日の朝方から警戒本部には、市内各地からの溢水

や崩落危険通報、道路では湖周線通行止め情報また、消防団からは土のう確保の要請など、警戒本部の二〇本の電話がひっきりなしに鳴り始めました。

災害対策本部へ移行

七月十八日午後六時、災害対策本部を設置し係長以上の職員を職場に待機する第一次配備とし、その他の職員は自宅待機としました。

担当部ごとの「島」をつくり、土砂災害情報相互通報システムによる雨量情報、土砂災害警戒情報等の活用や、各担当部長、県派遣職員からの状況報告を受け、対応を指示するなどの本部員会議を随時開催いたしました。

災害対応として一番先に考えたことは、市民への正確な情報提供でありました。同報系防災行政無線による放送、市ホームページを災害優先画面にしての情報掲載、ケーブルテレビ専用行政（かりん）チャンネルでの放映など、専任の本部情報広報班が情報提供を行いました。

その後も雨は降り止まず、主要路線や中央自動車道の通行止め等も発生し始め、終日対策本部に詰めて対応に追われました。

土砂災害への対応

湖南の中の沢川については、地元消防団等が警戒を行っていましたが、十九日（水）午前九時四十五分、小規模

の土石流が発生し、一部取残された人があるとの通報があり、現地確認職員を派遣するとともに災害対策本部で、本年三月に土砂災害防止法に基づき指定した、土砂災害特別警戒区域の地図情報をスクリーンに映し、避難勧告地域をいち早く決定し午前十時に避難勧告を発令いたしました。

また、地域住民も川の水の濁り状況等により危険を感じた人々が、近所を声をかけあつて自主避難を始めており、下流まで土石流が到達する事態となりましたが、それは勧告による避難終了後のことでした。

復旧作業へ

七月二十二日までは、浸水、土石流の避難勧告を全地区解除することができ、浸水等被災家庭の復旧作業が始まりました。ボランティア等の方々に応援をいただき、お蔭様で短期間に市民が日常生活に戻ることができました。特に県職員の皆さんには二日間にわたり二、四〇〇名のボランティア活動には励まされ、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

また、防災担当大臣を始め、国、県の調査団の皆様には、早速、被害状況等の現地視察に来ていただき、災害箇所等の早期復旧などをお願いしたところでした。

おわりに

現在、激甚災害の指定をうけ、中ノ沢川災害関連緊急砂防事業により砂

防えん堤整備や森林整備、また、諏訪湖周辺の浸水被害解消のため諏訪湖、天竜川激特事業及び天竜川助成事業が始められております。

今回の七月豪雨災害と昭和五十八年の「台風二〇号」災害を比べて見ますと、浸水区域面積は非常に減少しています。これは、五八災害の後、施設整備をすすめてきたためであります。

このことから、災害を未然に防止

平成十八年七月豪雨に対応して



伊那市長
小坂 啓男

（はじめに）

昨年七月十七日から二十三日にかけての豪雨は、三六災害、五八災害を上回るような豪雨だったのではないかとされている。

特に、宮田高原から伊那市西春近、箕輪町、辰野町を経て岡谷市に至る線上では、土砂災害により多くの人命が奪われた。

伊那市においては、人的な被害がな

するには、危険箇所いえん堤等砂防事業、森林整備の施工や河川改修などのハード事業の整備が不可欠であり、諏訪市としても、土砂災害情報伝達、自主防災組織の強化や地域ぐるみで防災に取り組める体制の構築などソフト面の整備をおこない、さらに災害に強いまちづくりを目指して参りたいと考えております。

かったのは幸運であつたと痛感する。今回の豪雨では、伊那市の中心部を流れる天竜川はかつてないほど増水し、周辺の中小河川が氾濫した。特に土砂災害については予測が難しいことを実感した。洪水や土砂災害など、災害はどこにでも起こるということを改めて感じ、今後の防災を考える上で貴重な体験となった。

（降雨等の状況）
昨年七月十七日から二十一日までの梅雨前線による豪雨は、伊那市内のアメダス観測所で、四三ミリの累積雨量を観測し、伊那市の平年における七月の月間降水量の三倍弱の降雨でした。

また、天竜川上流にある釜口水門の放流量が毎秒四〇〇トンを超え、この異常な降水量と釜口水門の放流により、天竜川の水位は大変危険な状況となった。

（初めての避難勧告）
天竜川の増水と土砂災害により、伊那市では約二万人に及ぶ避難勧告、避難指示は合併前の伊那市を含めて初めてのことであった。

避難勧告等の発令にあつては、関係する機関と頻繁に連絡を取った。特に天竜川上流河川事務所と釜口水門の情報是天竜川沿線に避難勧告を出す際に重要な判断基準となった。

また、殿島橋から下流部については、沢渡観測所の危険水位到達を避難勧告の基準とした。
（土砂災害について）
今回の豪雨で一番被害が多く、行政として限界を感じたのは土砂災害である。

河川の増水は、降雨予測や釜口水門の放流量により、事前の対応をとることができ。

しかし、土砂災害は、一定の降水量によつて、避難勧告などを発令しようとする、伊那市内全域に近い範囲に発せざるを得なくなる。その場合、避難所をどこにするのか、避難所に収容できるのかなど、多くの問題があり、到底全市避難勧告などできるものではない。

普段と違った現象が起こつたら、自主的に避難するしかないのが現状で

ある。

今後、予定されている土砂災害警戒情報を有効に活用できるように、土砂災害危険箇所での周知や、避難体制を充実させることが必要になる。

避難情報の発信は、防災無線、有線放送、ケーブルテレビ、安心安全メールなど、なるべく多くのメディアに協力依頼し、周知を図った。

今回の豪雨で発生した土石流によって、甚大な被害を受けた西春近沢渡区柳沢町には、二番確実な方法である広報車と戸別訪問により避難勧告を呼びかけた。

また柳沢町の避難勧告発令は、現場の職員に任せただけによつて、現状の把握から避難の判断までの時間を最小限にすることができたと思う。

災害対策にあたり、多くの団地や企業に多大な協力をいただきました。特に消防団は水防、広報活動、危険箇所巡視などに昼夜を問わず活躍し、伊那ケーブルテレビジョンは深夜から災害対策本部の状況をつぶさに放送していただき、市民から好評だった。

〈今後の課題〉

近年、災害を防ぐ「防災」という概念は、災害を減らすという「減災」へとシフトしている。必ず起こる自然災害に対して、人的物的な被害を最小限に止めるということである。

そのためには、自分たちの住んでいるところによつてどのような災害が発生する恐れがあるのかを理解する必要がある。

ある。

また、地域での活動が重要であり、自助・共助を充実させることがいわゆる減災につながると考えている。

今回の豪雨災害の際にも、西春近沢渡区柳沢町や諏訪形区においては、自主的なパトロールや応急的な対応など、地域の自主的な防災体制が機能したことによつて防衛することができた

災害は忘れないうちにやっ来て来た



辰野町長
矢ヶ崎 克彦

当町は信州伊那谷の北端、日本列島のはば中心に位置し天竜川が中央を流れ、総面積百六十九平方キロメートルの山紫水明の地です。夏の風物詩でもあるケンジポタルは、環境庁の「ふる里生き物の里」や、県の天然記念物にも指定されており、六月中旬には、町をあげて「はたる祭り」が盛大に開催され、毎年約二十万人の観客で賑わいます。

遡ること、平成十六年十月、台風二

思う。こうした経験をもとに、自主防災組織をさらに活動できる組織にする必要があると感じる。

現在、市内では自主防災組織の充実に向けた取り組みが各地で行われている。こうした取り組みを市内の自主防災組織で共有し、組織の充実化を図っていくことが重要だと感じる。

十二号は風雨を伴って十日前後に本州へ襲来し、中小河川の氾濫、土砂崩れをもたらしましたが、大災害には至らず、一時は胸を撫で下ろしました。しかし、その矢先、わずか十日後の二十一日です。台風二十三号が続いて襲ったのです。それは凄惨なものでした。前回の台風の影響がまだ残り、地盤が軟弱になっているところへ「豪雨」が襲ったものだから、大災害になるのは必至でした。

各地の被害の状況が明らかになるにつれて、被害が甚大であったことが分かりました。前述したように、山地に加えて渓谷の多い地形にあつては、水の保水力は、かなりあるもの、飽和状態になった場合は、どのような状

態になるかは目に見えています。地球温暖化による影響か、と囁かれる昨今、局地型集中豪雨による自然災害は、今後も時々起きるのでは、と関係者が口にしていたことを覚えています。

このときの災害では、人身の災害は無かったものの、大水による橋の流出、護岸の決壊、道路の崩落、農地への浸水等で、被害は町内全域に及びました。現在は多くの多くが原形に復旧し、その用に供しています。

そして時は一年半流れて、昨年七月、それは起きてしまいました。活発な梅雨停滞前線の影響で、辰野町の降雨量は、降り始めの十五日から十九日までに四二ミリと記録的な雨量となりました。この大雨で天竜川をはじめ、町内の規模河川、小河川、農業用水路などが氾濫、十八日夜ころから町内各所で土砂崩れや道路、護岸の決壊、住宅の床上浸水などの被害が相次ぎました。この時点で町では、災害警戒本部を災害対策本部に切り替えて徹夜で対応にあたりました。しかし翌日になつても被害は拡大する一方で、土砂崩れによる行方不明者が2人、避難世帯は百五十世帯にのぼったほか、国道153号線が、長さ八〇メートル、幅七メートルにわたつて、濁流洗掘により決壊し、すべての車両が通行止めになった。その後は国県をはじめ関係各所の方々による、復旧に向けた突貫的作業に入りました。

お蔭様を持ちまして、関係者には土日も無く、早朝より夜半まで作業

をお願いしたことにより、復旧工事は順調に進み、予定より七日も早く通行可能に漕ぎつけていただきました。業務に携わって頂いた方々に重ねて御礼申し上げます。

基幹道路の復旧に二目置く中、住宅の被災も激甚でありました。そして残念なことは土砂崩落の際に、住宅ごと尊い一名の命を、また直接土砂に巻き込まれた女子中学生、関連で二名の命を失ってしまったことです。加えて町内二箇所住宅地において大崩落があり、貴重な財産が失われる結果となりました。いずれの場所も崩落の予想が全く出来なかつたところであり、そのメカニズムの解明が強く求められるものでした。

今回の災害では、住宅等の全壊六棟、半壊二部半壊九棟、床上・床下浸水二百十七棟、死者四人という大惨事になりました。これに対しては国からは、速やかに自衛隊員の派遣をいただき、内閣府から官房審議官、国土交通省河川局からは防災課査定官らが、災害の爪跡が生々しい現場視察もしていただき、早期復旧と各種災害の法指定についての足がかりも築いていただきました。激甚災害に指定していただきましたことや、これまでの一連の対応につきまして、被災地・被災者に成り代わりまして、心より感謝申し上げます。

県の施策において、ダムなしコンクリート構造物の抑制など、話題となっていました。結果として、特に急峻

な高山を背する、流量差の激しい地形にあつては、砂防ダム・砂防えん堤は大きな効果を発し、設置箇所での災害は微小で済み、多くの関係者からは感謝の言葉が聞かれたのも事実です。そして何よりも多くの人命・財産がそれによって救われたことも事実です。山地面積が多く溪谷も多い当町にあつて、わずか一二年のうち二度の大

平成十八年七月豪雨災害について(教訓)



諏訪市消防団長
牛山 智明

この記録誌へ寄稿するに当たり諏訪市消防団の「平成十八年七月豪雨災害の記録」冊子から抜粋し、まとめたものです。この冊子は、この三月に発刊されます。

さてこの災害を語るに、諏訪の地形を説明します。諏訪盆地は、三市二町一村の六市町村の構成です。諏訪湖に流れる河川は、大きな二級河川で七、流れ出る河川は、天竜川のみです。そして諏訪湖の周辺は、山から流れる小さな川が、諏訪市だけでも三十箇所

災害に直面しました。「備えあれば憂いなし」とも言われます。治山・治水事業の整った場所においては、災害は縮小されたことが実証されました。そして「災害は忘れないうちにもやってくる」ことも。

〔引用文章〕
「砂防と治水」二七四号(十二月号)

保有することを薦めます。

三、河川に流れる水の濁りに注意

住民の連絡により濁り調査。以前にこの地域に災害があり、そのときの教訓で、濁り水が出たら要注意と住民は連絡をくれた。上流に登り調査、原因はあふれた水が道路、敷地の泥を巻き込み濁り水となったと判りひと安心。

四、土のうの準備

越水、浸水防止に欠かせない土のう。今回二〇・六〇〇枚の土のうの袋を使用した。袋の不足、土のう用の砂不足と特に砂は、移動が直に出来ない。防災倉庫、水防倉庫などで保管する必要あり。さらに学校の庭に砂を準備して置くことも良いのでは。

五、水防工法の重要性

積土のう工法、改良土のう積み工法、月の輪工法、木流し工法、四種類の工法を使い未然に水害を防止できた。我々消防団は、毎年六月に水防訓練にて必要な工法の訓練を行っている。この訓練が今回の豪雨災害に生かされた。

六、携帯電話、メールの活用

通常は、無線による指示、情報収集が基本であるが、無線が岡谷市消防団と周波数が共有のため、今回の災害は、被害の大きい岡谷市消防団に譲り、我々は個人の携帯電話・メールにて

一、パトロールの重要性

越水、浸水の対応をする団員、岡谷市の土砂災害が地元地域にあつてはならないとパトロールを怠らなかつた。そのパトロールのおかげで、事前に流木によるダム化した箇所発見、河川沿いの住民を避難させることができた。

二、冠水時のゴムボートの活用

浸水し非難できない老人、子供の救出には、欠かせない。軽くて移動がスムーズなこのボートは、各避難所に数隻

指示、情報収集を行った。これは、十七年度の分団長研修にて、中越地震の被災地である小千谷市を訪問、地元消防団から貴重な経験を聞き今回実施した。

七、排水ポンプの活用

国土交通省の排水ポンプの威力に驚き、諏訪市湖畔に六台の排水ポンプが設置され、湖畔の冠水が見る見るうち排水された。諏訪市に台くらしいあつても良いのではないだろうか。

八、交通規制について

災害時の交通規制の基本は、すべてを通行禁止にすべきである。諏訪湖周りは、西側の岡谷市土石流により通行止め、諏訪市側の国道20号、県道市道は冠水により通行止め、唯一通行可能道路は、東側の旧道です。狭い道路を普通車が往来するのが精一杯なのに車が集中、これでは、緊急自動車が行き止まりである。

九、情報選択

長期間にわたる災害の場合、いろんな所からいろんな情報が入る。諏訪市の平坦部は、殆どが冠水、山沿いは土砂崩れの恐れありと何処に対してお応すれば良いのか？団員は災害場所、避難誘導と人手はない。何を優先すれば良いのか迷う。人命優先で指示する。

十、統一された情報伝達

今回の災害で一番感じたことは、指示したことの返答がない、非難指示、避難勧告の指示、それぞれの解除など情報の共有化がされていないところがあった。それぞれの地区を基本にその地区、諏訪市で言うならば、区が中心になり消防団、他の団体が災害対応する。そこで対応できないことを市の対

「破顔千笑」の言葉を残して…



辰野町消防団長
武居 保男

「女の子が流された！」…七月十九日の夕刻二六時五〇分、その一報が入ってきたとき、消防署員も消防団員も二日前から続く町内各所での災害対応のため現場に釘付けになっており、非常に手薄になった本部数人の者で現地に直行した。

小横川地籍という山あいの集落をぬけていく途中、助手席に顔面血だらけの男性を乗せた軽トラックとすれ違う。女の子の父親であった。うめき声から土砂に巻き込まれた可能性も

策本部にお願いする。現場対応が二番と考える。

以上が今回の災害時の教訓として、まとめた内容です。我々は消防団は、これらの教訓を常日頃の訓練に生かし、これから起こりうる災害に対応して生きたいと思えます。

ある。河川の水位が低くなっていることに不気味さを感じながらさらに車を進める。突然、目の前に流木にさえぎられた巨大なダム湖が出現した。上流からの水が、こうこうとダムの上を流れ落ちていく。ナイアガラの滝のようになり水しぶきが煙のように立ちこめている。右手の山肌が大きくえぐられており、土砂崩れであることを確認。崩れた土砂や倒木等で川がせき止められダム状態になったことも判明した。かなり危険な状況下で女の子の行方を探るも、ダム決壊の危険性が高く、やむなく撤退。住民の皆さんに差し迫る危険を広報し、高台に避難するように呼びかけながら下山した。

の災害はすべての地区において、計二〇〇箇所以上で水害が発生した。七月十七日・十八日の二日間には河川の氾濫、決壊に対し、積み土のう工法、木流し工法、月の輪工法を町内三十三箇所を実施した。消防団だけで作った土のうは八二六八袋。一般住民が作った土のうを合わせると二万袋近くにも及ぶ。二日間睡眠もとれない懸命の水防活動もようやく終わろうとしていた。

翌十九日からは、様相が一変。土砂崩れ、幹線道路の陥没等、大自然が牙をむき始めた。朝六時四十四分、町内赤羽地籍で土砂崩れが発生。家屋が倒壊し、家族の安否が心配されたが、決死の救助活動により二階の窓から三名を無事救出。そんな喜びも東の間の十時十二分、町内小野中村地籍で六十七歳の女性が土砂に巻き込まれたという事故が発生し、懸命な救助活動が続けられていた。生き埋めになった人の救助作業も難航を極めた。自衛隊、機動隊の応援を受け、建設業者の協力も仰ぎ、二十一日夕刻、小野、小横川と相次いで発見された。

雨模様であった天候も以降、晴天続きとなる。しかし、復旧作業が始まった二十二日、町内沢底地籍の五十六歳の男性が作業中倒れ、急性心不全で亡くなったというニュースが入る。二十五日には、町内北大出地籍の六十四歳の男性が農業用水路の見回りをしていた最中、川に流される事故が発生。天竜川を中心とした行方不明者の捜索活動に入った。消防団員の疲労は極

限に達していたが、炎天下のなか懸命の捜索が続いた。八月三日、辰野から五十キロ下流の下伊那郡豊丘村の天竜川中洲にて発見された。

このたびの災害の被害状況は、死者四名、負傷者三名、全壊五棟、半壊三棟、床上浸水十六棟、床下浸水百九十六棟、国道二五三号線が侵食され通行止めになるなど大きな被害が出た。町を襲った空前絶後の大災害に対し、いま町内の各種団体で様々な角度から検証しているところである。消防団としては、常日頃から自然、地形等に対する配り、危険な予兆を見逃さないこととの徹底と、いかに地域住民の方と連携した対応がとれるかを研究していきたいと考えている。避難誘導にあたって、大地震を想定した避難場所と今回のような水害を想定した避難場所とは異なるという現実も見えた。携

帯電話が通じない山間地における伝達方法も課題である。

最後に、冒頭に書いた血だらけの男性は実は私の小学校時代の同級生であり、一緒に消防団活動をした友人である。亡くなった女の子は明るく朗らかな娘さんであった。辰野中学校二年生の彼女の発案で、今年の文化祭のテーマは「破顔千笑」。文化祭に向けて準備に一生懸命だったという。発見されたとき「息をしよう」ともつと生きたいよう」という表情であった。何もしてあげられなかったことが、今でも胸が痛む。

（引用文章）

上伊那シンポジウム

「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年二月七日
於、辰野町民会館

あらためて美感

一人一人が「自助」の行動から生まれる自然な「共助」の心



岡谷市花岡区長
小口 廣明

平成十八年七月豪雨災害で亡くなられた八名の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、被災地としまして、災害発生からお力添えをいただいた関係各位に改めて感謝を申し上げますとともに、今後とも引き

続きご支援を賜りますようお願いいたします。

さて、災害発生時には「自助共助・公助」ということが聞かれます。自分で自分を助けるという意味の「自助」が理解できれば、全体的な防災意識が高くなると考えます。また、一人ひとりが「自助」の心で、行動を起こせば自然と「共助」の心が生まれると考えます。私からは、この「自助・共助」を中心に提言させていただきます。

はじめに、自助の心として花岡区自主防災会についてお話しします。花岡区自主防災会は平成十五年四月に立ち上げ、地域防災の向上のため防災訓練や防災啓発運動等を行ってきました。地域防災力の強化が、災害初期段階の課題となることは言うまでもありません。

昨年の災害発生時には花岡区災害対策本部を設置し、自主防災会を招集しました。

これまでに経験したことのない大災害が起こり混乱するなか、私自身も、とにかく落ち着いて冷静に、即断・即決の対応を心がけました。

個々の生活が制限される避難所生活が続くなか、避難住民からは多くの意見・要望が出されます。避難所の運営に携わる多くの方々や避難住民と接するなかで、これら意見・要望に対し、冷静かつ迅速に、的確な判断をすることの難しさを感じましたが、逆にするべき対応する必要性も強く感じました。これらは、防災訓練では感

じることがないかもしれませんが、防災訓練では災害が発生した時の各自の行動や役割を列挙し決めておくことが、迅速に対応できる鍵であると感じました。

今回の災害では、花岡区内が分断されたため、備蓄していた防災資機材を的確に被災地域へ配布することができませんでした。この教訓を生かし、被災後は防災資機材を各町内へ分散配布し、自主防災会では各家庭に防災グッズを斡旋しました。これにより、各町内・各家庭でも防災意識を高めることができたと思っております。今回の災害を経験して、それぞれが自助の心を養い、防災意識を高めることが必要であると改めて感じました。

次に、自助から共助への地区内ボランティアについて申し上げます。災害発生時に、地区内相互の助け合いも必要と考え、地区内でボランティアを募集しました。延べ九日、約五百二十名が集まり、被災された皆さんに大変喜んでいただきました。

自助から共助の心が生まれ、地域コミュニティの再確認や地域との一体感が感じられたと考えます。ボランティアはその気持ちがあれば、現場へ駆けつけることで自然と体が動くと思っております。今後も地区内でボランティアの必要性を訴え、近隣地域で災害が起きた時には、地区内ボランティアを募り恩返しをしたいと思います。

また、花岡区にも県内外から多くのボランティアの方に駆けつけていた

きました。社会福祉協議会を通じ各家庭に派遣をしていただきましたが、多くの皆さんのご厚意により、被災地の復旧は迅速に進み、人の力の凄さを再認識したところです。炎天下のなか、過酷な作業をしていただいた皆様には改めてお礼申し上げます。

次に、災害に強い森林作りについて申し上げます。災害を引き起こした要因に森林の荒廃があると思います。山の多い信州なら、どこでも起こると考えなければなりません。このような災害を二度と起こさないために、地区で共通認識を持ち計画的に森林を整

備し、災害に強い森林を造って行かなくてはならないと感じております。

最後に、物の備えはできても大切なのは心の備えです。上杉鷹山の言った「自助、共助、公助」の意識を種々が持ち、この災害を風化させず後世まで語り継ぐことで、今後の地域防災方の向上につなげて行きたいと思っております。

〈引用文章〉

岡谷市防災研修会 講演

「十八年七月豪雨災害時、地域では」

平成十九年一月二十日

於テクノプラザおやか

まさか自分たちが!?

地域全員が市立諏訪西中体育館に避難



諏訪市北真志野区長
三村 康訓

消防団員の連携により地域全員が市立諏訪西中体育館に避難する。下流まで土石流が到達する事態になる災害に間わりながら人的被害のなかったことは、不幸中の幸いであつたと思ひます。

前日、十八日の夜半には三名にて途中まで様子を見に行っています。もしこの時に土石流が起きていたならばと、思うと身震ひいたします。

今まで諏訪市は土砂災害が少ない地域であつたため、土石流とは何かと

二〇〇六年七月十九日
諏訪市湖南北真志野、中ノ沢川
区役員、地元消防団員等で警戒を行つていましたが、午前九時四十五分、上流部で土石流発生、市より前後して避難勧告、命令が出される。区役員、

解されていなかったと思ひます。我々区役員も今回は、平年より雨量が多いと感じて、消防団とともに注意をしておりました。普段、漏水のなかった民家からも溢れるという連絡も入つてきました。

諏訪西中体育館に避難された人々たちにも状況が分からず不安な一夜になつたと思ひます。当地区においても防災マニュアルは各戸に配布されていますが、まさか自分たちの身にかかるとは誰もが懸つていなかったと思ひます。

翌日、中ノ沢川上流部まで見に行つ

初めて避難指示、勧告 三百人余に及ぶ住民が無事避難



伊那市高遠町地区
自治区長
伊東 義人

昭和五十七年の災害では、砂防えん堤の設置、河川の改修、そして治山工事とまちつとやられておつたので、被害が少なかったというふうな気がいたします。

ただ、今回の災害で、国立青少年自然の家、東部の陥没、もしあのときに子供が寝ていたらと思ひますと、今も冷や汗が出てきますが、本当に災害がないことが一番です。

また、災害の規模と併せて、五十七年の災害時と違うことは、市長の命令のなかで初めて避難指示、勧告が出され、住民の皆さんの安全が図られたことです。

今回の高遠地域での雨量は、昭和五十七年の災害以上に、杖突峠の近所で総雨量四一六ミリというような大変な雨で、出水も非常に多く、私も幾度か藤沢川、松倉川へ見に行きましたが、川の水量からも昭和五十七年の災害より多いことを実感しました。

そんななかから、松倉地区の避難状況について記述させていただきます。

十七日から非常に大雨となり、十八日には松倉地区の皆さん方は、自主的に六名ほど公民館の方に避難しておりました。そして、十九日には、さらに河川が増水し見た目にも恐ろしい状況となり、「これは大変だ」というようなことで、松倉地区で五十六名が自主的に避難をされました。翌日、避難勧告指示が出された時にも住民の皆さんも状況を十分に理解され、スムーズに避難できたような気がしています。

二十日に松倉地区の上流の水路が堰まつた際にも、地域の皆さんが総出で作業をやる時に「山が動いている。」というような情報があり、県にもメールし、防災ヘリを飛ばして上から見てもらう等をお願いをしました。

災害の現場には三回ほど、二十一日には信州大学の小野先生、建設事務所の佐藤課長、さらには、二十一日信大の北原先生、二十三日には北原先生と皆さんに来ていただきましたが、最初のときには「非常に危険だ。」というようなことで、すぐに避難したらどうかとのお話がありました。

避難には総合支所の職員、消防団等が一体になって、地域の皆さんを誘導して約三百四十名近い住民の方が十二時半から午後の二時半までに避難されました。しかし中には、なかなかご理解をして頂けない方もおりましたけれども、最終的には、総合支所の職員の説明等を聞いて、避難することができました。

次の日には、市長さんにも現地を見ていただき、災害対策本部で状況を判断され、避難解除をしようするのか検討いただきました。

また、この時点での解除は難しく、「市からの連絡をまつてもう暫く我慢してほしい」とのお話をいただきました。住民の方も現場の状況から納得せざるを得ませんでした。

ただ、市の災害対策本部の会議に地元区長が参加できるご理解をいただけたことは、住民の先頭に立つ区長さんの立場としては、説得力が大きい取り組みだったと思います。

反省点としては、避難所では情報が得にくい状況となりがちですから、情報収集用のテレビの設置が必要だろうと思います。

良かった点として、避難されている皆さん方の不安を解消するために、特に災害時に弱者となりやすい皆さんや乳幼児をもつ母親には、豊の部屋で休んでもらうなどの細かい気遣いや、常時複数の保健師を置くなどの配慮は良かったと思います。

特に好印象なのは行政の側からの比較的多くの欲しい情報が貰えた、その点は大変によかったと感じています。もう一点、「やはり非常に危険である、崩落がある」とをどんな情報でどう判断をしたらいいか迷う時がありました。県庁からの指示により、信大の先生方に幾度か現場に来ていただけたことで、適切な判断がなされ、三百人余に及ぶ住民が一人も欠けることなく、避難をし、そ

してまた自宅に帰れたことは本当に良かったと思います。

災害時に活躍した衛星通信車と、照明については天竜川河川事務所のお取りはからいで、二昼夜にわたりこの危険のところ、崩落したところを監視していただきました。関係者に心から感謝申し上げます。災害現場では、地元の方々のご理解を頂くなかで、地元が一丸となつて復旧を進めようとした機運がで

死亡者がなかつたことに安堵 本当に“想像を絶する”凄まじい土砂の押し出し



箕輪町北小河内区長
丸山 全二

昨年七月十九日、辰野町と箕輪町の中間にあります東西橋で、もう橋すれすれに水が増水をしておりまして、普段から見ますと、十メートル以上、水位は上がつておる状況でした。七月十八日、九時過ぎだったと思いますが、土石流が発生し、集落の中心を通る道路が川のようになり、大きな石やら小さな石がゴロゴロと流れました。また、川に伏せてある約七十から八十キロくらいある甲蓋も、ゴミが絡んで、そ

きたことも素晴らしいことだと感じています。

以上、当時の状況の一端をご紹介します。

引用文章

上伊那シンポジウム

「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年一月七日

於辰野町民会館

れがものすごい勢いで、すっ飛んでいきました。

その近くに人家では土石が入らないよう両脇にみんな、その土石を掻き出して流入を防いだり、あるいは、また後日は、トンパック積み等の作業までするに至りました。ちようど夜中に多少落ち着いてきましたし、汗や雨で外も内もびしょり、体も皆疲れていましたので、一旦全員で引き上げることとしました。ただ、区会議員、あるいは消防団員が何名かの見張りは続けられておりました。

十九日の未明の三時頃だったと思いますが、今度はその土石とさらに土壁みたいなドロドロした土石が、御柱で引つ張つていくような、あの大木とともにもものすごい勢いに押し寄せてきまし

た。この流出により、集落内のそこかしこが泥で一杯になってしまいました。

幸い、ほとんど住民は作業の一時休止にとめない自宅にいたため、大きな被害とならずに済みました。ただ、その時の出来事で、現場の消防団員の皆さんが逃げたりしてかすり傷を負ったりした経過もございますが、とにかく死亡者がなかったと安堵しました。

十九日三時頃の土砂の押し出しと同時に避難したのですが、本場に「想像を絶する」凄まじいものでした。このような災害は百年くらい記録にはないとのことですが、災害から半年を経過し、集落では、新築・改築等も進んで、平常な生活に戻りつつあります。

この災害では、建設業界の皆さん、あるいはボランティアの皆さんが何百人も、また県の職員が毎日百人くらいずつどんどん来ていただき、大変有難く、ここで改めて御礼を申し上げます。

また、町でも七月二十九日箕輪祭りを中止していただいたうえに、二十九日及び三十日には、その災害の復興記念日としてボランティアを派遣して対応していただき、本当に感謝申し上げます。それから、今、建設事務所を中心に進められています砂防えん堤の建設につきましては、色々な事情で遅れてしまうこともあるでしょうが、住民は一日も早い、完成を望んでおりますので、できる限り早い時期に、わかる範囲で結構ですので、説明会等をお願いしたいとか、あるいはまた、その職

員はですね、増員をしたりしていただいて、早期着工ができますように、お願いを申し上げたいと思います。

ボランティアの皆さんとの連携についてですが、炊き出し班は日赤奉仕団が中心になりましたが、やはり何日ももなりません、限りがあります。その点の対応、組織づくりに工夫が必要ではないかと感じております。

また、一気に大量なボランティアの皆さんが被災地に来てくれますが、そのボランティアを上手く、効率的に機能するようなものも考えなければいけないのでは…。

もう一点、北小河内地区は自主防

にその防災会が有効に動くように、今後さらに色々な角度から、防災会としての機能が生きるような対策が必要ではないかと痛感しております。

最後になりましたが、今回の災害は一箇所でなく北小河内は四つの沢で同時に災害が発生し、その対応もばらばらになってしまい、地域としての苦労はもしかしましたらこのことが大きかったのかも知れません。

〔引用文章〕

上伊那シンポジウム

「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年二月七日

於：辰野町民会館

私が見た土砂災害



辰野町

征矢 作太郎

少し薄らいできています。

災害が発生した裏山の、以前の地形はV字型のような谷ではなく、お盆の底のような広い形をし、間口の幅も、三十メートルぐらいある谷間でした。おおよそ、山の峰まで下からは二百メートルぐらいになります。その裏側には信州豊南女子短期大学があります。

十九日の前夜から雨がよく降り続いておりまして、「まあよく降る雨だ

なあ」と家族に話しながら、何の心配することなく、早々に寝入ってしまった。あとで聞いた話ですが、その夜十一時半頃ですか、私の家の下の町道の土手が崩落してしまい、役場や赤羽区、また消防団で土のう等により対処してくれたとのことでした。また、その皆さんは復旧作業とともに区内の警戒にもあたられていたそうです。翌日、十九日の朝、四時頃だったと思います。災害のあった日ですが、家の外から妻が「裏の土手から水が出ている。」と私を呼んだので行ってみると、八メートルほどある隣の家との間の真ん中辺りの高さ二メートルぐらいの土手から、もの凄いい勢いで水が出ていました。その水はとても澄んでいて綺麗な水でした。

水の量はよくわかりませんが、だいたい見当で二十センチ近くのパイプの中を流れるぐらいの水量が出ていたように感じられました。しばらくの間その場におり、そのうち止まるだろうと思つて観ておりましたが、相変わらず同じような水量で、水もきれいした。

六時三十分少し過ぎた頃だったと思いますが、その場を離れ、裏庭に行き十分程度経過してからでしょうか、突然、家の中にいた妻から「裏山で、おつという大きな音がした」、「もしかしたら山崩れかもしれない」と言われ、慌てて裏山が見えるところまで行った時は、もうすでに、隣の家の裏、約二十メートルぐらいのところまで、高さ二メ

「トルぐらいの水が土手いっぱい流れ
てきたところでした。水の色は、そのグ
レーというか、灰色に見えました。そ
れも、水しぶきを上げ、木材は斜めに
なつたものや、横になつたものが相当数
あり、とにかく木材が水と一緒に混じ
りあいながら流れてきた状態でした。
よく言う、「鉄砲水」ですか、一瞬、垣間
見ただけでしたが、それはもうすごい
光景でした。」

これは危ない、と思い、すぐその場を
離れ、それから間もなくして、いやす
ぐかも知れませんが、「二、三回ぐらい
と、「おおつ」というような音がして、
土石流が流れてきました。土石流が
流れでたあと、すぐ隣の家を見た
ときに、「二階建ての大きな家でしたが、
下の家に落ちて、二階の一部が残って
ただけでした。」

幸いと言って良いのでしょうか、隣の
家は、留守にしており、下の家には五
人の人たちがおりましたが、みんな無
事でした。私の家は半壊となりました
が、もう少し家の様子などを見よ
うと思いましたが、消防の人たちから
「早く避難を」と言われ、避難所にな
つていた区民センターに避難しました。
避難が終わって家に帰ってきて見たも
のは、木材と泥の山でした。災害は他
人事ではないと、災害に遭い、私が被
害者となり、その心境も知ることな
りました。

最後になりましたが、今回の災害
につきまして、応急工事などにより対
処いただきました、県町・地元赤羽区・

その他多くの皆さんから大変なご支援
ご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。
ます。

豪雨災害を振り返って

家がだめになつて物が流されて・・・
でも物はなんとでもなるが、命めこのじつと思ひます。



塩尻市箕川
山口 誠一郎
仁美

いちばん印象に残っているのは、あの
災害で家が使えなくなったこと、それ
と川底が三メートルも上がつてすごい
脅威だったことです。

ちょうど消防と役所の人が来てく
れて、一緒に川の状況を見にいくと、前
より水が増えて危ない、避難するなら
場所を確保してあるということ、す
ぐ指示に従いました。

避難で持ち出したものは、祖父と
祖母のお位牌や保険とか通帳だけで、

〔引用文章〕
上伊那シンポジウム
「平成十八年七月豪雨と上伊那の土
砂災害」平成十九年二月七日
於・辰野町民会館

あととは特別ありませんでした。明日の
朝には帰れると思つていたし、夢中だつ
たのでよく覚えていません。

翌朝、家に行ったら水がついていて近
づけませんでした。その時の思いは「あ
あ、だめだ」というだけでした。私は、
悲観というようなことでなく、なんか
信じられない、あんまり切ないとか、そ
ういうものが何もなくて、ただ家にあ
つたものが流れていくのを見ていまし
た。今も、家で見えていたものが目の前
を流れていく光景が浮かんできます。

今になつてあれがあつたとか、こうゆ
うものがあつたわけだとか、特に春に
なつてくると、作つていた花みたいなも
のがなくなつたことが一番寂しく切な
くなります。

雨が降ると親から言われていたので
すが、水道水を引いている沢に大きな
岩があつて、その大岩が水に着きそう
になり、越えたりしたら、避難しろと

教えられていました。あの時も含めて、
大雨が降るときには気をつけていまし
ましたが、今回は十七日の朝、土の匂いが
したので、これはちよつとおかしいと気
づきました。畑へ行って耕すときの匂
いです。異様な感じがしました。

教訓としては、いつでも逃げられる
ように、大事なものを入れる袋とか水
なんか用意しておかないといけないと
思いました。それと、昔水が出たところ
ろや、いつもと違う大雨の時は気をつ
けなければいけないと思ひました。絶
対大丈夫というところが、今回本流に
なつてしまった。昔流れたというところ
は水が出てくる。それと今回山を伐
採して、大きな木がなくなつたとい
うようなこともあると思ひます。保水能
力がなくなつたことでしょうか。

また二番下の水の取入堰堤が壊れ
たことは、以前から古くて穴が開いて
いたので懸念していたみたいですが、老
朽化したところは早めに手を入れて
ほしいと思ひます。堰堤が崩れなけれ
ば今回のようにならなかつたと思ひま
す。

避難所では、近所の人をはじめみな
さんが気をかけていただきました。最
初六世帯で避難して一日ばかりして二
世帯が新たに加わりました。みなさん
隣組で知つている人なので、差し入れ
をしてくれたり、親切にしてくれてあ
りがたかったです。

家が全部だめになつたので、家を貸
りて入るときには、みなさんが電気製
品を持って来てくださったたり、すぐ生

活できるものを用意していただいたので、大変ありがたかったです。おかげさまで、同じ地主さんに頼んで、国道に入った河床より高いところに家を建てているところです。

行政などへの要望は、出来ればこれから雨がどれくらい降るかなどの情

塩尻市榑川地区災害について



塩尻市榑川地域審議会会長
田中 今朝春

報を流してもらえばと思います。今までこうゆうことがなかったから、情報を流せばみんなが気をつけると思いますが、自分のまわりはよくわかっていて、何か変化があれば、知らせて対処できると思います。物はなんでもなるが、命あつてのことと思います。

七月十五日から降り出した梅雨末期の雨は、十七日には累計二〇〇ミリに達し、一時間最大降水量三四ミリを記録した。このため地区内各沢が一斉に増水し、市道が各地で不通となり、一部国道19号にも土砂が押し出した。

十二時五十二分、県より洪水警報・大雨警報・雷注意報・土砂災害警戒・浸水警戒が出され、榑川支所では市役所と緊密な連絡をとるとともに、塩尻市消防団榑川分団と協力して各危険箇所の点検、市民からの通報に応じて、それぞれ対策を講じてきた。

十八日夜も豪雨が続き、地区内各沢がさらに増水し、市民からの対策要望が多く、市職員・消防団榑川分団、依頼した建設業者等により、それぞれ大車輪で対策を講じてきた。十四時にはJR東海は全線運転を見合わせ災害に備えた。榑川大曲地区住民、奈良大濠地区住民は、それぞれ自主避難し土石流などの危険に備えた。

十九日深夜二時十七分、池の沢で大土石流が発生し、池の沢出口に大量の流木・土石が堆積、奈良井公民館、周辺の民家に土石流が流れ込み、大きな被害が発生した。直前まで流水路の確保作業をしていた消防団員、建設業者等は危険を感じ、作業を中断していたため、幸い被害を免れることができた。

この土石流により、泥流が周辺の民家に大量に流入し、床上浸水・床下浸

水するとともに、被害各戸の家の中を流れ、宿本通りに流れだした。沢本流の泥流とともに奈良井宿のなかを流れる泥流を消防団・建設業者等の懸命の努力により東町裏用水路に導入することが出来た。

また二十日には榑川沢にて大土石流が発生し、大曲地区では避難していた全所帯(四所帯)の住居が全半壊する大被害となった。下流の旧国道暗渠が閉塞すると大惨事になるところであつたが、嚴重な警戒で幸い事無きを得た。

この豪雨による被害は、榑川地区内全般にわたり大きなものとなった。家屋の全半壊七、同床上・床下浸水五十、JR中央西線は数箇所土砂流出により線路の埋没、国道19号は同じく数箇所土砂が押し出し不通、県道市道はいたるところで不通、地区内各地で土砂崩落・斜面より大量の湧水など、住民が不安を感じたが、市支所・消防団・住民の努力で、幸い人命に死傷無く、当面、克服することが出来たが、雪解け増水期、梅雨を間近に控え、急な災害復旧を強く願うものである。また、今回の体験を基に、次の事態に備えるよう体制を整えることが必要であると考える。

〈災害への対応〉

一日ごろから危険箇所を点検し、緊急事態に備える心構えを持つ。特に今回の災害のあった地区においては、年に複数回点検。

二、緊急時の避難経路、避難場所を確保し、夜間・荒天時の緊急時にも対応できる訓練。

三、緊急時の連絡を研究・周知徹底。

四、緊急時の持ち出し品の確認。夜間、停電時など悪条件の中でも対応できるように心掛け。

五、緊急時の「火の用心」。

〈今回の災害の反省と対応策〉

一、連続降水量一七〇ミリ、一時間最大降水量二〇ミリ以上の場合、充分な警戒態勢をとることが必要であると考える。現在、榑川地区において公的機関の降水量観測は、榑川支所にある気象庁アメダス、奈良井ダム管理事務所、ダム地点、萱ヶ平観測所の併せて三箇所である。連携した速報体制の構築が必要ではないか。

二、奈良井ダムの、流入量・放流量・長瀬流量の適宜な情報提供と、奈良井ダム管理月報の提供を受けた日頃からの実情把握。

三、国土交通省木曾維持出張所、JR東海木曾福島工務区との十分な情報交換。特に今次災害において、JR全線運転見合わせは絶妙のタイミングであり、こうした判断の基となったデータ分析は大変参考になるものと考え。

四、今回の災害箇所のうち、榑川沢堰堤については、県へ以前より修繕を求めており、奈良井池の沢についても谷止工新設・既設谷止工修繕を何回か要請したところである。また奈良井天

照沢は今回の災害で大量の土砂流出があったが、この沢について、当時木曾建設事務所は現地調査の結果その危険性を認め、砂防堰堤の新設を計画、県へ提出したが、そのまま判断が先延ばしされてきている。急峻な地形の山間部集落の危険性を考慮せず、この五、六年間、治山施設への必要な投資を行わず、メンテナンスも不十分な状況と、緊急間伐事業による間伐材を、沢へ放置したことが被害を大きくしたものと考える。今後、こうした問題について適切に対応されるよう求めている。

特に、ここ数年の県の緊急間伐事業は、価格のみの競争となり、多雨・急峻な地形での施業技術・経験を考慮せずに事業を進めてきたものと考ええる。その結果、今回の災害をより大きくしたものと考える。経験豊富な森林組合を充分活用されるよう強く要望したい。

五、二月七日、辰野町においてシンポジウム「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」があり、北沢秋司信州大学名誉教授が基調講演のなかで、「溪流筋の自然林化が必要であり、沢筋の人工林を一定巾伐採し、放置すれば自然林化する。こうした措置と、適切な砂防施設を設置することが溪流筋の安定に必要である」と講演されたが、全くその通りであると考える。地区内の各沢の現状は、人工林の本々の間を水が流れているような状況であり、全述のような対策を順次、講じていけば、災害に強い地域作りの一助になる

と思う。さらに年に一度は関係住民が溪流筋を点検するようになれば、自らの目で確認できるものと考ええる。

六、奈良井宿西側の急傾斜対策指定地区については、擁壁工・落石防止工など設置済みであるが、山腹は湧水が多く、杉など根張りの弱い樹種で大きくなり過ぎている木については、強風などによる倒木被害を防ぐため、根の張りの良い低灌木に林相変換を図り、地山の負荷軽減を図ることが必要と思われる。

七、楢川地区は、地区総面積二七、八二平方キロメートルのうち約六十二パーセントを国有林(官行造林地を含む)が占め、奈良井川上流部を含む周辺の山々の中腹以上であり、今回の豪雨被害もかなり大きく、一体化した対策を講じていかなければ効果は半減するものと考ええる。松塩水道用水の水源保全のため緊密な連携を持ち、対策を進めるよう要望するものである。

八、今回の豪雨災害で、奈良井川本流の何箇所かの河床洗掘と、著しい河床上昇が見られる。特に長瀬地籍、贄川農集終末処理場付近の河床上昇が著しいので早急な対策を講ずること、水辺公園付近の木工沈床がかなり破損している、それぞれ早急な対策を講ずることが必要であると考える。

山また山の楢川地区で暮らし、自然の美しさ、優しさ、素晴らしさを満喫しながら日々を過ごしてきたが、急峻な山間地域に暮らす上で大切なこ

とは、自然と常に対話し、その実情を良く理解し、ご機嫌を伺いながら仲良く暮らしていくことが重要であると、改めて感じた今度の災害であった。

〔引用文章〕
上伊那シンポジウム
「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年二月七日
於辰野町民会館

被災者の身になって泥まみれになりながら、黙々と作業している姿を目の当たりにし本当に頭が下がる思いでした



岡谷市社会福祉協議会 会長
大槻 明

冒頭に、昨年の豪雨災害により亡くなられた八名の方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されました多くの方々にお見舞い申し上げます。

この度の災害に対する岡谷市災害救援ボランティアセンターの責任者という立場で、お話をさせていただきました。

岡谷市からの要請に基づき、七月十九日に岡谷市社会福祉協議会として岡谷市災害救援ボランティアセンターを設置し、その後二十四日間に渡り多くの救援物資の受入れや、延べ六、四〇〇名におよぶボランティアの皆様

受入れと現地への配置などを行ってきました。

ボランティア活動は、行政で対応しきれない被災地での泥の除去や清掃などを主に、個人の要望に対して、公平かつ平等に活動することが大きな役割と考えて活動してきました。

ボランティア活動が、地域の早期復興に大きな役割を果たしてきたことは言うまでもありませんが、ボランティアとして参加した人が、その活動を通して人のために奉仕することの尊さを学ぶなど、教育にも生かされる場面もあったと感じています。被災者の身になって泥まみれになりながら、黙々と作業している姿を目の当たりにし本当に頭が下がる思いでありました。

また、ボランティア活動は土砂撤去や清掃だけではなく、現地作業のため参加される方の送迎や安心して作業に取り組めるような体制づくり、救援

物資の受付など、被災地には行かない仕事も多くあります。

このようなボランティアの活動は、岡谷市社会福祉協議会で作成した「災害救援ボランティアセンター設置運営の手引き」に従い進められました。センターの運営については訓練を行ってきたにもかかわらず、マニュアルどおりに機能することはできず、現実に合わせながら運営していかねばならぬことを学ばせていただきました。

この手引きにおいては、総務係、ニーズ係、ボランティア受付係等、約十の係を想定していますが、特に重要となるニーズ係は、被災された方々に「今、何が必要なのか」、「ボランティアが何人欲しいのか」といったニーズを把握する役割を担っています。

この被災者のニーズを的確に把握することは大変なことでありますが、地区の状況に詳しい区長さんに取りまとめをしていただき、現地の危険状況等についてもお知らせいただくなどの多岐にわたるご協力をいただきました。同様に、地区社会福祉協議会の方々からも現地の状況を連絡いただくなど、地区に精通されている方々の「生の情報」が大変役に立ち感謝申し上げますところとです。

災害救援ボランティア本部の運営は、様々な分野の知識をお持ちの方や実際の災害で経験を積まれた方にボランティアとして協力をいただきながら、運営がスムーズ行われるよう、力と知恵を出し合い、話し合いのなかで進め

られました。毎日、活動後に話し合いを繰り返すなかで、マニュアルを修正しながら活動してきました。例えば、隣地区へのサテライトセンターの設置は、その地区の被災の事情を考えながら的確な対応を可能にするために、話し合いで決定し設置したものです。

今回の災害を経験するなかで、ボランティアセンターのあり方については手引書の内容も含め見直す必要があると考えています。センターの運営は、ボランティアとして参加する側と受ける側の意図するものが最大限反映されることが重要であり、そのうえでスムーズな運営ができるよう日ごろから運営訓練や研修を行うとともに、ボランティア意識のさらなる啓発を進めていく必要があると思います。

今後、岡谷市はもとより岡谷市以外に災害が発生した時に、どのようなボランティア活動やボランティアとしての参加・協力ができるか、かつてない災害を体験したまちとして、今回の災害を経験し学んだことの真価が問われることになるのではないのでしょうか。

〈引用文章〉

岡谷市安全市民大会 講演

平成十八年九月二十八日

於：カノラホール

人が一つになれば こんなにも大きな力になる



長野県救急医療専門学校
救急救命士学科一期生
青木 航志

平成十八年七月に諏訪地方で起きた豪雨災害で、被害が甚大なものとなりました。今回あらためて災害は人事ではないことを実体験させられました。たしかに地震だけでなく、水害の危険性も考えられ対策がなされてきていましたが、今回のような被害が出る予測できたでしょうか。

慣れ親しんだ地域が大きく変わってしまった姿を見た際、何も考えることができませんでした。以前から地震対策に興味を持ち、東京の災害救援ボランティア推進委員会にて、講義及び訓練に参加し勉強を行ってきました。今思えば助ける側という意志が強く、諏訪地域が助けられる側になるとは考えられませんでした。今回体験することになり、被災地域の住民と、災害ボランティアとして活動する二つを同時に体験することになりました。

今夏の災害を通して大きく感じたこと。今回諏訪地方で起きた豪雨災

害はたしかに被害は甚大なものでありましたが、しかし、被害が局地的であったことも事実です。災害が起こり、災害ボランティアをするなかで被災した住民と、それ意外の住民との今回の水害に対する感じ方が大きく違うことを自分自身で体験することになりました。自宅での被害は生活に多少の不便を感じたこと、自宅前の河川の増水に恐怖を味わうことでした。今回災害ボランティアを行っていないければ、諏訪地方の被害を実際に見て感じることはありませんでした。

現在、長野県救急医療専門学校で救急救命士の番隊を行う学生ですが、豪雨災害が起こったのが学校の長期休暇と重なったため、長期的に活動に参加していません。災害が起きる前に下諏訪では、災害ボランティアの会があり、活動に参加していましたが、やはり実際の災害では訓練とは違う緊張感があり、戸惑うことばかりでした。大半の活動場所は下諏訪でしたが、落ち着いてから岡谷でも活動を行い、二箇所地域で活動を行いました。被害の規模もですが、ボランティアの人数の違いに驚きを感じました。岡谷では全国各地から多くのボランティアの方が来ていましたが、下諏訪では

地元のボランティアがほとんどであり、災害ボランティアの人数も少数での活動でした。

岡谷と下諏訪では同じ降雨災害の被災地域でも大きく異なることが点が多くあります。しかし、そのなかで共通であったのは、被災者の辛さ、そして助けようとする人たち、そして人の温もりでした。通常では感じることもできない人との繋がりを知りました。人が一つになればこんなにも大きな力になるんだと。多くの方の力があつたからこそ豪雨災害の復興の一区切りが早くできたと思っています。

豪雨災害での被害についての対策は

探っていました。今回の水害での被害は、予想もしていなかったところからの氾濫、被害でした。今回の被害は諏訪地域のみなならず、多くの地域でも起こりうる災害であると思います。災害は対岸の火事ではない。今回の教訓です。そしてどんなに準備していても準備し過ぎるということはありません。今回の災害を活かし、いつかまた来る災害の際に冷静に対応できるように訓練を怠らず、そして、災害の恐ろしさ、災害への備えを今後いつまでも伝えていかなければなりません。諏訪地域に住む者として、いつまでも忘れないでいきます。

平成十八年豪雨災害に伴う災害派遣について



第十三普通科連隊
第一中隊長 三等陸佐
矢花 光博

はじめに、このたびの豪雨災害により尊い命を失われた御家族、また、被害を受けた地域の方々にお見舞い申し上げます。

松本市に駐屯します第十三普通科

連隊は、平成十八年七月十七日から豪雨を受け、十八日より豪雨に対する情報収集体制を強化して災害派遣要請に備え偵察部隊及び初動対処部隊を呼集し災害派遣の準備を実施しておりました。

十九日六時十九分、県知事からの災害派遣要請により直ちに県庁及び岡谷市への連絡員の派遣、被災地域への偵察部隊及び初動対処部隊を派遣して迅速な初動対処を実施し、七月

二十九日までの十二日間にわたる災害派遣に第十三普通科連隊長をはじめ松本駐屯地所在の第三〇六施設隊、新潟県に所在する第二普通科連隊、第三〇普通科連隊等延べ二、六二二名の隊員が岡谷市及び辰野町に展開して活動を実施し、民生及び民心の安定に寄与することができました。

私は岡谷市湊地区の現地指揮官として捜索活動にあたりましたが、その活動間、行方不明者を一刻も早く捜し出すために岡谷市職員、消防署、消防団、警察等各機関の方々が現地及び対策本部において献身的に努力する姿は今でも印象に残っています。

また、今回の捜索活動は捜索する者にも危険が伴い、天候の悪化等によりいつ土砂崩れが再発するか不安な状況のなかでの活動であったため、捜索活動の安全化を図るため、センサー、サイレン、監視カメラの設置、監視員の配置、さらに捜索開始前の緊張感を持った避難訓練の実施により、捜索活動参加機関全体での二次災害を防止するための徹底した安全対策が確立できたことも大きな成果であり、これにより本捜索活動が無事終了できたものと考えます。

これまで各関係機関と防災訓練、会議等により連携強化を図ってきたところでありますが、今回の災害派遣において各機関の活動能力等をより相互理解でき、今後の円滑な災害対処活動につながるものと確信しました。自衛隊としては、被害が予想される

豪雨、豪雪等に対しては早期から情報収集に努め、各関係機関への連絡員の派遣、被害が予想される地域への偵察部隊及び初動対処部隊の派遣準備を実施し、県知事からの要請があった場合は速やかに同部隊を派遣して早期に現場作業の下地を作り、主力部隊を投入できるよう態勢を確立しておきます。各関係機関に自衛隊の態勢をご理解していただき、我々も今回の災害派遣における数々の教訓を今後の訓練に反映するとともに、防災関係機関との連携の強化を図りたいと思います。

我々松本自衛隊といたしましては、今後とも地域に貢献し地域から信頼される部隊を目指してまいります。

おわりに、災害派遣活動の際、出動隊員に励ましの言葉や差し入れ等していただいたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

慌ただしく困難を極めた

土砂崩壊現場での警戒・搜索活動



辰野消防署予防係長

林 国久

辰野町、小野中村地区で発生をしました土砂崩壊によります行方不明者の搜索活動につきまして、時間を追いつながり、消防の立場として記述してまいります。

平成十八年七月十九日水曜日二〇時十四分に土砂崩れがあり、住宅二棟が土砂に埋まり、女性一名が行方不明との二九番通報がありました。署員五名にて出動をしました。このときには、消防署の職員は、町内各地の水害箇所を警戒、また、岡谷市では、湊地区で発生をしました土砂崩壊現場に岡谷消防署の職員が全員出動していましたが、たまたま岡谷市内で火災が発生しており、岡谷消防署から応援出動の要請を受け、出動をしていた、というような状況下で、一時出動は消防署員五名の出動でした。

国道153号徳本水地籍が崩壊をしておりましたので、消防署の車輛で移動しまして、五・六箇所徒歩で渡り、警

戒中の消防団員に連絡し、途中から消防団の車輛により中村の現場へ向かいました。二〇時四五分現場に到着しましたが、現場にはすでに住民の皆さんが三〇人ほど集まっておられ、その中におりました崩壊した住宅所有者の方に状況を伺ったところ、奥さんの所在が不明であることを確認しました。

また、土砂崩落時、奥さんがどこにいたのかとお聞きすると、「住宅内の居間か寝室にいたのではないか。」というような内容の返答でした。このために、崩壊した家屋内の搜索を実施することとし、家屋を確認しましたら、家屋の北側に土砂と流木が三分の二ほど家屋の中に入っており、家屋は土砂と流木の圧力で三メートルぐらい南側に移動していることが確認できました。また、南側に傾いており、署員が入つての、救助活動は危険であると判断されたため、現場にいました小野区長に建築業者の手配を依頼しまして、建築業者三名が補強材により安全確保をされた後、家屋内の搜索を開始しました。

作業は署員と現場にいた消防団員を二班に分け、手作業での搜索では家

屋内から発見することができませんでした。このために、重機による土砂搬出の判断をし、小野区長に重機の手配を依頼しまして、二台の重機により、家屋を解体、土砂搬出をしながら搜索を実施しました。

また、二次災害防止のために、署員二名を崩落箇所の警戒に当たらせました。二時三〇分、町の派遣要請を受けた自衛隊の方々三十二名、また、災害出動の警察官四十五名が現場に到着しました。

その後の聞き取りなどから、行方不明者は土砂崩落の前に親戚宅に北側にある牛小屋に水が入って困るというような電話をしたとの情報から、行方不明者は牛小屋付近にいた可能性が推測されましたので、自衛隊・警察には、牛小屋が流された付近の搜索を実施して頂きました。

二十二時、自衛隊、警察、消防の代表者が集まりまして、夜間の搜索態勢につきまして協議をしました。七班、自衛隊三班、警察二班、消防二班に分け、活動することとしました。ひとつの班が二〇分間、重機とともに活動し、二時間休憩、というシフトで朝までの搜索を決定したのです。

七月二〇日八時の協議により、在宅跡の搜索を実施することを決定しました。この日の出動人員につきまして、自衛隊が二十五名、警察二十三名、消防団二十七名、消防署九名、町職員五名となりました。

十三時、消防署員、消防団員にて、

伊那建設事務所の指導により、二次災害防止のための崩落箇所のシート張り、崩落箇所の水抜きのための排水溝の設置をしました。また、再度の崩落に備え、崩落箇所への警戒人員を四名に増員しました。

この日は特に二次災害を防止するため、伊那建設事務所により崩落箇所の伸縮計、崩壊した住宅付近への警報器が設置されました。また、同事務所からの指導のもとで、現場で搜索活動に当たっている重機の運転者、自衛隊、警察、消防の全員参加により、再度の土砂災害に備えた、避難訓練も実施して、十九時に搜索を一旦終了しております。

翌七月二十一日は七時半に各代表者が集合し、家屋を解体した廢材をトラックにて搬送しながらの搜索を決定しました。この日の出動人員につきましては、自衛隊が二十名、警察二十二名、消防団二十二名、消防署九名、町職員六名という出動でした。

この日もまた、二次災害に備えて、崩落箇所には、四名が警戒をしておりました。十五時三十五分に町の災害対策本部から徹夜での搜索指示がありまして、自衛隊、警察、消防の協議によりまして、夜間はこの廢材の撤去、排出が困難なために、十六時から、下段の煙の搜索に切り替えることと決定しました。

そして、十七時二十七分、下段の搜索中に離れの東側の付近の土手際で行方不明者を発見することができま

した。発見された現場から判断をしますと、住宅の外にいたか、または土砂崩落に気付き、外に逃げ出したかわかりませんが、屋外において、土砂に巻き込まれたものと思われました。

最後になりましたけれども、この災害でお亡くなりになった故人のご冥福を心からお祈りし、また、捜索活動に

ご協力、ご支援を頂きました建設業者の皆様、小野区と小野区の大勢の住民の皆様へ感謝を申し上げます。
〔引用文章〕

上伊那シンポジウム

「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年二月七日

於・辰野町民会館

「平成十八年七月豪雨災害“その時地域で”」 伊那警察署管内における主な災害の認知と対応



伊那警察署警備課
小林 定雄

十八年七月豪雨におきまして、上伊那地区を始めとして県下で多くの尊い人命と、住家及び生活的被害をこうむられた方にお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、災害警備期間中、派遣先機関、災害現場などにおきまして警察活動にご理解とご協力をいただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

さて、七月豪雨、伊那警察署管内では何が起ったのか？であります。

七月十七日、午前八時二十三分、気

象台から上伊那など県下各地に大雨洪水警報が発表となり、警察署長の指揮により「伊那警察署・災害警備連絡室」を設置し警戒態勢に入りました。

十八日の夕刻あたりから土砂崩落の報告が何件かなされ、災害発生の具体的危険性が高まったことから「連絡室」を「災害警備本部」に移行するとともに、市町村への要員の派遣、全署員の招集を行い天竜川流域、危険区域における警戒、自主避難地域の重点パトロールと広報の一部の幹線道路における交通規制を開始しました。

十九日の未明から「伊那市柳沢地区における土石流発生」、「箕輪町北小河内地区に土石流・負傷者有り」、「天竜川松島地区右岸の堤防の決壊」

など、三十件余りが相次いで報告されました。これに対して、十九日から二十日までの間は、二次災害の防止に併せ、天竜川流域の避難指示、警告地域の警戒、箕輪町松島地区での堤防決壊現場復旧作業の迂回規制、誘導、箕輪町北小河内地区における警戒等、二十四時間体制、最大動員での対応をとっております。

そんな中の七月二十日、十五時頃「伊那市高遠町松倉地籍の山が動いている」との報告が駐在所から入りました。

県消防防災課の防災ヘリにより、目視調査を行なった結果、山の中腹の木立が重なり合っている状況を確認することが出来、東側の沢筋は、既に頂上付近から崩落し土石流となっており、川左岸の樹林帯で止まっております。

高遠町総合支所において対策会議が開かれ、下流地区の自主避難、重点は高齢者・要援護者など、消防幹部による徹宵・警戒が決定されました。

これを受け、警察でも直ちに徹宵・流動警戒要員を配置に付けるとともに、発生に備えて部隊の派遣要請、交通規制の打合せ、警戒区域設定の検討に入りました。

翌二十一日、警察署長指揮により警察部隊も現地入りし、危険箇所の警戒及び調査情報収集に当たりました。現地に入り、間近に斜面を見て、「山が動いているというのは本当なのか」と内心思いました。

しかし、現実に木々の枝が、葉が微動し、時には大きな範囲でゆさゆさと

動く様を見て、これが本当に落ちたらどうなるのかと思ったのが当時の実感でありました。当日は、信州大学の先生等による現地診断の結果と市対策会議の討議を経て避難指示が発令され、これに併せるように警察におきましても国道152号の交通規制を開始し、夜間は、応援部隊と当署員の二十名による危険箇所への警戒、交通規制、避難地区における警戒パトロール、女性警察官によるアルプスエンジェルズ隊を編成し、避難者に対する不安の解消を図りました。

当地区では災害の発生、犯罪や事故の発生も無く終息を迎えることが出来たとしたところでした。

十八年七月豪雨、各地区に大きな災害の爪あとを残しました。

伊那警察署管内では二十六日の最終避難勧告が解除されるまでの十日間、人命尊重を第一として関係機関と連携した活動をすると共に、一般治安についても住民不安が生じないよう活動を進めてまいりました。

しかしながら、今回のように大きな災害が、各方面で二度に発生した場合、決して多くない署員をどのように配置していくのか、また、交通規制について如何にすべきかなどが、今後の課題として残った七月豪雨でした。

〔引用文章〕
上伊那シンポジウム

「平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害」平成十九年二月七日
於・辰野町民会館

●平成十八年七月豪雨土石流災害検討委員会より 災害調査は計画的できめ細かい注意が必要で 何回行っても見落としがある。



平成十八年七月豪雨土石流災害
検討委員会委員長
北澤 秋司

長野県は九月「平成十八年七月豪雨土石流災害検討委員会」を立ち上げた。委員の協力と事務局の努力で最終報告がまとめられた。

私が大雨を経験した中で今回の大雨は最大であった。私のように天竜川の沿線に住む者にとつては、大雨では氾濫することを想定する。そして土石流は山間地の住民が経験するものと思われている。今回の大雨は密集した平和で近代的な集落を襲った。およそ土石流が襲うなどと誰もが想像しない場所であった。災害履歴がない集落であり、古老の中に土石流の経験者はいなかった。

私の大学での専攻は治山・砂防学であるけれども、研究生活に入ったのはいわゆる三六災の経験後である。昭和三十六年六月二十七日早朝大雨の中を登校してきた中学生を目の前にして、ただならぬ大雨に災害の予感があった。この子供たちを無事家に帰すこ

とを直ちに考えなければ、普段の通学路はもはや通れまい、であれば尾根道を帰すべきである。帰る場所は家ではなく集落の公民館である。八時五分には帰る準備ができ無事帰ることを祈りながら子供たちを送り出した。

その後、先生たちは自分の住宅を見回ることになり、私も自宅に帰った。川の水はみるみる増水し激しい石礫の摩擦音と大雨の音が不気味であった。家についてしばらくすると上の集落に帰っているはずの生徒がひとり私の住宅の道下に歩いてきて有線を拝借といった。水田の水を見るように言いつけられた生徒は呆然としていた。私は何故そこにいるのだおまえの家には帰れないではないか、と叫んだとたん彼の家の上空に土砂が舞い上がるのを目撃し、彼の手を取って引き寄せた。瞬間目の前を土石流が通過したのである。恐ろしい風圧を感じながら驚きと興奮で言葉が出なかった。その後、近辺の住宅の先生たち家族を誘って中学校に避難した。ここでもいくつかの土石流を目撃し、学校区では八名が犠牲となった。幸い生徒には大けがをした一名を除けば命を失った者はいなかった。災害前までには学区の地形・地質

防災上の予測図等の作成が完了していた。大雨の結果かなりの被害が出ることは調査後の資料で容易に予測ができていた。しかし、現実の災害に直面して自分の想像以上の被害に吃驚仰天した。

委員会では現地調査を踏まえて、土石流の原因、防災対策の基本施策、警戒避難体制の確立について議論した。自然災害との付き合い方を考える、自然災害と人間生活は古くから関わりが深く、災害として迷惑がられる存在である一方、人々の生活を支えてきた側面もある。たとえば、地すべりが発生した土地は、周囲の土地に比較して、なだらかで土壌が攪拌されているので柔らかく農耕に適している。このような住みやすい地形、生産性の高い土地となっている。地すべりが発生すると粘土層ができて、水を通し難く保水力に優れているので、水田に適していることや湧水の利用が可能となる。緩斜地は棚田や果樹園の間に樹林帯があつて、風衝になると共に燃料、用材、休養林ともなり、すばらしい景観となっている。地表が自然現象で改変するいわゆる浸食現象は、人との関わりでそれが災害になるが、地形形成の一過程にすぎない。

わが国における社会経済の発展が、豊かな生活の代償にひずみをもたらした。開発と環境、資源活用と資源の保護は、相矛盾している。これらを調整あるいは調和させなければならぬ大変難しい時代を迎えている。

この災害の特性として時間雨量の多寡ではなく二雨の長さや総雨量の大きさが挙げられる一方、災害地が谷底平野、扇状地形における崩積土が集積しやすい溪流、凹地、古い地すべり地形、崖壁に集中して発生した。また、これらの土地には人工林があり流木化した。わが国のように梅雨、台風と年中行事のように発生する災害を減殺するためには、詳細な調査に基づく計画的な防災対策によらなければならぬ。国民の要請を待つまでもなく、整備目標を定め整備水準の検討によつて、緊急性、重要性における優先順位で防災対策工事をすべきである。

常識論の範囲を出ませんが



平成18年7月豪雨土石流災害
検討委員会委員

只木 良也

私は、土石流に関しては素人ですが、森林との絡みの問題があるので、当委員会に加えられました。森林の効用として一般的な常識論を中心に、感想を書かせていただきます。

森林が土壌の浸食や崩壊を防止する作用は、わが国の土地保全上、非常に重要なものであると言われてきました。土壌の表面侵食は、雨滴によって土壌粒子が分散し、地表流に流されることよって起こりますが、地表流は、斜面の凹部に集中し、その侵食が進んで溝が成長し、土砂の崩落を引き起こすものになります。この斜面に森林があると、水浸透能の大きい団粒構造の土壌が発達するので、地表流は相対的に少なくなり、斜面の荒廃が防がれます。

森林が、直接崩落を防止する作用として、根系が発達して、土壌のせん断抵抗を大きくし、また、根系の絡み

合いが土壌を強く緊縛すること、さらに直根は地中深くまで伸張して固い土層に食い込むこと、などが挙げられます。すなわち、根系のネットワークが土に網を被せたように、直根はそれに杭を打ったように働くわけです。また、斜面下方の森林は、上方で崩壊があった場合、崩落してきた土石の障害物となつて、溪流への流下を妨げる効果もあると考えられています。

これらは、土砂崩落に対する森林のプラス効果ですが、森林のマイナス作用も考えられます。一つは、森林は落葉等の分解・混入によって、浸透力の大きい土壌(団粒構造)を形成することです。これは水源涵養に貢献することなのですが、土中水分含量を増して、せん断抵抗を小さくすることでもあります。また、強風によって樹木は揺れ、土の凝集力を小さくし、また風倒は斜面崩壊の原因となること、さらに、そこに生育する樹木の重量が、土壌の重量に加算され、重心も高くなつて、土壌崩壊を起こりやすくなる、ことなどです。

しかし、浸透力の大きい土壌では、それだけ地表流下水量は少なくなるので、表面浸食や浸食溝の形成が防が

れていることとなります。また、樹木の重量は、土壌の重量に比べて桁違いに小さいものであつて、荷重原因としての関与は相対的に小さいものです。

以上を総合すれば、森林の地下部には崩壊防止の能力があることは間違いありません。

しかし、斜面の崩壊に関しては、集中豪雨や長雨、場合によっては雪解け水、によって、斜面の土石の塊が不安定になり、せん断抵抗が低下したり、地中の不透水層の上を流れる水が、土層間あるいは土層と岩層との摩擦抵抗を少なくして崩れ落ちるのが、一般によく見られるものです。今回の土石流災害も、これによるものと考えられます。

この崩壊に対しては、森林は無効です。根系の分布範囲の外側の出来事だからです。今回の災害も同じです。しかし、「今回の土石流災害に関して森林は無効」ではありません。極端な言い方をすれば、今回土砂崩壊を起こしたところ以外の広い範囲で、森林の根系はそれより表層に起こったかもしれない崩壊を阻止してくれたのです。根系の能力について、直根が発達するアカマツ天然生林が、カラマツ人工林よりも優れているのは事実でしょう。しかし、その差は桁違いというほどではありません。当該地域に多いカラマツ人工林も、適切に間伐し、根系の発達を促すことで、より大きな効果は期待できます。立木密度の過密による生育不良の影響は、地上部よりも

地下部に大きく顕われるのが、密度効果の通例です。小田井沢川中流での約五十年生カラマツ造林木の年輪を観察したところ、十五〜二十年生までの肥大成長は良く、それ以降最近までの成長は逐次悪くなっていました。これは間伐手遅れによる人工林の過密化の特徴です。

このカラマツ林が約五十年生であるということ、拡大造林期当初(昭和三十年ころ)あるいはそれよりも古い植栽であることを物語り、昭和五十年以降、間伐等の管理不行き届きとなったものと思われまふ。しかし、「一般によく言われる「人工林で災害が多い」という非難は、今回はとくに指摘するに当たらないと感じています。それは、上述のとおり、根域より深いところの不透水層等からの滑落であるからです。

今回の土石流災害は、当該箇所では「過去に例が無い」というような表現が使われますが、それは「記録・記憶が無い」だけで、沢の出口の扇状地形から見ても、過去に土石流があったことは明らかと思われまふ。また、小田井沢川下流で消失した神社、同川本流左岸の祭壇、志平川崩壊沢出口対岸の鳥居、横河川左支川土石流左岸の宮司神社など、今回の土石流現場には祭司の箇所が多く見られました。これらは、過去に類似の災害があり、後にその跡に祈りを捧げるために設けられたものではないかと、思えてならないのです。

なお、横河川左支川の宮司神社は、

二〇〇七年九月豪雨が残したものの



平成18年7月豪雨土石流災害
検討委員会委員
平松 晋也

平成十八年七月、十五日から十九日にかけて降り続いた豪雨により岡谷市周辺では崩壊や土石流が多発し、甚大な土砂災害が発生した。災害直後より関係各機関により様々な調査が実施され、今回の土砂災害の実態やその原因が明らかにされつつある。筆者もそのメンバーのひとりとして現地に入ったわけであるが、数回にわたる調査の結果見えてきた今回の災害の

お社は小さいが、御柱を備えた由緒正しそうなお社で、かつては沢沿いにあるたものを現在の位置に移転したものと聞きました。それが、過去の災害と関係していたかどうかは不明ですが。お社背後の、その中で崩壊が起こった森林は、スギが多く神社の森としての荘重な雰囲気を感じました。

私は、森林が専門ですが、森林を整備すれば、ダムなどのハードウェアは無し、森林が専門ですが、森林を整備すれば、ダムなどのハードウェアは無し、用とは決して申しません。それでは、森林におんぶし過ぎて、森林が可哀想だからです。広域は森林で、要所はダムで、といった分担・協力体制というのが以前からの主張です。今回、下流に老人ホームと病院を配した、ヒライシ沢砂防堰堤(平成十六年完工)が、見事に土石流を食い止め、満砂になった状況を目の当たりにして、ますますその感を強くしました。

特徴は、「多量の水を含み細粒土砂を主体とした土石流であったため、流動性が高かった(流下距離が長くなった)。」や「土石流中には土砂だけではなく、多量の流木が含まれていたため、被害が拡大した。」といった多方面より指摘されている周知の事実を除くと、以下の四項目に集約されよう。

① 連続雨量が四百ミリ以上と、この地域での一連の降雨量としては未曾有の豪雨であった

② 土砂災害の空白域で多くの崩壊や土石流が発生した

③ 森林の保水能力(限界を上回る降雨であったため、崩壊や土石流が発生した)

④ 水防活動中に被災した事例やそこが溪流である事実すら認識していない住民もみられた。

特に、過去百数十年間土砂災害(土砂移動)の経験の無い、いわゆる土砂災害の空白域で崩壊や土石流が多発し、地域に多大な被害をもたらしたという事実(②)や、雨が降り続く中、水防活動中に被災したという事実(④)は注目に値しよう。実は、これらの二つの事実は相互に関連しあっているのではなからうか。この数十年間土砂災害が発生していなかったが故にすっきり安心して、土砂災害など想像もしていなかったといった事実も、今回のような痛ましい結果を招いた一因と推察される。しかしながら、今回の災害現場を調査してみると、どの溪流も過去百年以上前に発生したであろう崩壊の痕跡や土石流の堆積物が確認されている。この事実から、「ここ数十年もしくは生まれ、この方土砂災害が発生していないからといって安心してると、痛い目を見ることになる。安心は禁物」という教訓が得られよう。要は、崩壊や土石流によって土砂が生産・流出しないと、時間の経過とともに岩石の風化が進み、不安定な土砂が増大するため斜面や流域の土砂災害発生ポテンシャルは年々増加しているということである。人間で例えると、ストレスは適度なところでしばしば発散させてやらないと、心も体もはるばるになり、やがては重大な疾病につながるといった事項と同様であろう。

また、降雨量に着目すると、崩壊や土石流の主たる発生原因となることが知られている短時間降雨強度はせいぜい三十ミリ/時とこの地域では二三年前に二回起こる程度の規模であった。では、なぜ今回に限って土砂災害が発生したのであるか? これまでの雨の降り方と違うのは、連続雨量が四百ミリ以上とこの地域では百〜百五十年に二回しか起こらないほどの未曾有の降雨であったという事実である(①)。

岡谷市周辺の山腹斜面を構成するのは、短時間降雨強度に支配されて崩壊や土石流が発生する花崗岩などと比較して極端に透水性が悪い(保水性が高い)とされるローム質土壌である。この雨の降り方と斜面を構成する土壌との相性(の悪さ?)が、今回の崩壊や土石流の要因の一つとして挙げられよう。すなわち、この地域にとつて降ってはならないパターンの降雨がもたらされた結果、崩壊や土石流が発生してしまったと推察される。

一般に、森林は土砂災害に対しては抑制効果があることが知られている。これはもともと名話である。しかしながら、今回の豪雨により土石流が発生し、甚大な土砂災害を被った岡谷市周辺の森林状況(地被状況)の変遷を眺めると、終戦直後の昭和二十年代には裸地や崩壊地が多数見られたものの、その後の時間経過とともに森林が回復しているといった事実が確認された。さらに、多くの崩壊は根系の伸長深より深い位置で発生していることも

明らかになった。これらの事実から、森林といえども万能ではなく、その限界以上の外力(例えば降雨)が働くと崩壊や土石流は発生してしまうことがわかる(③)。これらの事実より、土砂災害に強い街づくりを行うためには、森林整備は当然のことながら、その機能に全てをゆだねることなく(森林(植生)は生き物であり不確実性が内在するため、あくまでも災害防止上の補助的対策と認識しておくのが肝要、

平成十八年七月豪雨災害について

砂防施設によるハード対策と土砂災害に対する警戒避難体制を整備するソフト対策を基本としていく必要性が示唆されよう。
最後に、今回明らかになった様々な教訓を、単に悲惨な土砂災害であったという事実認識に終わらせることなく、今後の土砂災害に備えて有機的に活用することにより、減災に努める必要性を強調してまとめたい。



諏訪建設事務所長
平沢 清

既往最大連続雨量が記録されている昭和五十八年九月の台風一〇号では釜口水門観測所四十七時間一八九・五ミリに対し、今回の平成十八年七月豪雨では釜口水門観測所五十七時間四〇〇ミリ(二倍)と記録を更新している。特に岡谷市湊から川岸地区にかけては未曾有の豪雨となった。市制七〇周年を迎えた岡谷市ではかつて風水害での人的被害は無く、特に湊地

区西山地域は風水害には無縁の地域と信じられていたようだ。

十八日午後から諏訪湖周辺で発生し始めた浸水被害や釜口水門操作関係並びに平成十八年七月大雨対策本部員会議対応に追われている最中、早朝四時半頃、湊地区で土石流発生情報があり、五時半頃現地に向き、建物火災一軒と県道まで達している土石流・泥流の末端部状況を確認した。

土石流としては決して大きいものとはいえないが、結果的に岡谷市湊から川岸地区にかけて同時多発的に発生した土石流により、八名もの尊い人命が失われたことは、痛恨の極みである。心からご冥福をお祈り申し上げます。

ます。

災害発生直後からの国、特に砂防部及び土木研究所の現場調査対応は極めて迅速であり、災害関連緊急砂防事業等の採択までの国の対応は未だかつて無い早さであった。

地元建設業者やコンサルタントのご支援により早期に緊急対策の土石流センサー設置や大型土嚢設置並びに迅速な現場調査体制ができた。

災害関連緊急砂防事業は被災地の区長をはじめ地域地権者の大変な協力を得るなか、起工承諾書をいただきながらの早期工事発注ができ、十二月一日には最初の起工式を行うことができ、地域住民の民生安定に大きく寄

与したと思われる。

ここに、関係する国、特に砂防部及び土木研究所、地元建設業者やコンサルタント、被災地の区長をはじめ地権者、市町村職員の皆様にご心からのお礼を申し上げます。

また今回の災害発生直後からの国、土木研究所、県砂防課及び建設事務所技術職員派遣は非常に有効に機能した。今後の大規模災害等での対応の重要な指針となると思われる。

今後、ハードソフト両面での土石流災害対応をより充実させていきたい。特に、土砂新法による警戒区域指定を早期に実施していく必要がある。

平成十八年七月豪雨と上伊那の土砂災害

『今後の災害対応を考える』



伊那建設事務所長
(現松本建設事務所長)
松下 泰見

今回の被災を最小限とするため当初から水防や避難に対応していただきました地区消防団、業者、市町村等の皆様には厚く感謝を申し上げます。

さて、この豪雨は辰野町を中心に累計雨量が四二〇ミリに達する史上最大のものとなりました。七月十六日の昼から十九日の昼まで二〇(二〇)ミリ(時間)程度の降雨量で、ドラグラと降り続き、十九日の未明にこの地域に多

平成十八年七月豪雨災害で亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆様には深くお見舞い申し上げます。また、

くの大規模な土砂災害をもたらしました。

私をはじめ建設事務所の職員は上伊那地域に大雨・洪水注意報が発令された七月十六日から大雨注意報が解除される二十三日まで水防・防災体制を二十四時間体制で取組みました。特に、十九日以降は被災箇所職員を常駐させ、情報の収集、救出作業の安全確保の指導、地域の皆様の生体、身体を確保するため被災箇所警備装置を設置、避難所での状況説明を行いました。また、二次災害を防ぐために流下した土砂、流木の除去や緊急対策工事に早期に取り組みました。

並行して、専門家による現地調査を行うなかで、被災地区が領家変成帯の砂岩、粘板岩及び砂岩・粘板岩互層に集中しており、この地域特有の複雑な地質構造と記録的な豪雨が絡み合った恐ろしい災害であったことが指摘されました。

これまでにない降雨での災害を経験しまして、砂防ダム等のハード対策に頼るのではなく、地域と連携がとれたソフト対策が被災につながることを再認識した次第です。特に以下の二点について、地域住民との共通の認識としなければならぬと感じています。

- 土砂災害の影響を受けない安全な場所への早期避難
- 土石流の危険が予想される河川での水防活動や一般の方の増水河川や危

険箇所への立ち入りの制約、禁止

また、今後当事務所としては、災害の知識や避難等緊急対応に対して以下の取り組みを推進する所存です。

- 市町村と連携して、土砂災害警戒情報などの情報を参考に警戒避難に対する基準雨量を定めるなど、警戒避難のシステム作りを促進する。
- 土砂災害防止法による区域指定を早期に行い、地域の皆様に土砂災害危険箇所の周知を徹底する。
- 地域の住民の皆様との学習会の開

催や、避難訓練を実施し、災害時のシミュレーションを行い避難体制のチェックを行う。

最後に、災害復旧工事は三百九十五箇所(四十四億八千万円)、大規模な土砂災害は十箇所(三十四億円)内災害関連緊急砂防事業等として十六億(三千万円)に達しており、早期に完成し上伊那地域の皆様が安心、安全な社会生活を送れるように邁進します。また、この災害から得たものを活かし市町村、地域との連携を強化し災害に備えていく所存です。

岡谷市災害対策本部詰め職員の記録



長野県土木部砂防課
(現伊那建設事務所)
柳瀬 勝弘

福をお祈り申し上げます。

岡谷市小田井沢では土石流により行方不明となられた方々の捜索が続けられていました。岡谷市は、梅雨明け前であり、今も溪流上部に残っている不安定土塊がある中での作業活動というこ

とで、二次災害に対する安全対策として、作業の中止基準など、多くの不安をかかえた状況であった。このため、土石流に発生メカニズム等に精通した専門家の派遣要請が岡谷市からなされました。独立行政法人土木研究所火山

土石流グループの主任研究員である栗原淳一氏が二十四日午後から現地入りするとのことで、砂防担当の私も七月二十五日より岡谷市へ派遣されることとなりました。

岡谷市湊支所の「岡谷市災害対策現地対策本部」にて、警戒避難体制の助言等、岡谷市への支援業務などをさせていただきました。

派遣時の業務状況につきましては、二十五日栗原さんのご指導をいただき、下記のような作業中止基準等の警戒体制を整理しました。

- ・当面の作業等中止基準雨量を三十ミリ/連続、五ミリ/時間として運用し、ワイヤーセンサーなどは補助的な機器であることを関係各位に周知する。また降雨後の再開基準を最終降雨後六時間経過とし、パトロールによる安全確認を行う。
- ・監視員を配置し、前兆現象の把握に努める。
- ・雨量レーダー等初期に把握できる情報の手と情報伝達の確実性の向上などの内容について岡谷市と協議をし、その後この基準で運用していくことにしました。

さらに、二十日以降は、次のような業務を行いました。

・日々早朝、下流部での捜索活動及び作業を安全に実施するため、小田井沢上流部の溪流調査を行い、現象の変化を確認し、毎日午後四時頃から行っていた現地対策本部会議に状況について報告した。また、必要に応じて、岡谷市災害

対策本部会議にも出席しました。

・岡谷市は七月二十九～三十日の間、湊三丁目地区住民の一時帰宅を実施するにあたり、降雨のあった場合の待避基準の策定を行い岡谷市と協議しました。

・岡谷市は、湊三丁目地区のうち、八重場沢部分は七月三十一日その他は八月一日に避難勧告解除した。解除後の警戒避難のための情報提供・助言の方法・各機関の連絡体制網などの作成について助言・整理・各機関との協議を行い岡谷市の支援を行いました。

七月豪雨 く誰が為の情報



諏訪建設事務所
石田 良成

未明二時、帰宅のため湊地区を通過した時の雨の降り方は諏訪合庁を出た時のものとは明らかに違っていた。時間三十一ミリの雨……。朝五時「湊で落ちた。」との課長からの連絡で、冠水が進む道路を縫って合庁へ戻る。行方不明者が出た湊、橋原、小学校を直

以上、七月二十五日～八月三日までの十日間岡谷市に滞在し、土砂災害に関わる対応をしてまいりました。何よりも我々、土砂災害対策を実施する者として、地域の「安全・安心」を図っていかなくてはならない使命感をこの十日間で強く感じたところです。「いつかどこかで、また災害は起きる」その際は、この地で今回学んだことを活かして、いりたいと考えております。派遣時には、岡谷市の皆さんをはじめ多くの方々のお世話になりました、この紙面をお借りして、心から御礼申し上げます。

撃した上の原の被害状況を岡谷市へ問い合わせるが断片的にしか掴めない。朝から岡谷市川岸方面へ調査に出た職員は渋滞に巻き込まれたまま半日が過ぎ、テレビ報道からの情報が最も早く確実な状態。管内で同時多発的に発生した土砂災害の情報収集と報告の対応に夜半まで追われた。これが七月十九日の記憶である。

その後、岡谷市災害対策本部へ連絡要員として参加。湊地区の搜索活動が継続するなか、正面に座る市長の厳しくも静かな表情、そして緊張と

疲労が入混じった本部の空気が思い出される。本部長が判断すべき事項は、災害現場と避難住民の状況により刻々と変わる。建設事務所の対応が必要となる場面は多く、被害状況、交通規制状況に始まり、搜索活動の中止・再開の基準雨量、応急対策工事の進捗と避難勧告の解除時期、そして警戒避難体制の基準、さらに復旧計画へと求められる情報も変わっていく。連鎖的に新たな課題が浮き上がるなかで事務所の各担当者が機敏に対処してくれた。結論の先送り、それだけ復旧が遅れることに繋がり、息の抜けない日々であった。

被災地区の住民は、長引く避難生活や発災後の再三の降雨に不安を募らせており、警戒避難基準の住民説明会では、行政の初期対応と情報提供の不足を強く指摘される場面があ

った。最も情報を欲しがっているのは、行政ではなく被災住民であることに気付かされた。公助の基本は、住民の為の情報、住民の為の判断、住民の為の復旧である。

七月十九日の未明に湊地区を通過したあの時、なぜ自分は土石流の危険性に思い至らなかつたのか、未だに悔やまれてならない。今回の貴重な体験と反省を胸に刻み、地域の復興と防災対策の向上に向け、行政としての役割を果たしていかなくてはならないと強く感じている。多くの被災者の安全で安心な生活を取り戻すための仕事は、まだ始まったばかりである。

末筆ではありますが、このたびの豪雨災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました多くの皆様にご心からのお見舞いを申し上げます。

私を感じたこと そして皆様に伝えたいこと



長野県砂防課
小山 栄樹

多くの方々がお亡くなりになった今回の災害は、私にもたくさん課題（考えること）を残したように感じています。土砂災害対策に取り組み、長野県の砂防課職員として、地域の防災活動の翼を担う消防団員として……

「土砂災害対策に取り組み」に關してですが、岡谷市周辺の土石流が発生した溪流のほとんどは無施設（いわゆる整備率「ゼロ」）でした。この点について、災害発生後、「何故」との報道の皆様からの質問が毎日のように繰り返し寄せられました。

その「何故」は私自身の中にありながら、資料整理や回答の作成でしたが、溪流の勾配が極めて急峻な状況であるわけでもなく、また山々の荒廃が著しく進んでいた訳でもなく、結局、「過去に（大規模な）土砂災害が発生した例はない」との答えに行き着くのが精一杯といった感じでした。確かに施設の整備により、被害の程度は軽減できたのですが、どの場所を優先して整備していくのか、緊急度や危険度といった文言で表現される「評価」に委ねられる現実もあるわけで……。

最近、特に強く感じていますのは、「知る、知らせる」等の情報が最も速効性があると言いうことです。危険な場所、避難すべき状態、いずれも事前の情報により行動を起こすことは難しいことではなく、個の判断でも容易にできることだと思っております。

勿論、そのための私たち土砂災害対策に関わる人間達が、分かりやすい情報をタイムリーに提供するなどの、きちんとした仕事をするのが大前提になることも承知しています。

そして、皆さんに是非持つて欲しいものがあります。それは「し過ぎない」と言うことです。「過信」と表現して

も良いのですが、心も体も色々な意味で「し過ぎ」は、禁物だと感じています。多分、それは一生懸命とは違ったもので、「もしかしたら」との意識を常に持つていただくことだと思っております。

もう一つの「消防団員」としてですが、岡谷市消防団員の方の殉職には胸が痛みます。雨が降りしきる中、地域の生活を守るための出動ですが、IT化が進んだ現在も消防団活動の多くに情報の乏しさを痛感しています。「土石流」が発生するような場所に、出勤させたり、したりすることは常識的にあり得ない訳で、そこにはやはり「知る、知らせる」といった情報の共有が少なかつたことが、大きく影響しているのだろうと感じています。

また、土砂災害現象が必ずしも科学的な分析で一樣に解析できるものではなく、幾つかの条件が絡み合い、その現場独自の形態となつて現れることも少なくないことを知つて欲しいと思っております。

本誌の編集、そして平成十八年七月豪雨土石流災害検討委員会に参加させていただき、「伝える」ことの重要性を再認識しました。前述してきました「知る、知らせる」と併せて、時間軸、地域を越えて安全で安心な暮らしをおくるための情報は、広範に発信していかなくてはならないと思っております。

最後になりましたが、七月豪雨災害により亡くなられた方々のご冥福

とご遺族の方々、そして被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

座談会 平成十八年七月災害を振り返って

平成十八年七月の豪雨による土砂災害は、岡谷市で死者が八名という大きな被害をもたらしました。長野県ではどのような対応をし、何が課題となったのかを明らかにし今後の参考にするため、平成十九年三月十五日に諏訪建設事務所所長室で座談会を開催し当時の災害を振り返りました。その概要を掲載しました。

座談会の参加者は以下の通りです。

- 原 義文(土木部砂防課長)
- 柳瀬 勝弘(土木部砂防課砂防係長)
- 小山 栄樹(土木部砂防課主査)
- 平沢 清(諏訪建設事務所長)
- 藤本 清(諏訪建設事務所整備課係長)



左：原課長、右：柳瀬係長

する方もいました。今回被災した地区でも避難意識が高ければ被害が小さくなったかもしれません。

藤本係長 岡谷市では、平成十年に土砂災害危険箇所を明示したハザードマップを配布しています。しかし、住民の方々に「災害が発生するかもしれない」という意識がないと、行政が情報を発信しても受け止めていただけがない面があります。住民の方に何うと、三

原課長 今回の災害は犠牲者も多く被害が深刻なものでした。今後の参考のためにも、実際に災害時に活躍した建設事務所も含めていろいろな話をいただければと思います。

地域の特徴と住民の意識について

平沢所長 私は三十数年勤めているが、こんな災害は初めてです。水害についてはあらかじめ想定していましたが、このような土砂災害は想定していませんでした。諏訪地域は余り雨が降らないと考えられていましたが、今回の降雨では釜口水門付近では連続で四〇〇ミリ以上の雨が降りました。この地域に雨が集中したこともあり、まさに特異な状況でした。

岡谷市は土砂災害を受けたことがないと言われています。特に諏訪湖西岸の西山地域というのは災害とは無縁の地域と信じられていました。一方天竜川沿いの川岸地区は土石流ではなく、天竜川の水害を気にしていたため、避難

十年程度土砂災害が発生していないのだから、起きることはないと思っただけだということがありました。

平時においてはどうしても、最悪の事態とすることは想定しづらいものだと思います。

原課長 昭和五十八年に土砂災害で人が亡くなった諏訪市の職員の方は当時の災害のことをよく覚えていましたが、岡谷市では明治時代以降人が亡くなるような災害が無く、災害に対する意識は低かったようでした。

原課長 また、災害経験の少ない岡谷市では、豪雨時に情報が集中し、土砂災害に関する情報が水位の情報などに埋もれてしまい、うまく整理できなかったと聞いています。一方、災害経験

のある諏訪市では土砂災害の発生を想定していたため、情報の取捨選択が出来ていたようです。今後は災害を経験していない地域で情報をどう扱うかが課題と考えています。例えば、ロールプレインによる防災訓練をリアルな状況の設定を行うなどの対策が必要であると考えています。

災害時の対応について

原課長 災害発生時に県が一番困るのはどうやって情報を収集するかです。情報が欲しければ待っている駄目で、可能なら災害前から市役所等に職員を派遣するのが良い方法です。市町村としても県の専門的な職員がいることは非常に有用です。今回は砂防課の柳瀬係長を派遣しました。

柳瀬係長 岡谷市からの要請があり、七月二十五日から十日間、岡谷市湊支所に設置された現地対策本部で活動しました。当時は自衛隊、警察、消防が捜索活動を行っていました。私の一番の任務は、二次災害を防ぐため、上流の巡視と、捜索活動の中止基準に關して、岡谷市をサポートすることでした。岡谷市としても専門的な相談が出来る相手がいたのは良かったと御礼の言葉

をいただきました。また、県の技術職員である我々としても技術的な限界がある中、土木研究所の栗原上席研究員を始め、国の専門家に助言を頂いたことに感謝しています。

小山主査 私は災害当時、県の災害対



左：藤本係長、右：平沢所長

策本部への説明資料の作成、整理をしていました。県からは相当な人数が現地入りしていましたが、柳瀬係長などの技術スタッフからの情報は精度が高く、現場を見る目により情報の精度が左右されるのを痛感しました。

また、私は阪神大震災の時に危険箇所の調査に派遣されましたが、当時と比べると相当にIT化が進んでいる筈の今回も現場への移動に手間取り、現地からの「確かな情報」を得るのに時間

がかかりました。

それとIT化の弊害かも知れませんが、多くの情報に不正確なものが多く含まれている状況から、不正確なものを除いていくことに、現地を巻き込み過ぎてしまった気がします。

何かもっと工夫が必要だろうと思いませんね。

平沢所長 難しいかもしれませんが、例えば県から市町村へ、前もってどんな人員を派遣するのかが想定しておくと言いたいと思います。派遣は誰でもよいと言ふのではなく、技術的判断ができる人でなければ効果的ではありません。

災害後の対応について

平沢所長 今回の災害では災害関連緊急砂防事業が直ちに採択されたことで、地域住民の砂防事業への必要性の理解が深まりました。早期復旧に向け、県としては非常に助かりました。

柳瀬係長 八月二日に国土交通省から災関の申請書類を現地にて受け取っていただき、十一日には採択通知が来ました。非常に迅速でした。

藤本係長 現場では、国土交通省の方と、発生当日から被害範囲の現地調査を行い、七月二十一日にはコンサルタントの方に協力していただいて、警戒避難態勢の機器配置など応急対策を開

始しました。その後災害関連事業の申請、現地の地質調査、砂防施設の配置計画・設計と進め、地権者の皆様の理解もいただいた結果、早いところでは十二月一日に災害関連緊急砂防事業の起工式を行いました。現在は砂防えん堤本体のコンクリート打設が始まっています。次の七月十九日までには対策として一定の進捗を図りたいと思っています。

今後に向けて

原課長 今回の災害は、現象自体は必ずしも大きいものではありませんが、被害は非常に大きいものでした。また、水害や道路災害を含めた複合的なものでした。これらの背景を踏まえ、特に

被害が大きくなった原因と、ソフト対策の方向性を明らかにし、今後の参考にするためにも、全国の皆様にもわかりやすい形で整理する必要があると考えていました。北澤先生を委員長とする委員会を設置し、先生方に活発な議論を頂いたおかげで、年度内にまとめることが出来ました。委員会の結果は三月十九日に委員長から知事へ提言することになっています。

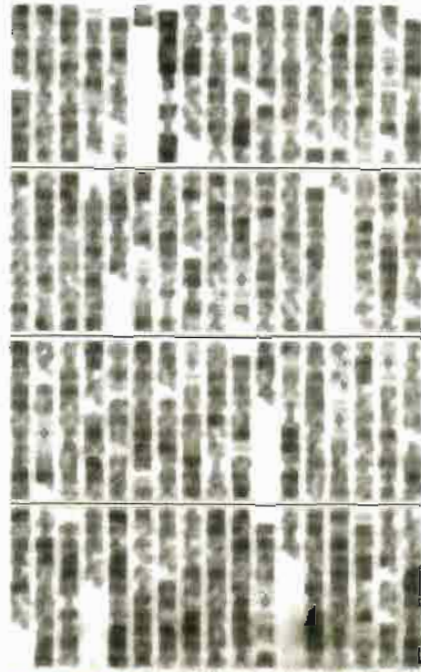
今回の災害は消防団の方も亡くなられています。消防団の方の被災は学習等により避けられる部分があり、今回の委員会の報告書は、県だけではなく全国的な教訓になると考えています。長野県でも六月に行う講習会等で役立てていく予定です。



左：柳瀬係長、右：小山主査

辰野で2遺体確認

県内豪雨の死者9人に
1800人なお避難生活



信濃毎日新聞7月24日付朝刊



避難生活を送る被災者（左）とボランティア（右）が物資を配る様子。伊那市赤羽地区の避難所。

豪雨被害

伊那市赤羽地区で、豪雨による被害が深刻化している。避難所では、ボランティアの協力が不可欠とされている。

ボランティア協力の輪

諏訪、新潟からも参加

辰野赤羽地区で一時帰宅

一時帰宅し、自宅から避難所を運び出す住民も。伊那市赤羽地区。



伊那川に大量の土砂が流れ、河床が浅くなった。伊那市赤羽地区。



サイクリング道路一部流失。伊那の三輪川沿い。



三輪川沿いにサイクリングロードが一部流失。伊那市三輪川沿い。

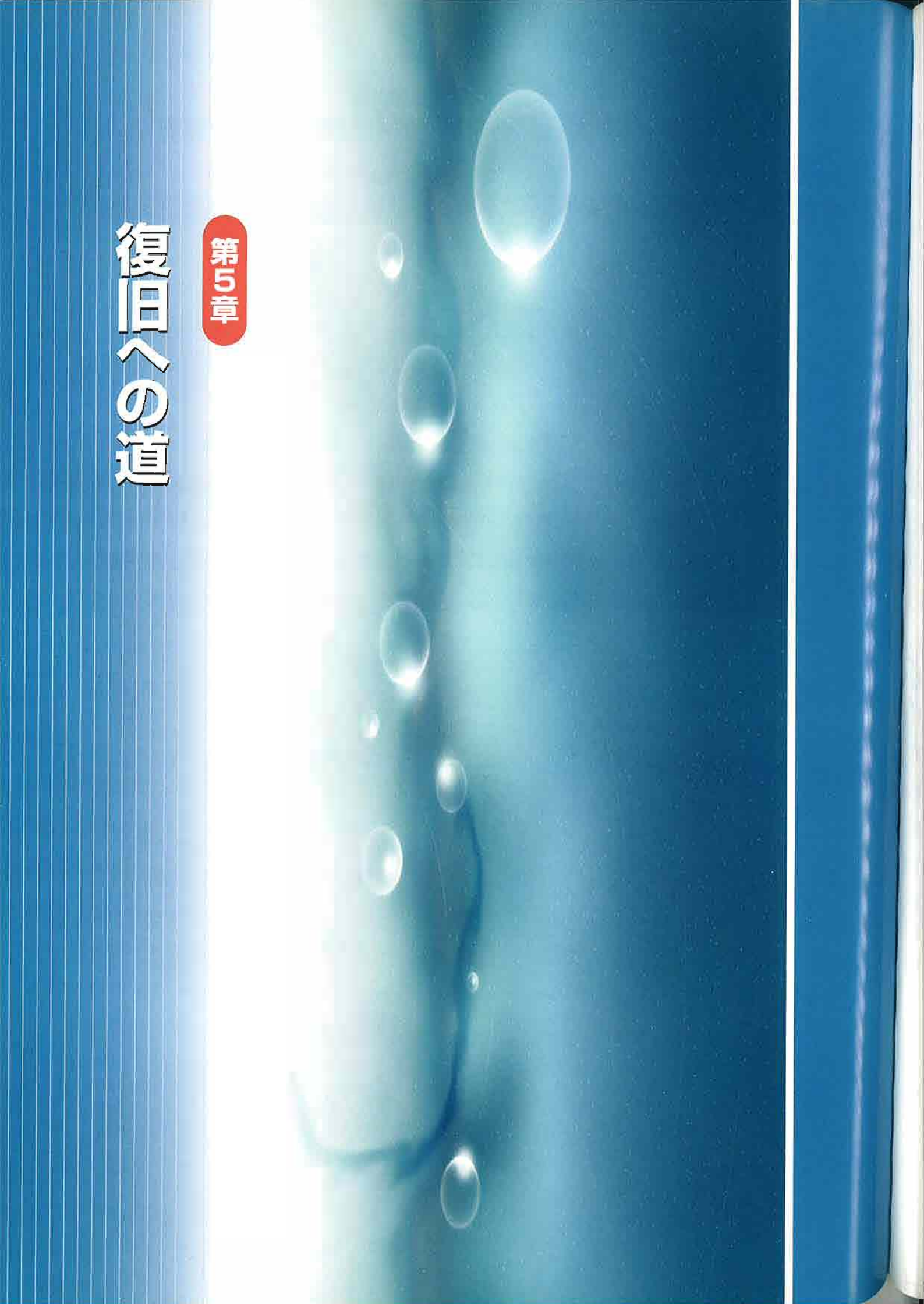


避難先の田中小学校で、避難指示の状況について岡谷市の北沢教育長（右端）の説明を聞く被災地の住民ら。21日午後8時、岡谷市田中町。

伊那の土石流10以上。伊那市赤羽地区で、豪雨による被害が深刻化している。避難所では、ボランティアの協力が不可欠とされている。

第5章

復旧への道



**平成18年7月豪雨災害
災害関連緊急事業(砂防・地すべり・急傾斜)箇所一覧表**

■砂防

(単位:百万円)

No	溪流名	市町村名	箇所名	事業費
1	前沢川	伊那市	西春近	246.4
2	中の沢	箕輪町	中村	345.7
3	小田井沢川	岡谷市	湊3丁目	801.6
4	本沢川	岡谷市	川岸鮎沢	349.5
5	志平川	岡谷市	川岸橋原	436.2
6	沢底川右支川	辰野町	赤羽	151.3
7	くすれ沢	松本市	和泉	110.8
8	中ノ沢川	諏訪市	北真志野	307.6
9	横河川左支川	岡谷市	上の原	240.3
10	八重場沢川	岡谷市	湊2丁目	187.2
11	雨沢川	辰野町	下雨沢	144.8
12	的場川	岡谷市	駒沢	445.8
13	上ノ木原沢	塩尻市	床尾	90.9
14	松倉川	伊那市	松倉上	229.1
15	賀川沢	塩尻市	折戸	323.8
16	待張川	岡谷市	川岸三沢	252.3
17	寺の沢	木祖村	藪原	115.2
18	中沢	波田町	新田	190.1
19	中村沢川	岡谷市	駒沢	170.5
20	原沢川	岡谷市	駒沢	237.8
21	たきの沢	箕輪町	たきの沢	223.8
22	矢沢川	塩尻市	下西条	142.7
23	飲み川	辰野町	山口	84.5
24	唐沢	岡谷市	川岸西	183.9
25	昆沙門沢	岡谷市	川岸	110.8
26	ウノキ沢川	岡谷市	湊花岡	193.3
合計	26溪流			6,315.8

■地すべり

(単位:百万円)

No.	箇所名	市町村名	事業費
1	定谷	長野市	144.0
2	上籠	大田市	129.6
3	上古田	箕輪町	74.9
4	菅の窪	大田市	83.5
5	地附山	長野市	34.4
6	駒込	佐久市	334.2
合計	6箇所		800.6

■急傾斜

(単位:百万円)

No.	箇所名	市町村名	事業費
1	湯の脇	諏訪市	76.8
2	諸町	伊那市	30.7
3	小野中村	辰野町	113.3
合計	3箇所		220.8

■総計

(単位:百万円)

35箇所	1,021.4
------	---------

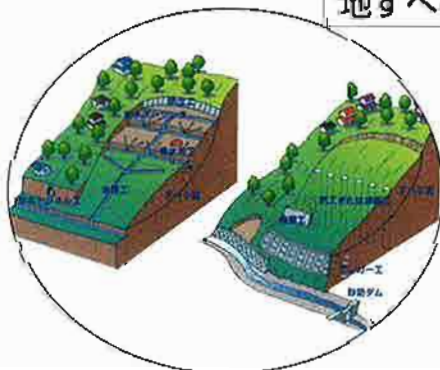
災害関連事業では、土砂災害の再発防止のために、このような対策を実施します。

- 砂防**…………… 砂防えん堤、沈砂地など
土石流災害の防止工事
- 地すべり**…………… 地すべり地の水抜き工、
鋼管杭・アンカー工など、
地すべり災害の防止工事
- 急傾斜**…………… 法棒工、アンカー工など、
がけ崩れ災害の防止工事

砂防

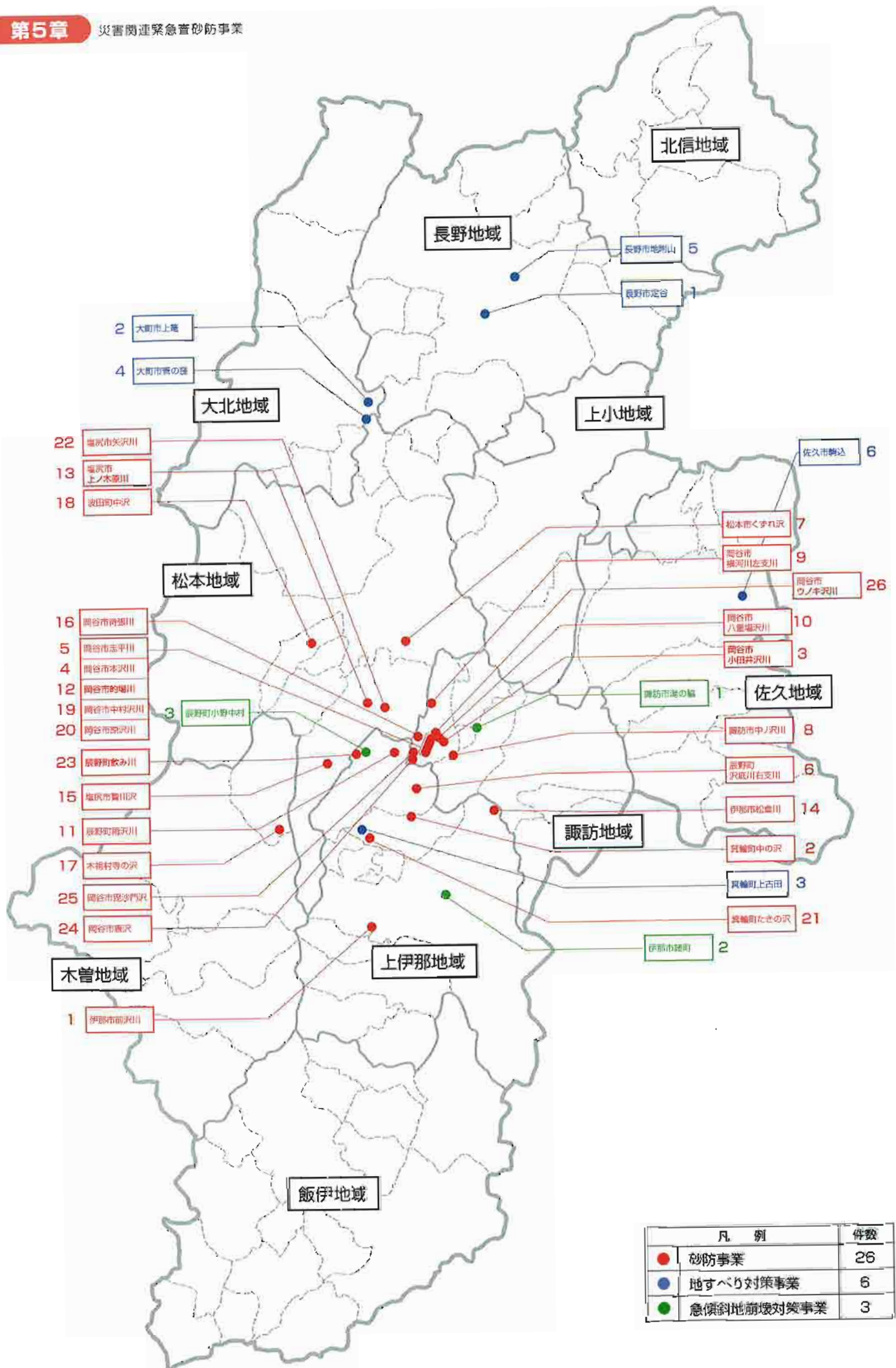


地すべり



急傾斜

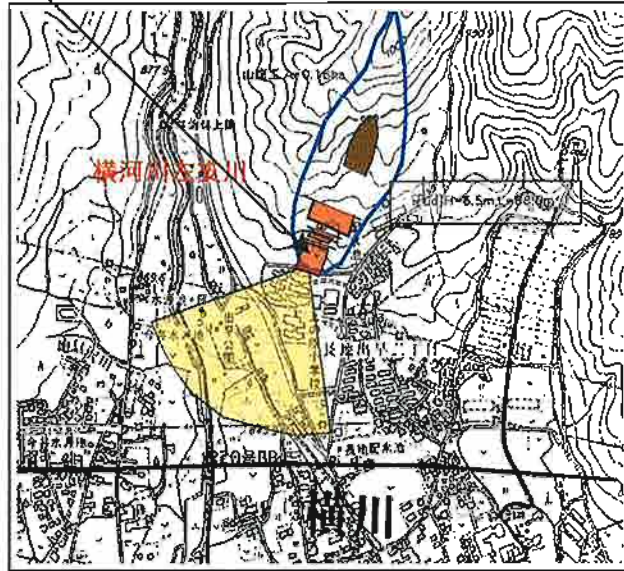




凡 例		件数
●	砂防事業	26
●	地すべり対策事業	6
●	急傾斜地崩壊対策事業	3

災害関連緊急砂防事業位置図(岡谷市・諏訪市)

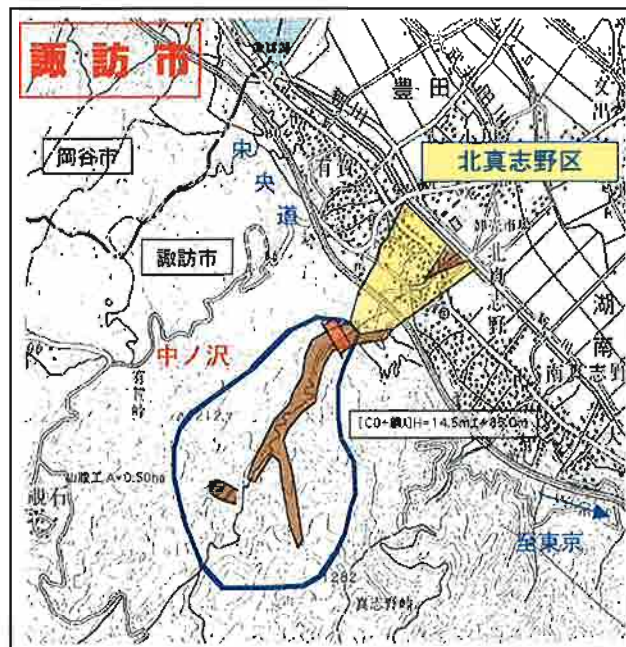
横河川左支川応急工事
施工状況(大型土のう工)

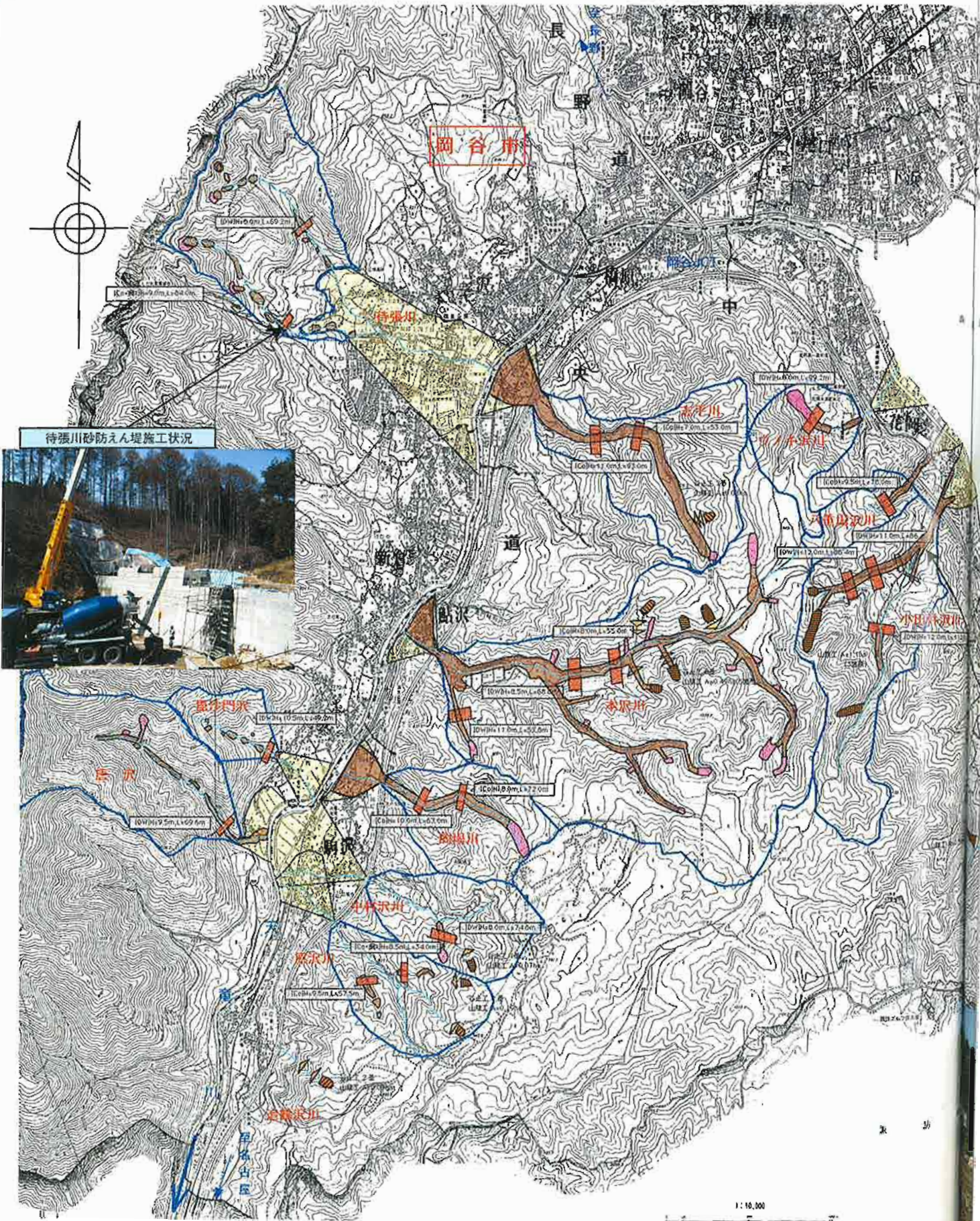


諏訪湖

凡例	
-----	都市計画区域
-----	地区界
	砂防えん堤
	床固工
	沈砂地
	谷止工
	山腹工
	崩壊地
	不安定堆積土砂
	保全対象
	流域界

小田井沢川応急工事
施工状況(大型土のう工)

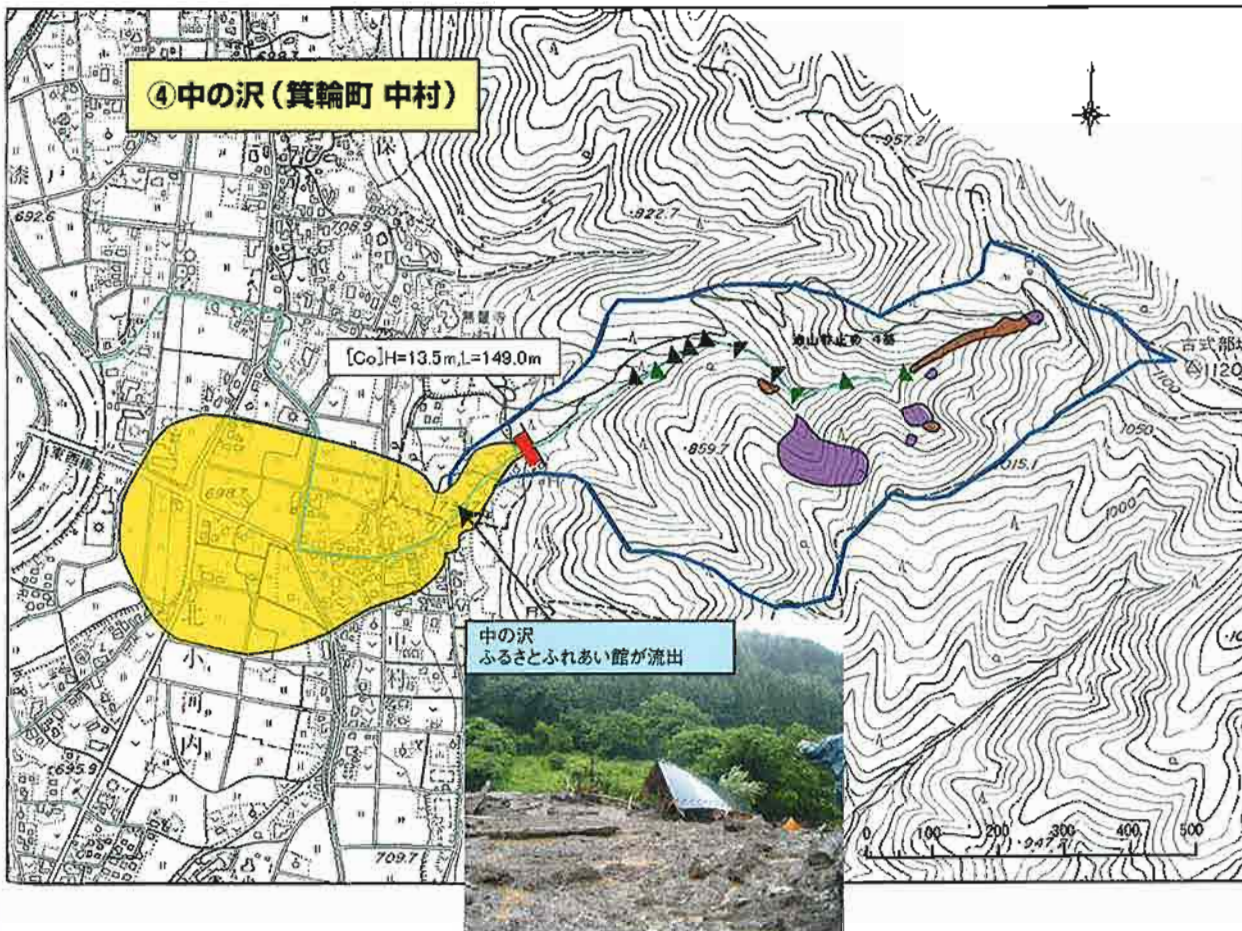
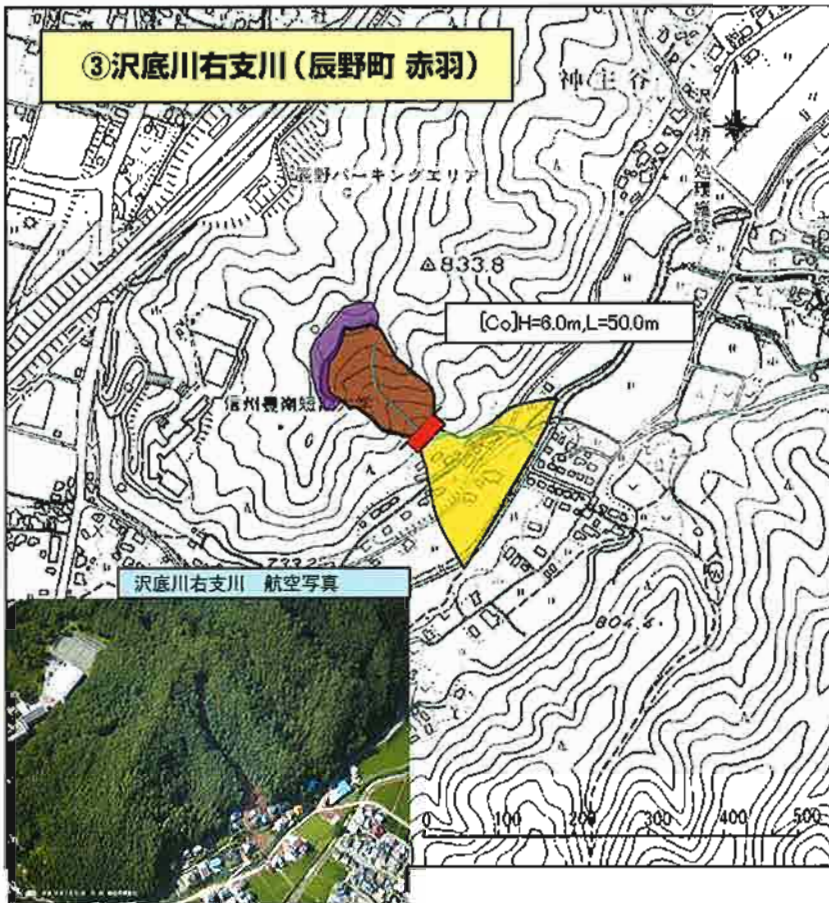




待張川砂防えん堤施工状況

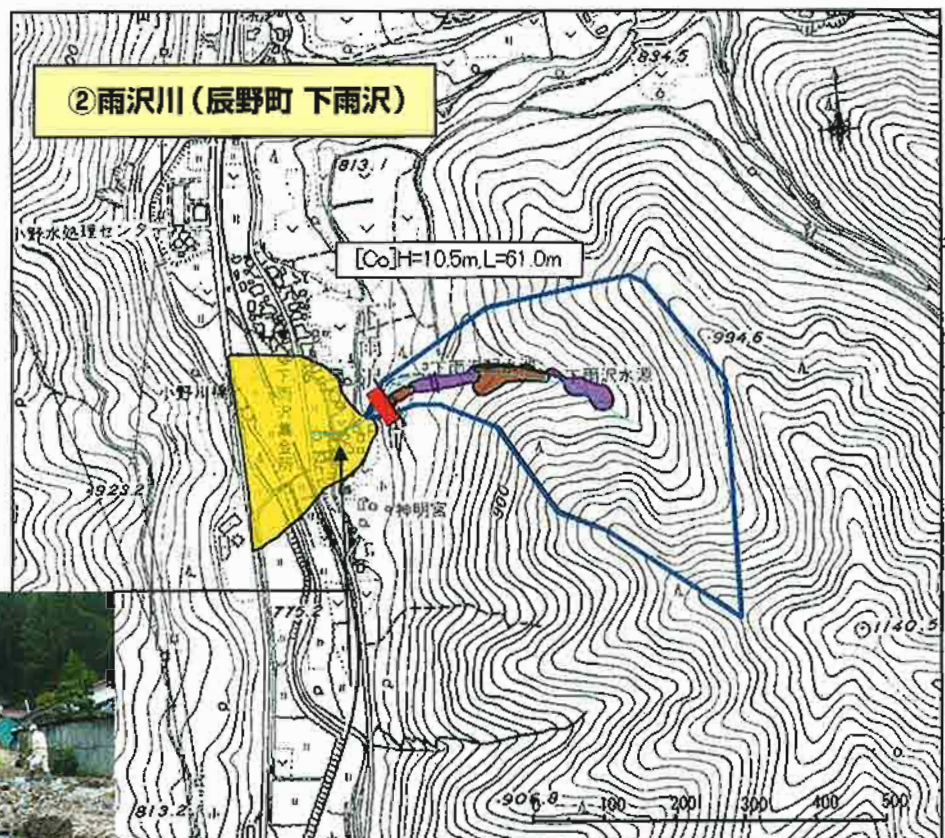
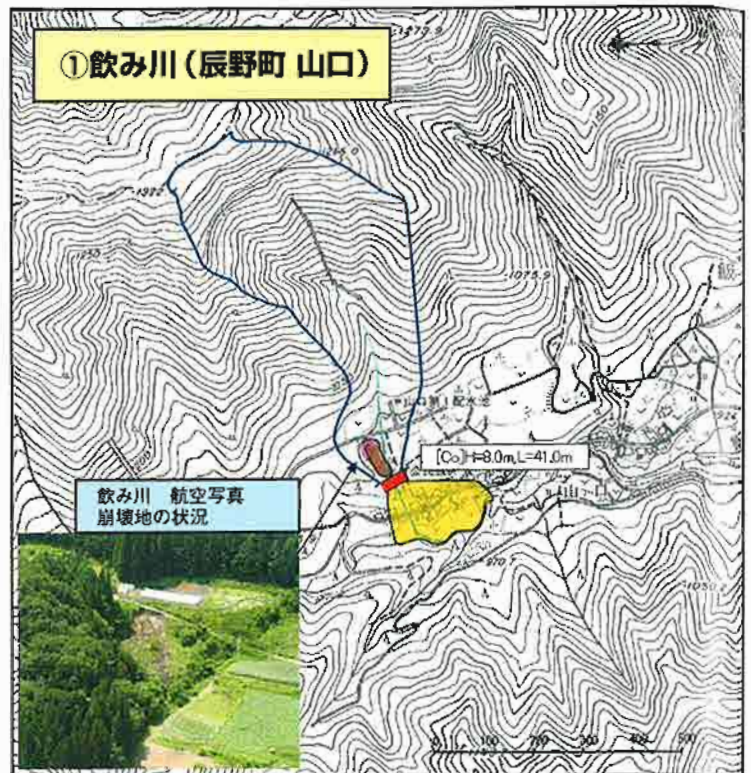


災害関連緊急砂防事業位置図(辰野町・箕輪町・伊那市) ①





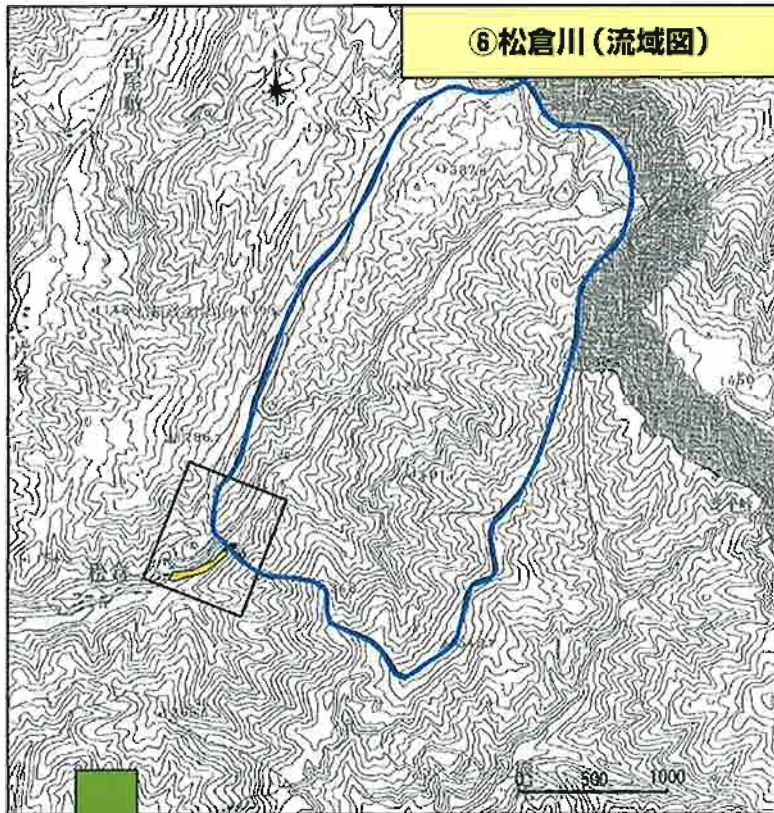
凡例	
	都市計画区域
	地区界
	砂防えん堤
	谷止め工
	崩壊地
	不安定堆積土
	保全対象
	流域界



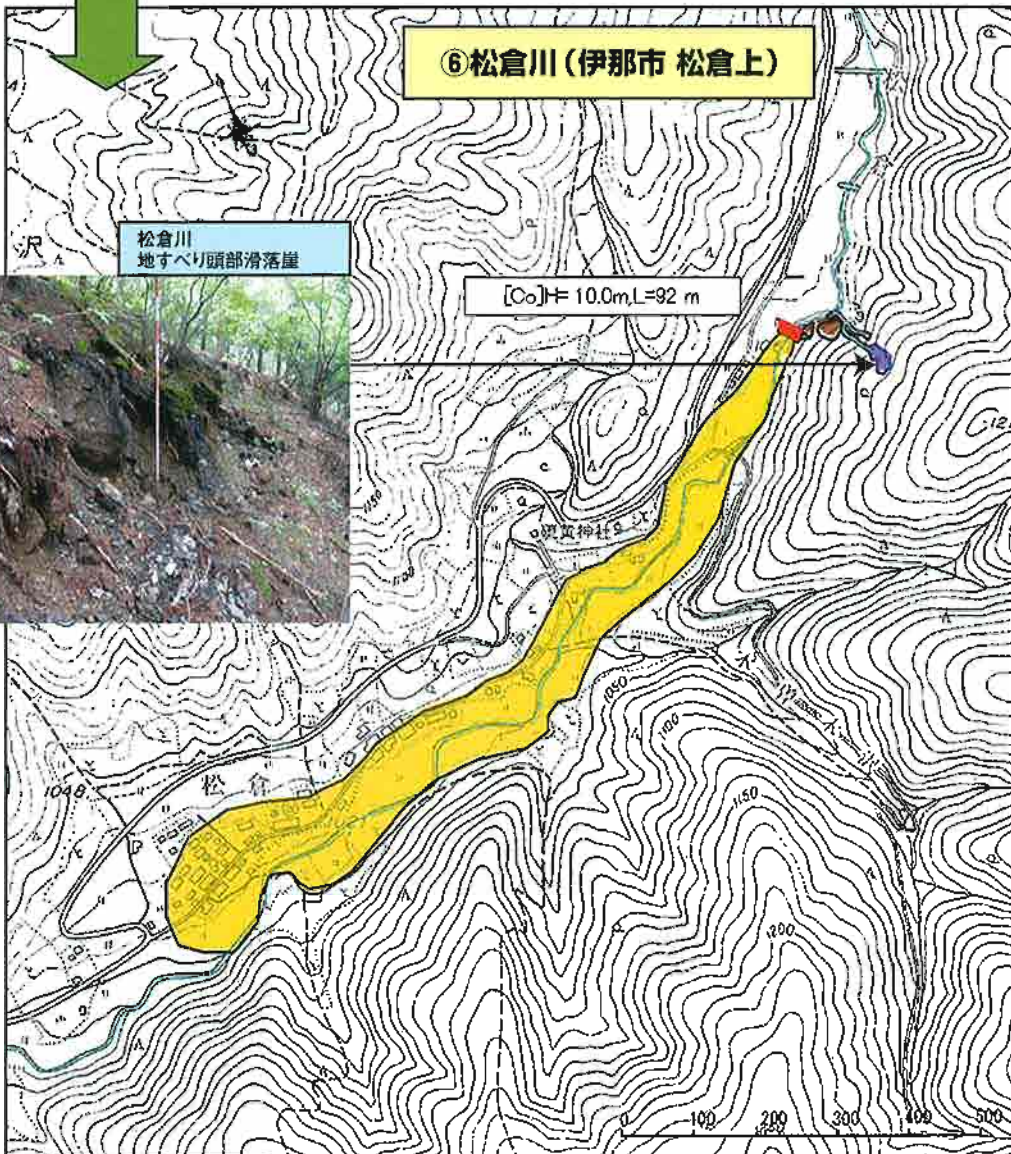
下雨沢
集落内に流出した土砂



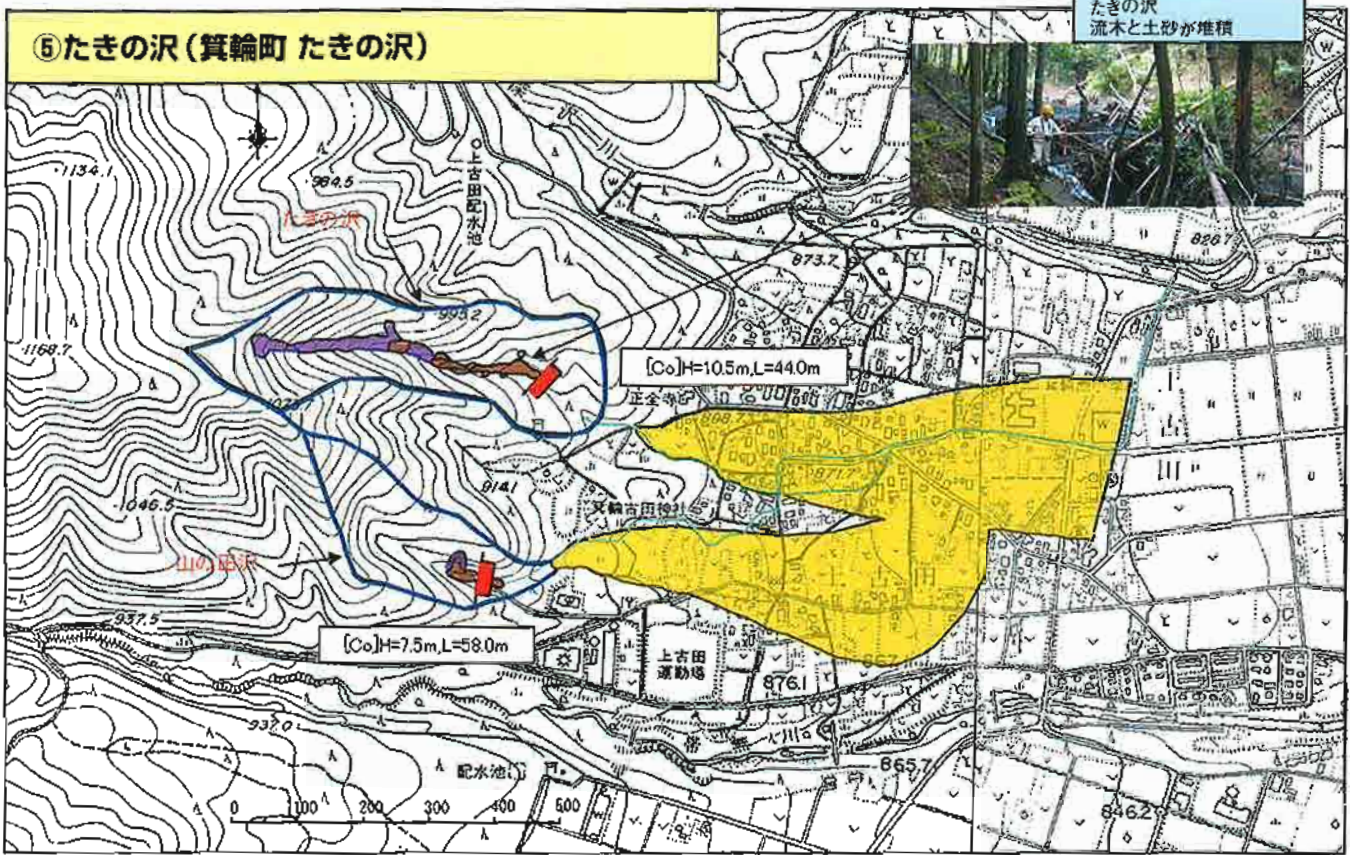
災害関連緊急砂防事業位置図(辰野町・箕輪町・伊那市)②



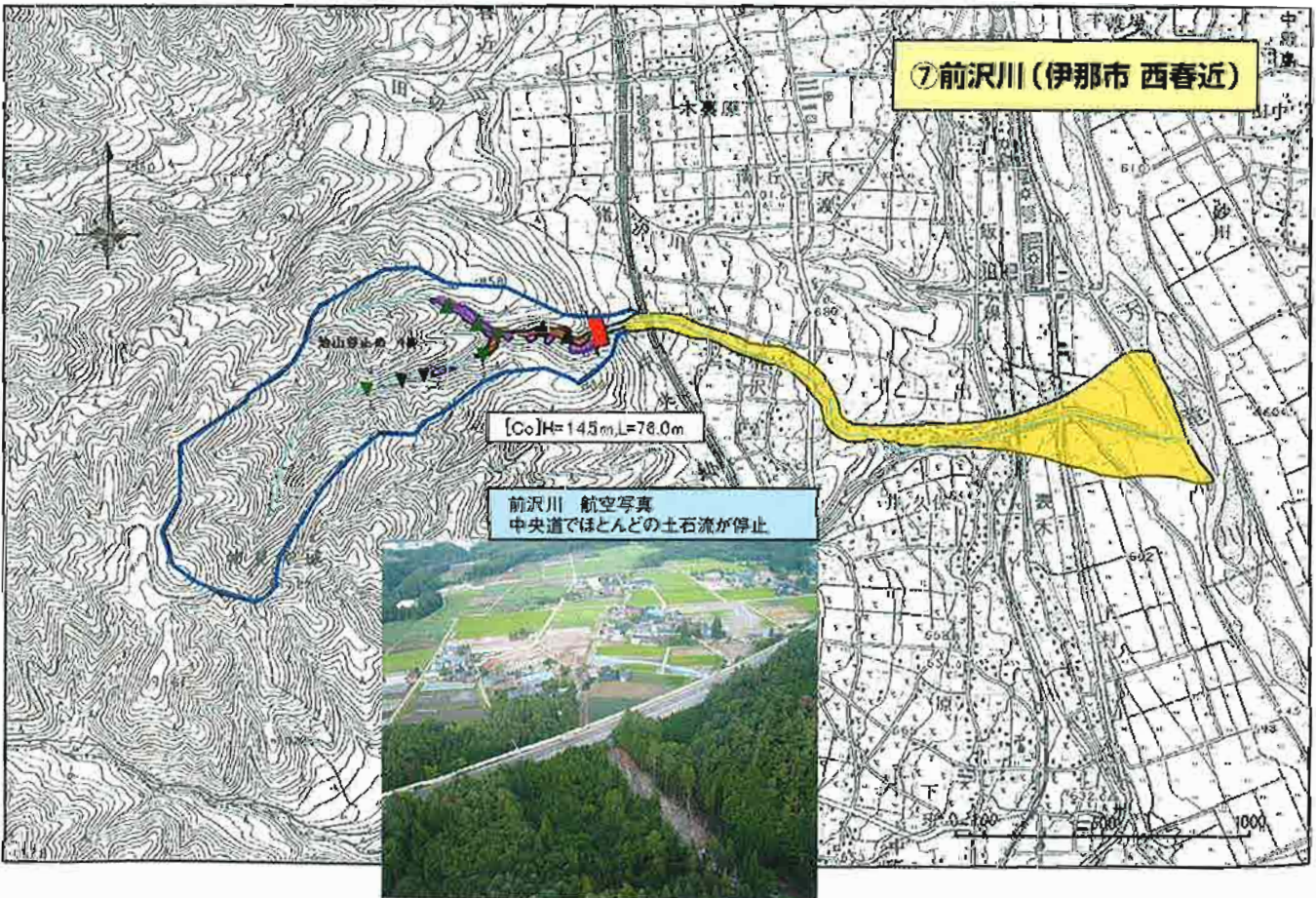
凡例	
-----	都市計画区域
-----	地区界
■	砂防えん堤
▲	谷止め工
■	崩壊地
■	不安定堆積土
■	保全対象
■	流域界



⑥たきの沢(箕輪町 たきの沢)



⑦前沢川(伊那市 西春近)

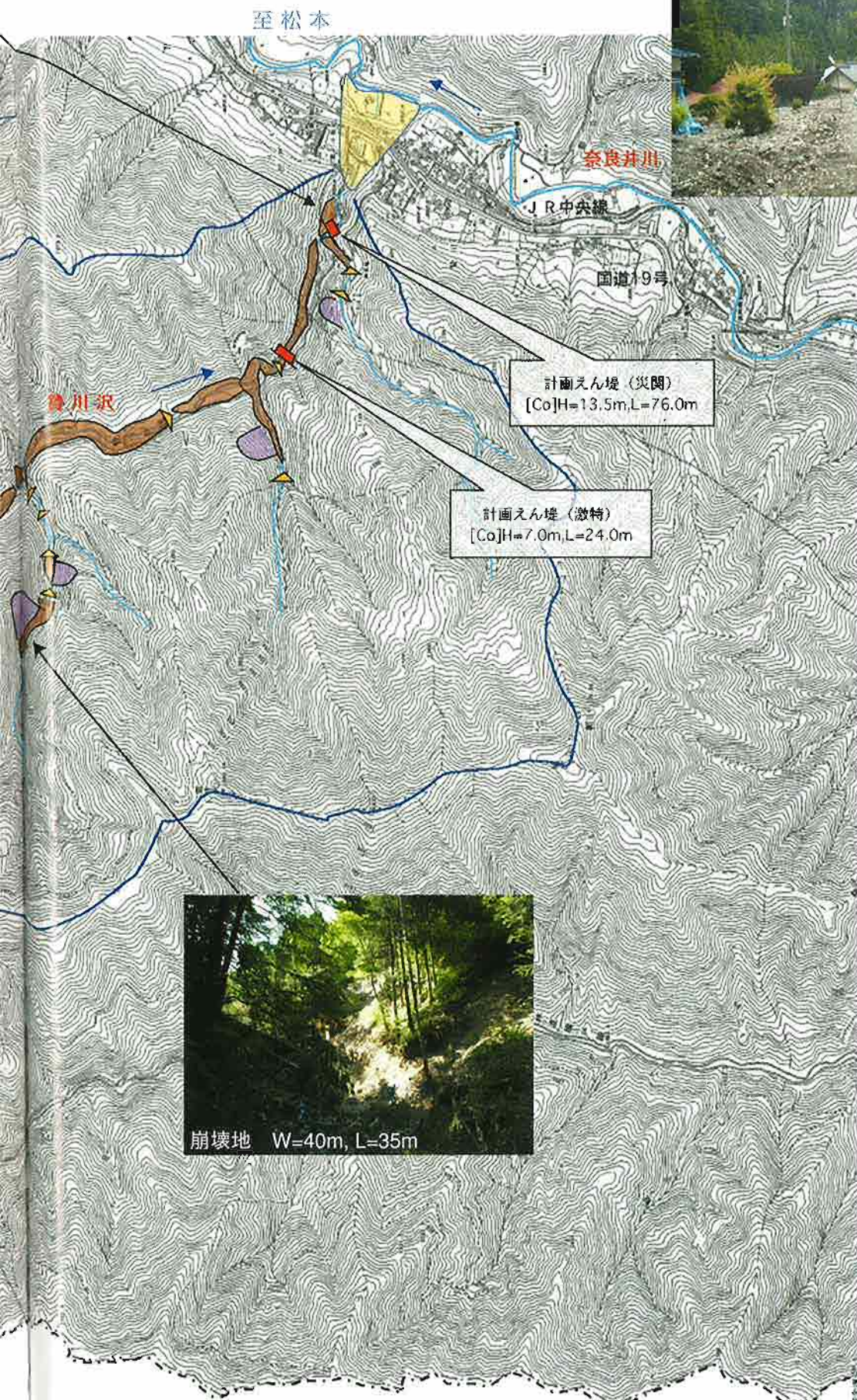


平成十八年七月豪雨による

災害関連緊急砂防事業位置図(塩尻市贄川沢)



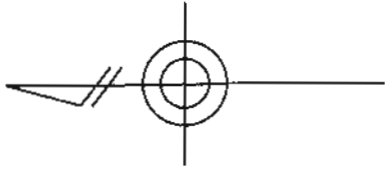
家屋埋没直後



至名古屋



崩壊地 W=40m, L=35m



凡例	
-----	都市計画区域
-----	地区界
	砂防えん堤
	床固工
	沈砂地
	谷止工
	山腹工
	崩壊地
	不安定堆積土砂
	保全対象
	流域界



土石流発生直後



崩壊地 W=40m, L=30m



塩尻市

朝日村



崩壊地 W=40m, L=30m

木祖村



崩壊地 W=100m, L=150m

災害関連緊急砂防事業

小田井沢川

岡谷市湊三丁目

概要

平成十八年七月十七日～十九日の梅雨前線豪雨による土石流で、死者七名、全壊家屋十二戸を発生させる等、甚大な被害をもたらした。

流域内には不安定土砂が依然として多量に堆積したままであり、保全対象である人家九十二戸湊小学校、湊公民館、中央自動車道、主要地方道岡谷茅野線など、今後

の土砂流出によって災害を被る危険性が極めて高い状況にある。

このため、林務部と連携をとりながら山腹工、床固工、砂防えん堤、溪流保全工を整備することで、土砂の流出を防止し、土石流災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



被災状況(A)



被災状況(B)

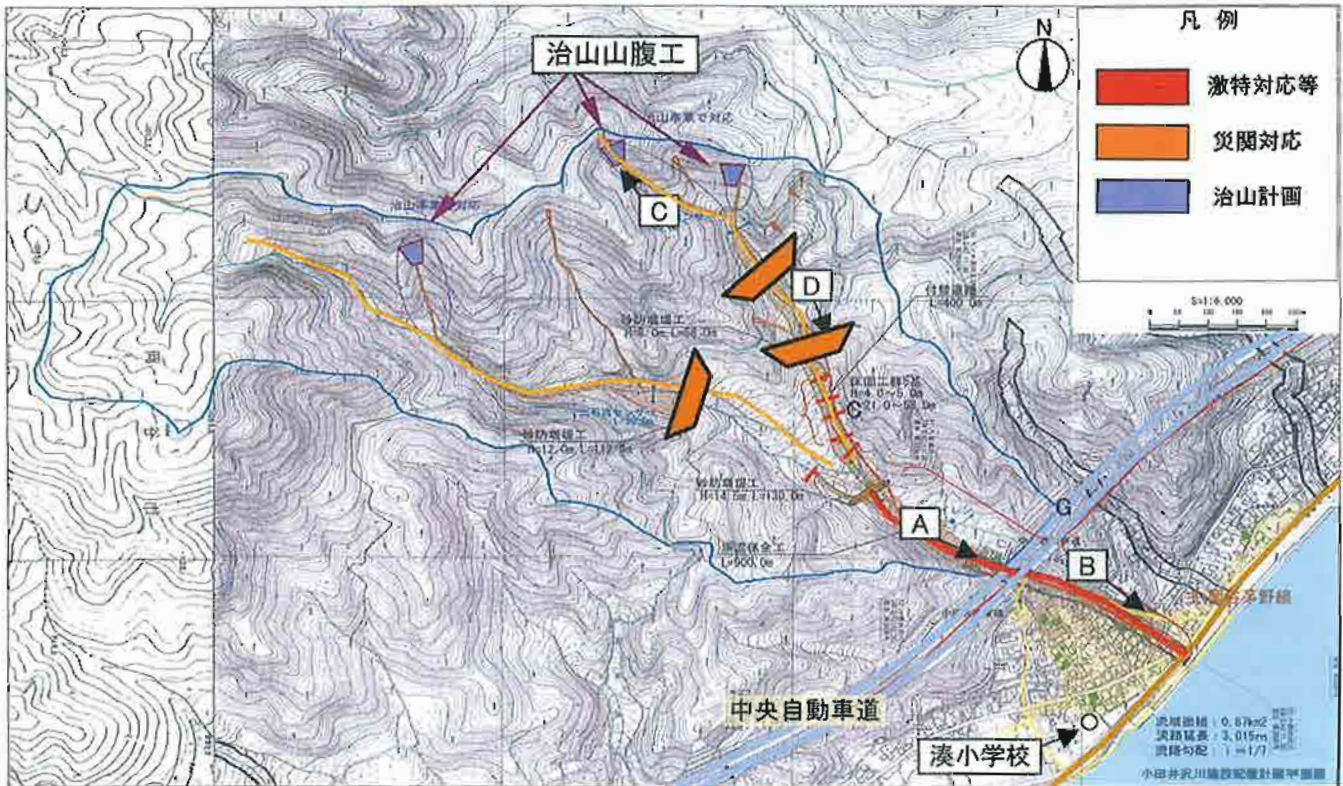
位置図



保全対象

- 家屋 92戸
- 公共施設
 - 中央自動車道
 - 湊小学校
 - 湊公民館
 - 県道岡谷茅野線

計画施設配置図



計画諸元

災害関連緊急土砂防事業		激甚災害対策特別緊急事業等	
災害により、崩壊が発生し生産された土砂が、溪流に堆積しているもので、放置すれば次期出水により下流に著しい土砂災害を及ぼす恐れがある場合に緊急的に施工を必要とする事業をいう		該当する溪流全体に流出が予想される土砂災害を防ぐための事業 災害年の次年度から3年間(平成19年度~21年度)で整備	
名称	数量	名称	数量
えん堤工	3基	付替道路	一式
		溪流保全工	460m
		床固工群	7基
		溪流保全工	440m

激甚災害対策特別緊急事業は検討中で未確定です。
施設の数や規模は予定であり、今後、地質状況などにより変更となる場合があります。



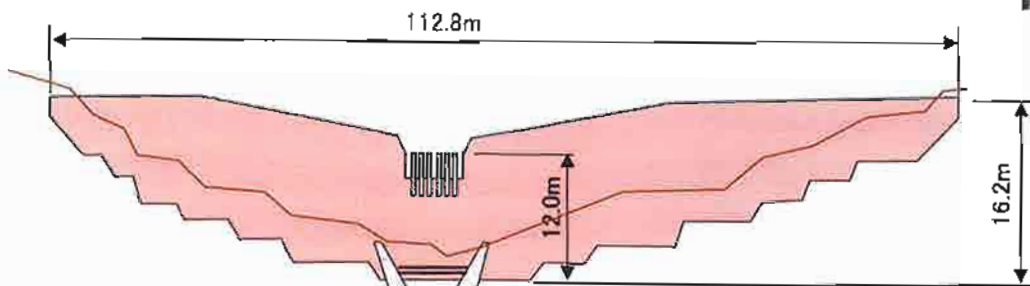
源頭部 (C)



被災状況 (D)

構造図

小田井沢本川えん堤



概要

平成十八年七月十七日～十九日の梅雨前線豪雨による土石流で、死者一名、全壊家屋三戸を発生させる等、甚大な被害をもたらした。流域内には不安定土砂が依然として多量に堆積したままであり、保全対象である人家三十二戸・中央自動車道・JR中央東線耕地等は、今後の降雨による土砂流出によって災害を被る危険

性が極めて高い状況にある。このため、林務部と連携をしながら、山腹工、谷止め工、えん堤工、遊砂池工・溪流保全工を整備することで、土砂の流出を防止し、土石流災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



被災状況(C)



被災状況(D)

位置図



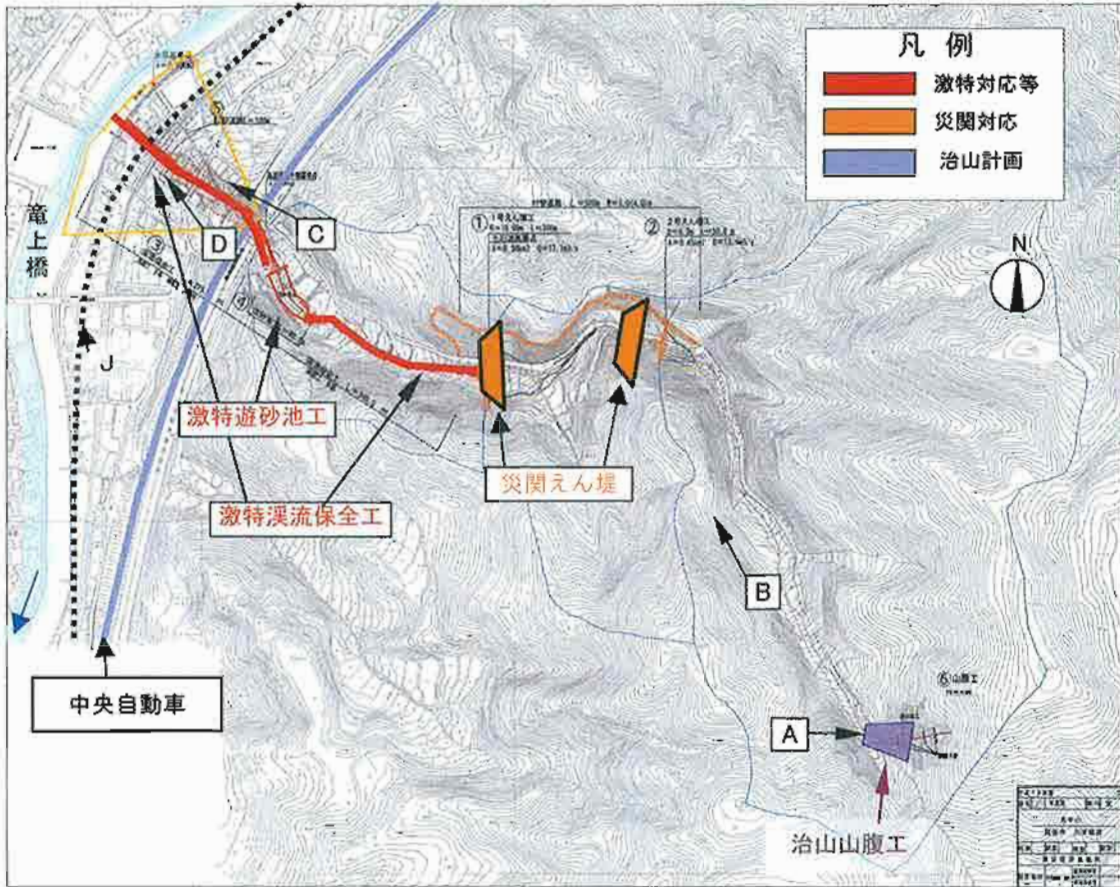
流出土砂により

死者1名、全壊家屋3戸
JR中央東線は7月19日～
8月7日まで不通となった

保全対象

人家 32戸
公共施設
中央自動車道
JR中央東線

計画施設配置図



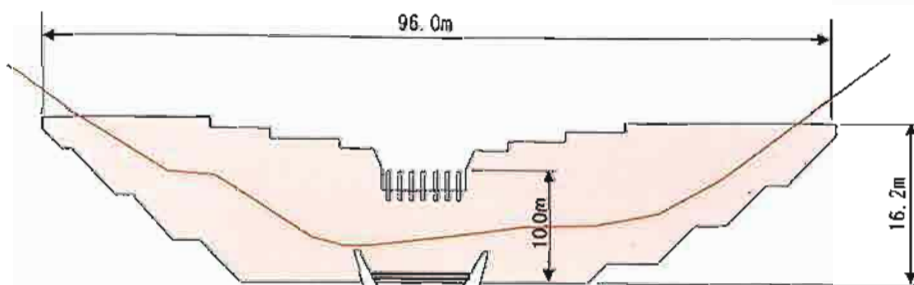
計画諸元

災害関連緊急砂防事業		激甚災害対策特別緊急事業等	
災害により、崩壊が発生し生産された土砂が、溪流に堆積しているもので、放置すれば次期出水により下流に著しい土砂災害を及ぼす恐れがある場合に緊急的に施工を必要とする事業をいう		該当する溪流全体に流出が予想される土砂災害を防ぐための事業 災害年の次年度から3年間(平成19年度～21年度)で整備	
名称	数量	名称	数量
えん堤工	2基	付替道路	一式
		溪流保全工1	315m
		沈砂池	90m
		溪流保全工	300m

激甚災害対策特別緊急事業は検討中で未確定です。
施設の数量や規模は予定であり、今後、地質状況などにより変更となる場合があります。

構造図

志平川 1号えん堤



荒廃状況 (A)



溪床状況 (B)

災害関連緊急砂防事業

横河川左支川 岡谷市上の原

概要

平成十八年七月十七日、十九日の梅雨前線豪雨による土石流で、岡谷市立上の原小学校が被災する等、社会資本に甚大な被害をもたらした。流域内には不安定土砂が依然として多量に堆積したままであり、保全対象である人家二十一戸・岡谷市立上の原、老人ホーム、耕

地等は、今後の降雨による土砂流出によって災害を被る危険性が極めて高い状況にある。このため、沈砂池工を整備することで有害な土砂の流出を防止し、土石流災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



被害状況 (A)



崩落状況 (B)

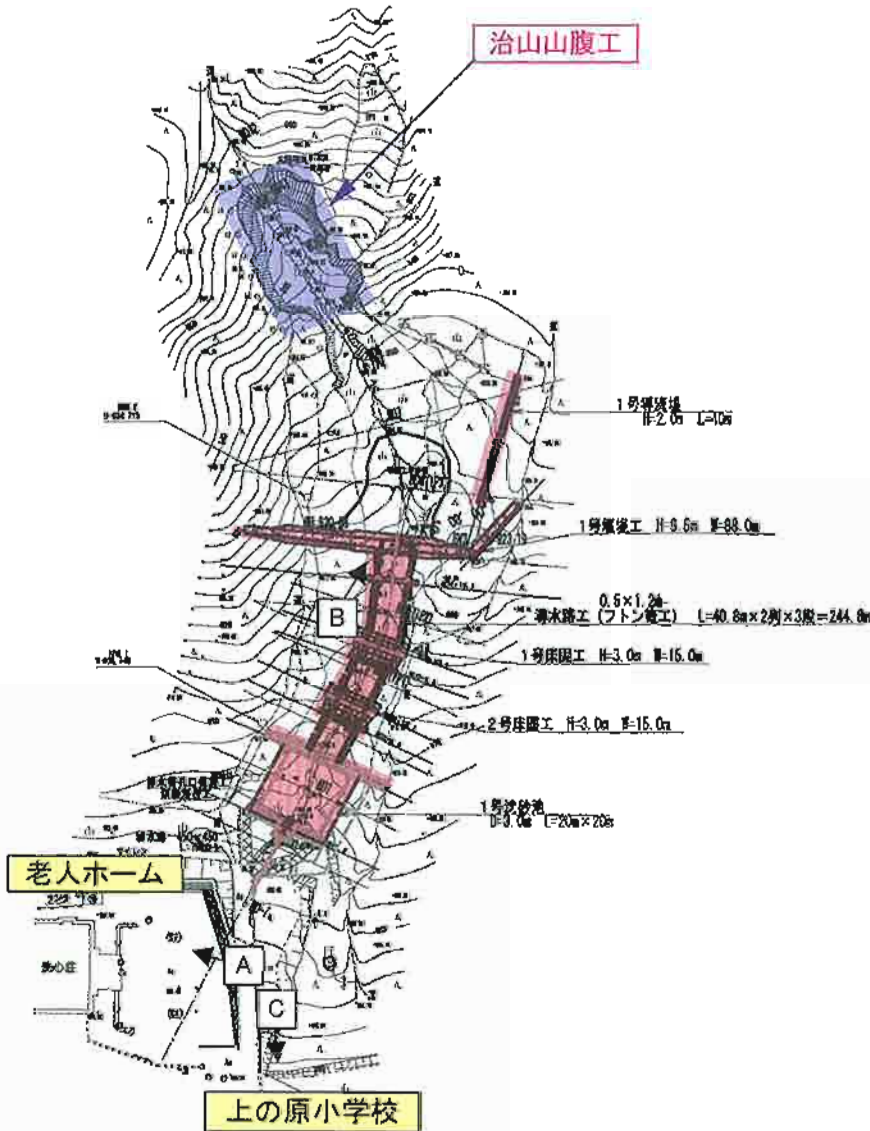
位置図



保全対象

人家 21戸
 公共施設
 上の原小学校
 老人ホーム

計画施設配置図



被害状況(C)

計画諸元

災害関連緊急砂防事業

災害により、崩壊が発生し生産された土砂が、溪流に堆積しているもので、放置すれば次期出水により下流に著しい土砂災害を及ぼす恐れがある場合に緊急的に施工を必要とする事業をいう

名称	数量
えん堤工	1基
床固工	2基
導流堤・導水路工	一式

激甚災害対策特別緊急事業

該当する溪流全体に流出が予想される土砂災害を防ぐための事業

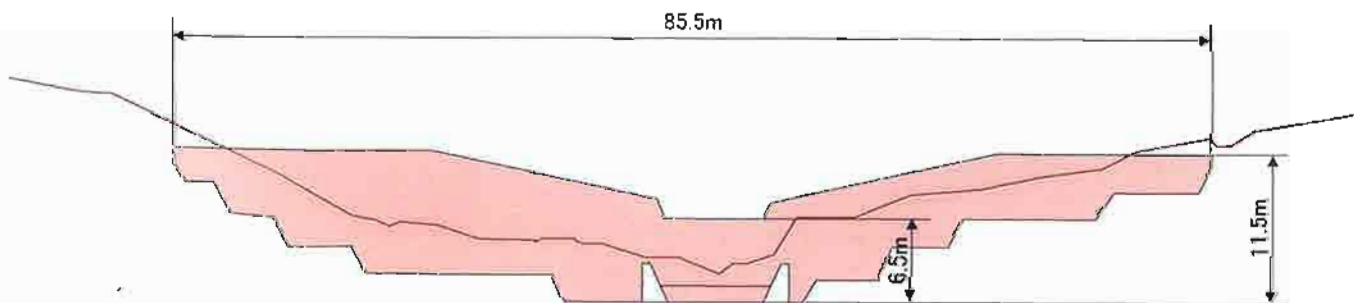
災害年の次年度から3年間(平成19年度~21年度)で整備

名称	数量
推積工	1基

施設の数量や規模は予定であり、今後、地質状況などにより変更となる場合があります。

構造図

横河川左支川えん堤



災害関連緊急砂防事業

沢底川右支川

辰野町赤羽

概要

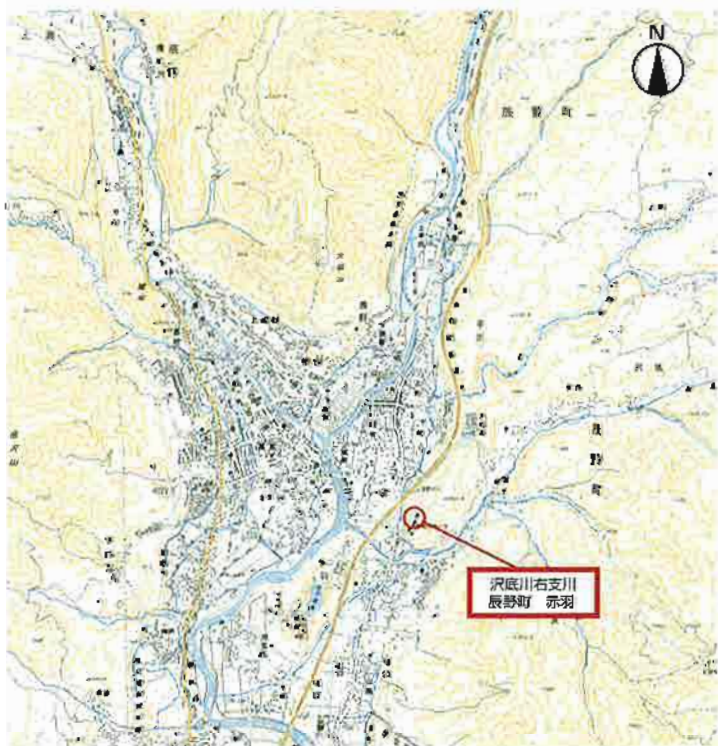
平成十八年七月十七日、十九日の梅雨前線豪雨による土石流で全壊四戸、半壊二戸、一部損壊五戸等、甚大な被害をもたらした。流域内には不安定土砂が依然として多量に堆積したままであり、保全対象である人家二十二戸・二級町道54号・耕地等は、今後の降

雨による土砂流出によって災害を被る危険性が極めて高い状況にある。このため、溪流保全工を整備することで、有害な土砂の流出を未然に防止し、土石流災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



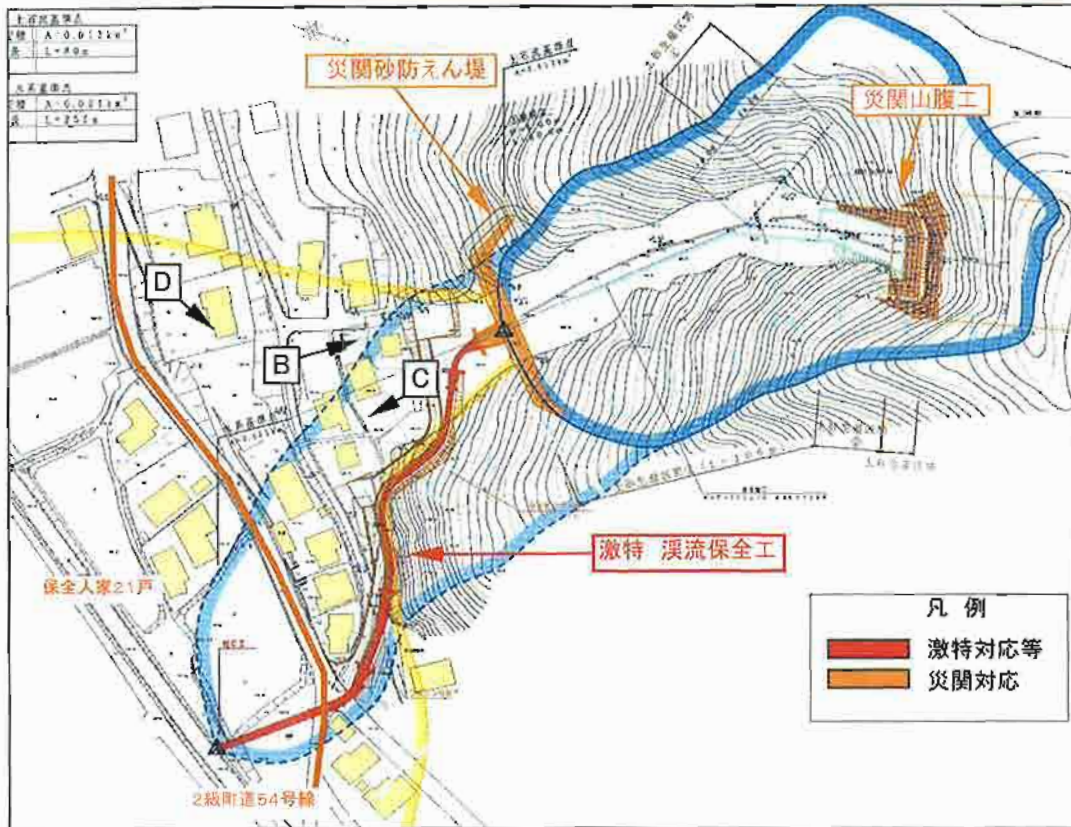
位置図



保全対象

人家 21戸
2級町道54号線 220m
耕地 0.4ha

計画施設配置図

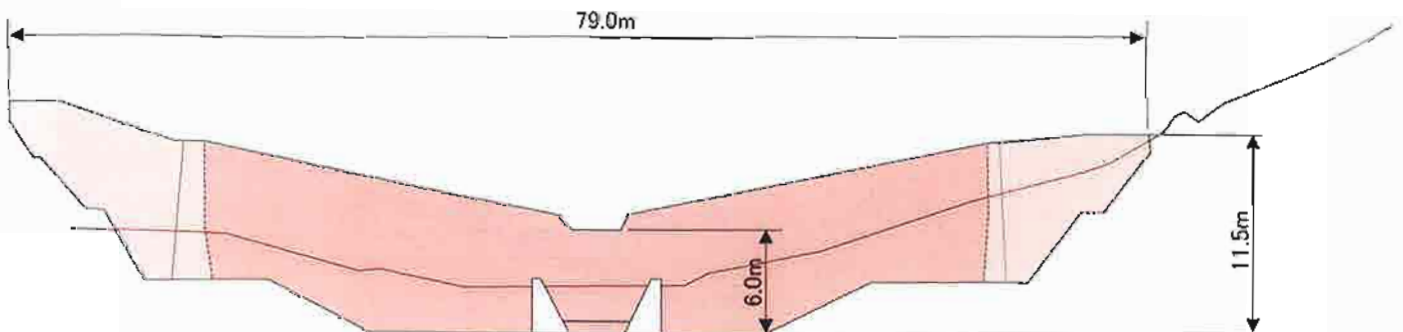


計画諸元

災害関連緊急砂防事業		激基災害対策特別緊急事業	
災害により、崩壊が発生し生産された土砂が、溪流に堆積しているもので、放置すれば次期出水により下流に著しい土砂災害を及ぼす恐れがある場合に緊急的に施工を必要とする事業をいう		該当する溪流全体に流出が予想される土砂災害を防ぐための事業 災害年の次年度から3年間(平成19年度~21年度)で整備	
名称	数量	名称	数量
えん堤工	1基	溪流保全工	166.3m
山腹工	一式		

激基災害対策特別緊急事業は検討中で未確定です。
施設の数や規模は予定であり、今後、地質状況などにより変更となる場合があります。

構造図



災害関連緊急砂防事業

小野中村 辰野町小野中村

概要

平成十八年七月十七日、十九日の梅雨前線豪雨により、辰野町小野中村地区において斜面が崩壊し、2名が亡くなり、人家全壊2戸、半壊2戸の被害が発生した。

このため、災害関連緊急傾斜地崩壊対策事業により斜面の安定化を図り、土砂災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



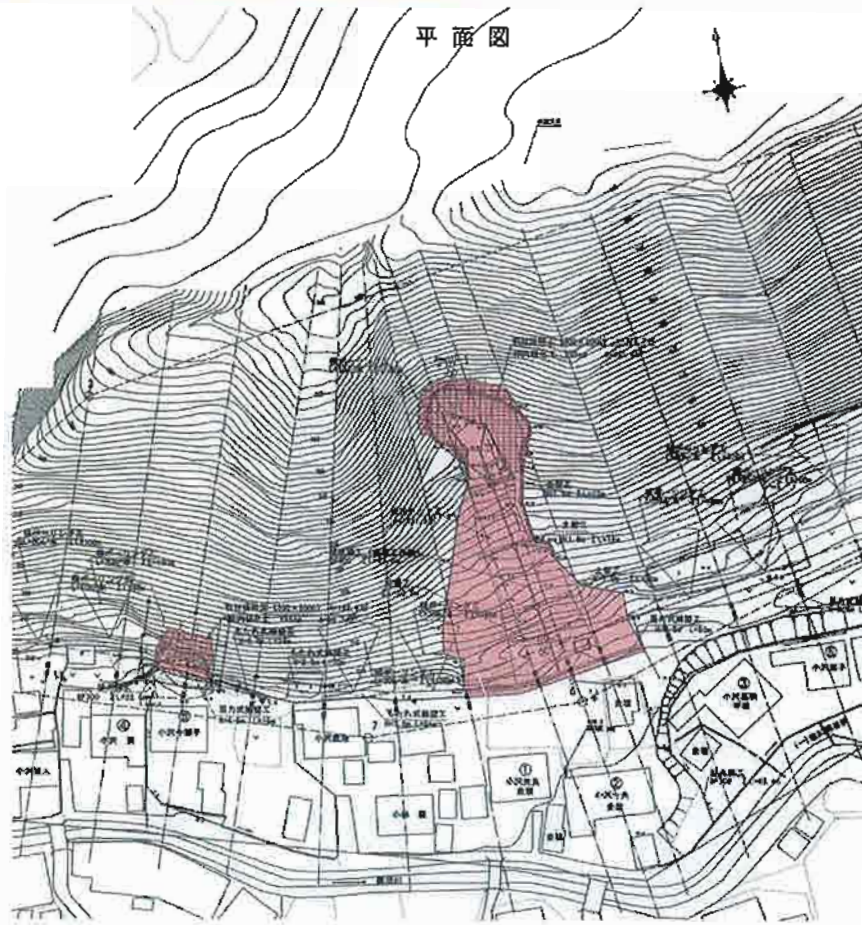
位置図



保全対象

人家 7戸

計画施設配置図



計画諸元

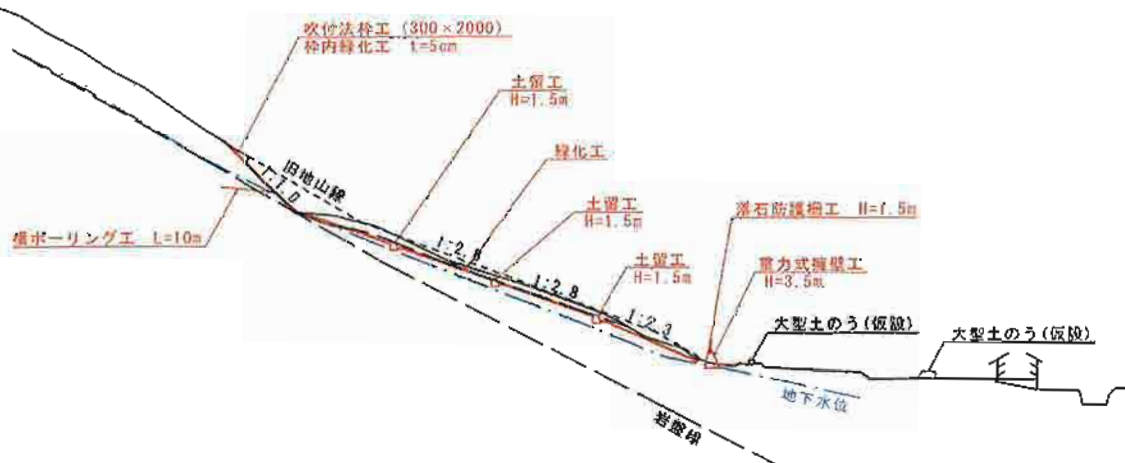
東側斜面

- 吹付法棒工 A=700m²
- 集水ボーリング工 L=80m
- 植生ネット工 A=1500m²
- 明暗渠工 L=70m
- 暗渠工 L=50m
- 重力式擁壁工 L=52m

西側斜面

- 吹付法棒工 A=170m²
- 横ボーリング工 L=40m
- 重力式擁壁工 L=16m

断面図



概要

平成十八年七月十七日、十九日の梅雨前線豪雨による土石流で、人家四戸が全壊するなど甚大な被害をもたらした。流域内には不安定土砂が依然として多量に堆積したままであり、保全対象である人家十戸・国道19号・JR中央西線・耕地等は、今後

の降雨による土砂流出によって災害を被る危険性が極めて高い状況にある。このため、砂防堰堤を整備することで、有害な土砂の流出を未然に防止し、土石流災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



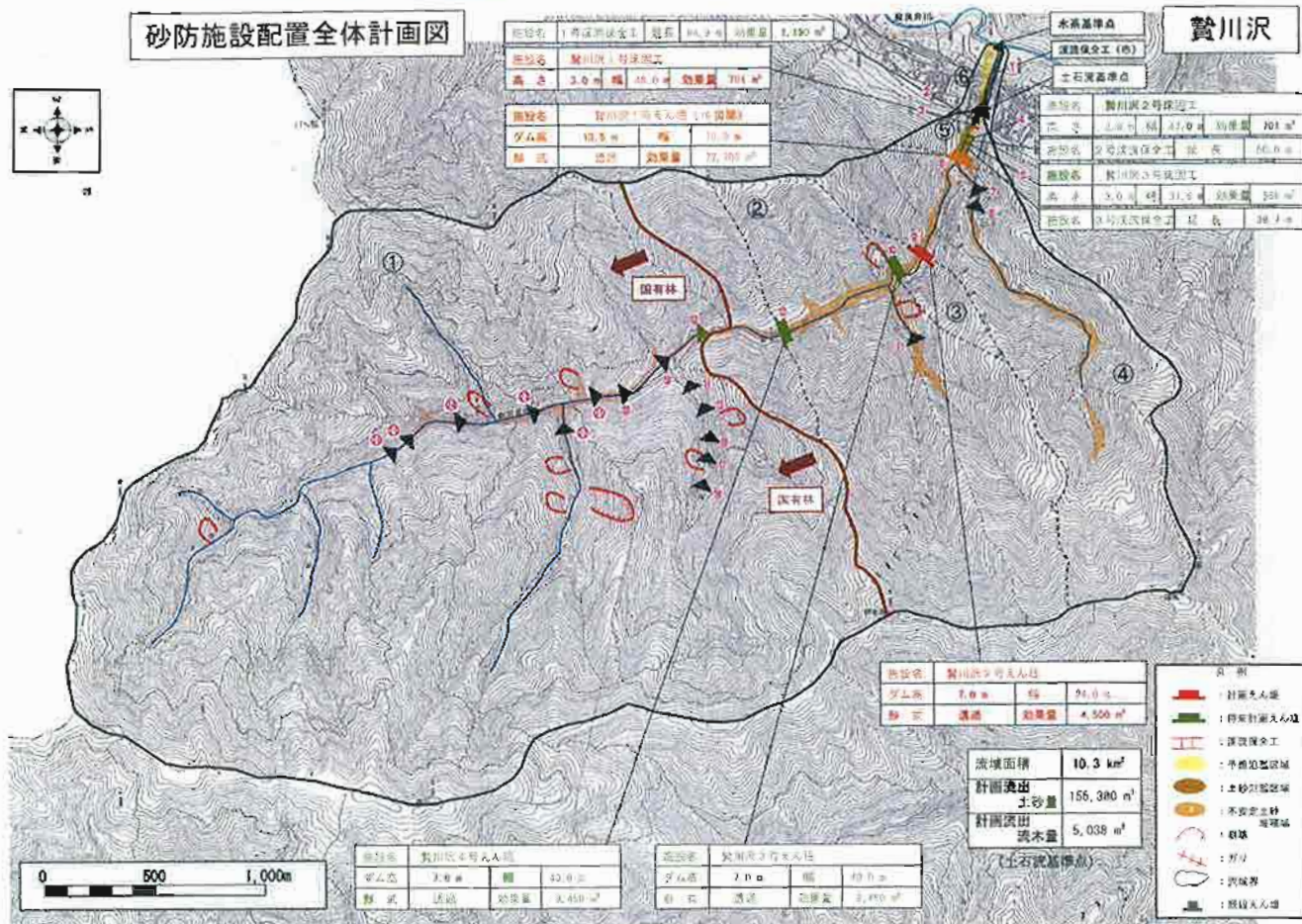
位置図



保全対象

- 人家 10戸
- 国道19号 300m
- JR中央西線 200m

計画施設配置図

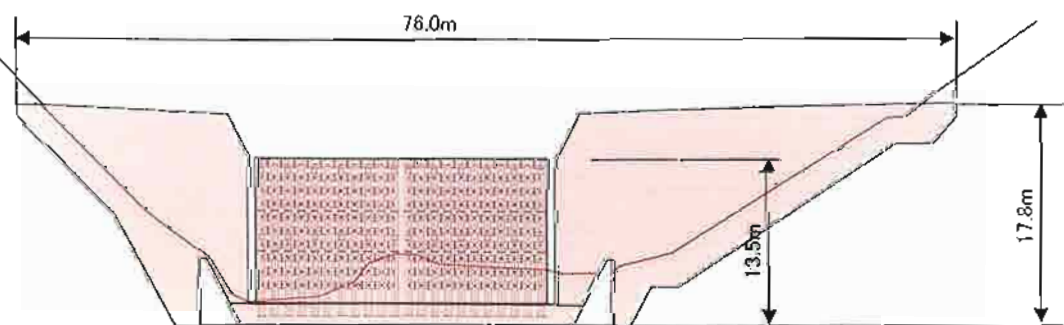


計画諸元

災害関連緊急砂防事業		激甚災害対策特別緊急事業等	
災害により、崩壊が発生し生産された土砂が、溪流に堆積しているもので、放置すれば次期出水により下流に著しい土砂災害を及ぼす恐れがある場合に緊急的に施工を必要とする事業をいう		該当する溪流全体に流出が予想される土砂災害を防ぐための事業 災害年の次年度から3年間(平成19年度~21年度)で整備	
名称	数量	名称	数量
えん堤工	1基	えん堤工2	1基
		床固工	1基
		えん堤工	2基
		床固工	2基
		溪流保全工	174.6m

激甚災害対策特別緊急事業は検討中で未確定です。
 施設の数や規模は予定であり、今後、地質状況などにより変更となる場合があります。

構造図



概要

平成十八年七月十七日～十九日の梅雨前線豪雨により、佐久市駒込地区において地すべり災害が発生した。
地すべりの発生により、主要地方道下仁田浅科線が崩落し、道路が通行止めになるとともに、一級河川志賀川に土砂が流出す

る等の被害をもたらした。
このため、地すべり対策工により、斜面の安定化を図り、土砂災害から人命、財産を保全し、地域住民の生活の安全と民生の安定を図る。

災害状況



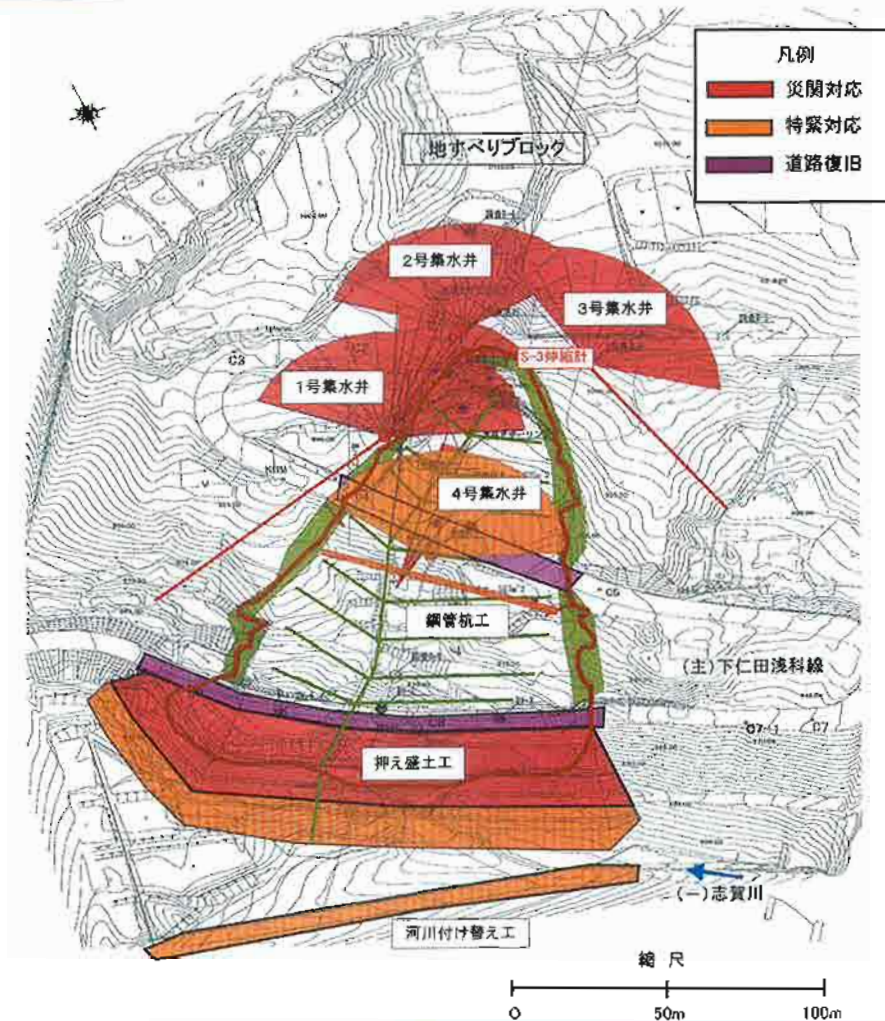
保全対象

家屋 47戸、県道、市道、農道
公共施設 諏訪神社・駒込公会場

位置図



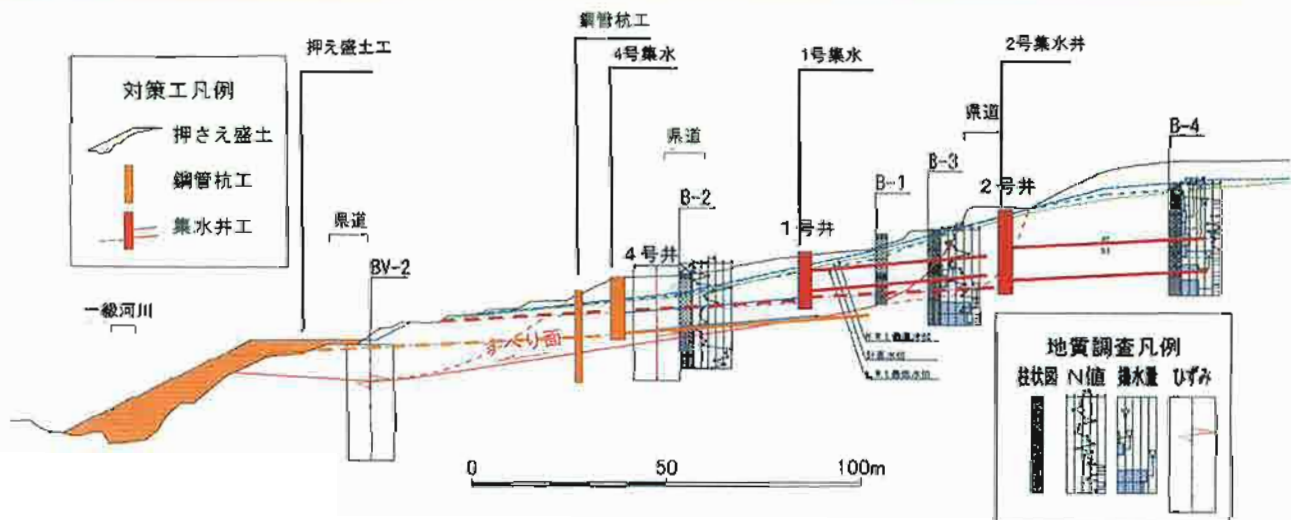
計画施設配置図



計画諸元

災害関連緊急地すべり対策事業		特定緊急地すべり対策事業		道路災害復旧事業	
集水井	3基	集水井	7基	復旧延長	L=264.0m
集水・横ポーリング	3,2000m	集水・横ポーリング	10,5000m		W=6.0(8.0)m
押え盛土	15,000m ³	鋼管杭	78本		
		押え盛	10,000m ³		
		河川付け替え	150m		

断面図



豪雨被害

交通復旧作業急ぐ

**国道1号 長期不通見通し
中央西線 土砂の撤去進む**



右手斜面から崩壊した土砂でふさがった国道361号＝20日午前10時10分、木曾町日鏡



鐵路を覆った土砂が除去された塩原市
木曾平沢のJR中央西線＝20日午後2時10分



国道361号の一部が崩れ落ちた様子
＝20日午前10時10分、松本市新屋敷

濃尾平野
イベント式典
松本市が中止
塩原市は関係なし

【松本市】豪雨被害を受けた国道361号の復旧作業が急がれている。20日午前10時10分、木曾町日鏡の国道361号の一部が崩れ落ちた。土砂が道路を完全にふさぎ、交通が完全に遮断された。関係機関は、復旧作業を急いでいる。また、塩原市のJR中央西線も、土砂の撤去作業が進んでいる。濃尾平野では、イベント式典が中止された。松本市は関係なし、塩原市は関係なしとされている。



長時間の孤立、断水

住民、避難所で夜明かす

水道が断水した松本市梓川地区。住民がペットなどを手に給水車前に集まった＝20日午前10時40分、梓川アカデミア前



避難先から一時帰宅し、揺岸の崩れた川沿いの道路で犬の散歩＝20日午前10時半、木曾町日鏡

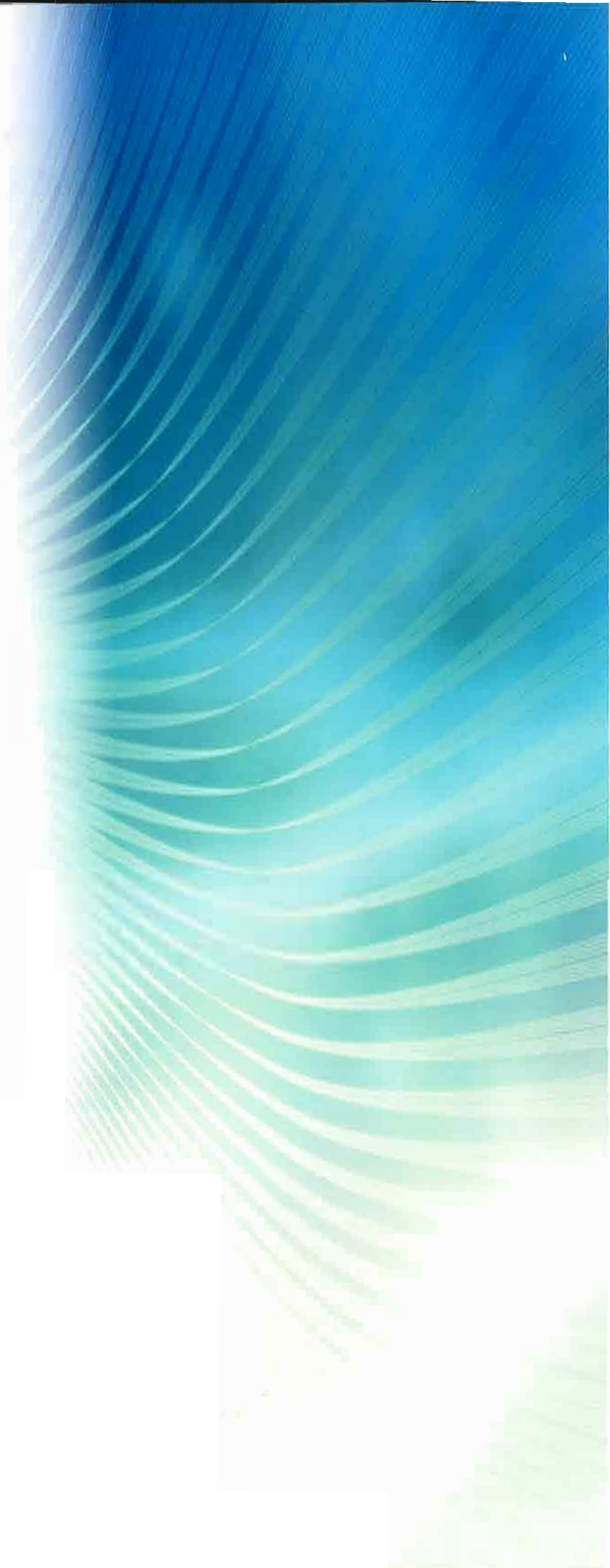


大町市美原で発生した土石流。上部のえんじ屋を越えて、塩原市道を覆った＝20日午前9時20分

【松本市】豪雨被害を受けた松本市梓川地区の住民が、長時間の孤立と断水に苦しんでいる。住民は、給水車前に集まり、ペットなどを手にしている。また、大町市美原で発生した土石流も、塩原市道を覆った。関係機関は、復旧作業を急いでいる。また、濃尾平野では、イベント式典が中止された。松本市は関係なし、塩原市は関係なしとされている。

資料

第6章



7月17日

11:00	小谷村小谷温泉上にて地すべり県道40m崩落(幅40m・長さ150m) ／旅館宿泊者下山	9:00	木祖村細島で土石流(土砂量50㎡)県道通行止め 別荘地住民1名自主避難(現在は帰宅)／道路で排土
8:00	塩尻市豊川で土石流(土砂量15㎡)国道19号通行止め ／飯田国道事務所で排土作業	10:30	松本市田代で土石流 浄化センターに土砂堆積 ／市が土砂除去

7月18日

10:40	諏訪市神戸でがけ崩れ(幅5m・高さ10m)人家等に被害なし ／ブルーシート張り及び伸縮計2基設置～急傾斜事業実施中		1世帯3名自主避難(息子宅) ／7/25よりアパートブルーシート張り、伸縮計1基設置
11:00	伊那市諸町でがけ崩れ(幅10m・高さ10m・土砂量50㎡) 人家一戸一部破損 ／7/18 16:45避難勧告解除(2世帯4名(親類宅))ブルーシート張り、伸縮計2基設置、モルタル吹き付け100㎡	15:00	諏訪市湯の郷3でがけ崩れ 石積崩壊(幅5m・高さ3m)
14:00	佐久市坂井でがけ崩れ 巨石積崩落(幅15m・高さ5m)	19:40	塩尻市浄土沢他奈良井で土石流・土砂堆積 4世帯8人避難勧告 ／7/21 16:00解除 (関)19号通行止解除

- ・岡谷市大洞沢新倉で土石流(調査中)一部損壊、床上浸水あり／市が土砂除去
- ・小川村馬曲で地すべり(幅10m・長さ8m・高さ1m・高さ4m)民家の庭先が一部崩壊／ブルーシート設置
- ・小川村埋牧で地すべり(幅10m・長さ6m・高さ1m)民家裏斜面が崩壊し、流出した土砂が敷地内に到達／ブルーシート設置、村が土砂撤去予定
- ・諏訪市芦倉沢野の海で土石流(土砂量100㎡)山腹崩壊／末端部の土砂を市が撤去
- ・夜長野市青池で地すべり(幅30m・長さ30m 農道(W=1m、L=30m) 欠落／ブルーシート設置

7月18～19日

- ・小谷村梨平で土石流(土砂量10㎡) 人家なし 道路に土砂流出、村で撤去
- ・南木曾町寺でがけ崩れ(幅10m・長さ15m・町道南広瀬線に土砂流出(堆積)
／7/21 13:40避難勧告1世帯解除、自主避難2世帯 南木曾町により町道に流出した土砂撤去、崩壊斜面にブルーシート張り

7月19日

2:00	伊那市西春近前沢川で土石流(土砂量23,600㎡)農地被害 8戸避難(7/19避難勧告) 7/20解除 高連道窪窪で土砂撤去、大型土のう設置、センサー2基設置		／センサー1基設置 伊那市西春近でがけ崩れの恐れ7/20 避難勧告 7/21 解除 長野市福岡で地すべり(幅6m・長さ4m) 陥にゲラック
2:00頃	信州新町下川で地すべり(幅15m・長さ18m)土砂押し出し、ブルーシート設置	4:00	渡辺町中沢新田で土石流(土砂量5,000㎡)2戸床上浸水 ／町が土砂撤去、大型土のう設置予定
3:00	長野市地蔵山2で地すべり(幅10m・長さ15m)・(幅5m・高さ5m)斜面の一部崩壊、護水有り ／ブルーシート設置、7/27現在湧水なし	4:00	木祖村南沢山戸で土石流(土砂量340㎡)(主) 奈川木祖線、林道へ土砂流出、人的被害無し ／村が県道部の土砂撤去、林道部は未着手
3:00	塩尻市本山で土石流(土砂量50㎡)国道19号へ土砂流出 ／土砂撤去	4:00	箕輪町西光沢で土石流(土砂量約500㎡)土砂流出 18戸避難 ／(7/19避難指示・勧告)中の沢隣接深沢 土砂撤去
3:00頃	塩尻市勝波で土石流(土砂量300㎡)床上浸水2軒 ／7/21 避難勧告 7/22 解除	4:00	箕輪町すげの沢で土石流(流出土砂量約500㎡)土砂流出 ／18戸避難(7/19避難指示・勧告)中の沢隣接深沢 土砂撤去、当面拡大の恐れはないと思われる。
4:00	箕輪町中の沢中村で土石流(土砂量3,800㎡)床上下25戸、おれあいセンター全壊、一部破損2戸、けが人2人 7/19避難指示 7/26 12:00 勧告解除(1世帯1名) 土砂撤去、仮排水工、センサー2基設置	4:30頃	長野市萩ノ峰で地すべり(幅45m・長さ10m)人家一戸一部破損 市道通行止め
4:00	諏訪市湯の郷(片羽保育園)でがけ崩れ(幅10m・高さ15m) 人的被害無し ※休園中(19日6:40) 市が立入禁止措置、伸縮計1基、傾斜計3基設置	4:40	岡谷市志平川橋梁で土石流(幅30m・長さ1,650m・流出土砂量15,800㎡)1名死亡、全壊3、半壊3、一部破損4、JR30m埋塞 ／7/19 6:45避難勧告
4:00	塩尻市池ノ沢奈良井で土石流 市道冠水、床上多数、全壊2、半壊1戸、自動車3台没3台 ／避難勧告、21日 16時解除 土砂撤去	5:00	岡谷市八重場沢川で土石流(流出土砂量3,600㎡) ／対策は浸3丁目と共有 7/19 6:20 避難勧告
	塩尻市上ノ本原沢床尾で土石流(土砂量1,300㎡)河道閉塞 ／自主避難3世帯、解除、土砂撤去		7/21 7:00 一部解除(八重場沢川)、センサー1基設置
	飯田市滝の沢でがけ崩れ(高13m・幅20m)河川埋塞 ／自主避難1世帯4人、解除、埋塞土撤去、ブルーシート、		諏訪市湯沢川神宮寺で土石流(調査中)県道岡谷茅野線に土砂流出 ／土砂撤去
	下諏訪町北高米でがけ崩れ(長さ164m・幅18m土砂流出量)		長野町雨沢川下雨沢で土石流(流出土砂量2,400㎡)人的被害無し、家屋に土砂流入

	／上部に土石埋塞 不明(解除) センサー1基設置、土砂撤去、大型土のう設置(7/27～)		7/27 17:00 助告解除
5:00	中条村大塩で地すべり(幅12m・長さ20m・厚さ1m)民家裏斜面が崩壊し、流出した土砂が敷地内に到達／ブルーシート設置	7:30頃	事務所、市、施工業者で現場監視伸縮計2基(27日)、センサー1基設置 岡谷市横河川左支川上の原で土石流(幅30m・延長250m・流出土砂量12,600㎡)老人ホーム入り口、上の原小学校体育館へ土砂流入
5:00	中条村茂田井で地すべり(幅5m・長さ4m・厚さ0.5m)民家裏斜面が崩壊し、流出した土砂が敷地内に到達／ブルーシート設置		／上野原小学校付近避難助告 7/20 解除、市で土砂除去中、センサー1基設置
5:00	中条村鳥々見地すべり(幅40m・長さ80m)村道2路線、それぞれ40㎡にわたって崩落／ブルーシート	8:00	長野市地附山で地すべり(幅20m・長さ30m)浅川へ立木、土砂流出 ／倒木処理(23日)、伸縮計1基設置
5:00頃	岡谷市小田井沢川渡三丁目で土石流(幅30m延長1,750m流出土砂量42300㎡)7名死亡、全壊5、半壊12、一部破損3 ／7/19 6:20 避難助告 7/3 17:00 一部解除(八重場沢川) 8/1 7:00 避難助告解除(避難数143人) センサー2基、監視カメラ設置大型土のう設置(7/28～) 岡谷市本沢川鮎沢で土石流(流出土砂量16,900㎡)人家に土砂流入 ／7/19 6:22 避難助告解除、センサー3基設置	9:00	御代田町三ツ谷でがけ崩れ(土砂量800㎡)家屋下斜面崩壊 ／土のう設置、伸縮計2基設置
5:30頃	松本市ぐずれ沢和泉で土石流(流出土砂量2,100㎡) 会社へ土砂流入、3世帯6名自主避難(7/19) ／7/20 帰宅 土のうにより河道確保 諏訪市中ノ沢川北真志野で土石流(流出土砂量1,200㎡) 県道岡谷茅野線に土砂流出 ／444世帯、1,276名避難助告 7/22 9:40解除 流出土砂撤去、埋塞土除去、センサー2基設置	10:00	中条村角井で地すべり(幅10m・長さ20m・厚さ1m)畑が崩落し水路に土砂流入／ブルーシート
6:00	塩尻市堂ノ入古町で土石流(土砂量500㎡)市道へ土砂流出 ／土砂撤去	10:00	松本市大和合でがけ崩れ(幅20m・長さ0m)斜面の一部崩落 1世帯2名が自主避難 /ブルーシート設置
6:00頃	高森町下市田でがけ崩れ(幅3m・高さ8m)人家等に被害無し ／町が土砂撤去	10:10	辰野町小野中村でがけ崩れ (幅30～100m・長さ40m・流出土砂量調査中)1名死亡、全壊2戸 ／7/21 8:00 1世帯4名自主避難 7/21 18:00 帰宅 伸縮計3基設置(1基設置導水管設置)、土砂撤去(7/21～)
6:00頃	長野市上新倉で地すべり(小規模)人家等に被害無し	10:30頃	長野市定谷で地すべり(幅80m・長さ80m)市道、農道、畑段差 ／長野市が監視、伸縮計2基、センサー1基設置
6:00頃	長野市灰原でがけ崩れ(高さ50m・幅20m・土砂量600㎡)県道路路解決 1世帯1名避難(息子宅;安曇野市) 岡谷市的場川川岸鮎沢で土石流市道土砂流入(人的被害無し) ／土砂除去、センサー1基設置	11:00	大町市上篤で地すべり(土砂量3,000㎡)土蔵が河道閉塞 なし ／犀川 commons が埋塞土を除去
6:44	辰野町沢底川右支川赤羽で土石流 (幅50m・長さ200m・土砂量4,000㎡) 全壊4、半壊2、一部損壊5 ／7/20 18:20 避難指示 7/26 13:00 避難助告 7/28 10:00 助告解除 対象者9世帯527人、避難者8世帯25人 伸縮計1基設置、流出土砂撤去、仮排水工、大型土のう設置(7/25～)	11:00	伊那市野底でがけ崩れ(幅7m・高さ7m)1戸一部損壊 ／1世帯自主避難、ブルーシート設置
6:50頃	千曲市女宮沢佐野で土石流(流出土砂量1,300㎡)2号えん堤埋塞 ／避難助告11世帯30人5:00～19:00の一時的帰宅(7/24～)	11:00	本垣村寺の沢藪原(倉庫)で土石流(土砂量700㎡)1戸床下浸水 ／土砂撤去、大型土のうを設置
		12:00	岡谷市湊5丁目でがけ崩れ(高さ10m・幅25m)1戸一部損壊 ／3世帯自主避難
		13:00	辰野町飲み川川山で土石流(幅18m・長さ50m・土砂量2,500㎡) 樋川岡谷線へ土砂流出 自主避難4戸／土砂撤去、大型土のう設置(7/27～)
		16:40	辰野町小横川で山腹崩壊(幅150m・長さ50m・土砂量16,000㎡) 1名死亡、1名負傷 ／7/19 17:45 避難指示(約300世帯1,100人へ)避難指示、避難者300人 20:35解除、埋塞土除去 未明 塩尻市矢沢川下西条で土石流(流出土砂量2,200㎡)土砂流出 ／定期パトロール

- ・中野市東山岡地でがけ崩れ(幅8m・長さ7m)民家裏斜面が崩壊、流出土砂堆積、民家に損傷なし
／7/19 6:30 1世帯1人が自主避難 中野市が崩壊斜面にブルーシート張り、及び監視を行う。
- ・岡谷市橋久保沢川渡小坂で土石流(長さ200m・幅70m)河岸崩壊による土砂堆積
／7/20 15:00 避難助告 確認中 浸透防止シート敷設済み、センサー1基設置
- ・岡谷市中村沢川鮎沢で土石流(流出土砂量4,300㎡)床下浸水等(詳細調査中)
／自主避難 土砂撤去、地元による監視パトロール、センサー1基設置(治山:25日)
- ・岡谷市泉沢川鮎沢で土石流(流出土砂量5,800㎡)床下浸水等(詳細調査中)
／自主避難 土砂撤去、地元による監視パトロール、センサー3基設置(治山:25日)
- ・佐久市谷田でがけ崩れ(高さ6.5m・幅15m)民家一部損壊 /家主が土砂撤去ブルーシート設置
- ・阿南町開窟で地すべり(幅25m・長さ80m・斜面にクラック)当面状況監視
- ・長野市大田和で地すべり(幅20m・長さ20m・約7mの崩落) /ブルーシート設置
- ・茅野市米沢でがけ崩れ(高さ4m・幅15m)家屋1戸全壊 1世帯1名自主避難 /土砂撤去
- ・岡谷市唐沢川川西で土石流(流出土砂量7,200㎡)床下浸水 /土砂撤去中
- ・岡谷市毘沙門沢川岸土石流(流出土砂量4,000㎡)市道、流路工事基 /土砂撤去

- ・安曇野市庄部沢庄部で土石流 山腹崩壊 一部河道埋塞(河川断面は確保) /土砂撤去予定
- ・松本市滝ノ沢で土石流 山腹崩壊一部河道埋塞(河川断面は確保) /土砂撤去予定
- ・松本市北片山で地すべり(幅30m・長さ20m)斜面の一部崩落 /ブルーシート設置
- ・松本市片山で地すべり(幅20m・長さ20m)斜面にクラック /当面状況監視
- ・松本市古宿で土石流(土砂量1,000㎡)溪岸の一部崩落 自主避難1戸 /ブルーシート設置
- ・安曇野市深見沢中村で土石流 山腹崩壊 斜面の一部崩落、倒木有り /土砂、倒木撤去予定
- ・安曇野市権現沢山中で土石流 山腹崩壊 斜面の一部崩落、倒木有り /土砂、倒木撤去予定
- ・大町市満仲沢菅の窪で土石流 山腹崩壊 斜面の一部崩落、倒木有り /土砂、倒木撤去予定
- ・朝日村三ヶ縄でがけ崩れ(高さ5m・幅5m)斜面崩落 /土砂撤去
- ・中条村三王で地すべり(幅30m・長さ60m)斜面崩落 /ブルーシート、伸縮計を設置
- ・長野市下栗尾で地すべり(幅12m・長さ15m)斜面崩落 /ブルーシート設置
- ・長野市倉並で地すべり(幅20m・長さ20m)斜面崩落 /通常地すべり事業中
- ・岡谷市ウノキ沢川で土石流山腹崩壊 県道に土砂流出
- ・辰野町穴山川で土石流 町道、水道施設埋塞 4世帯自主避難 /土砂撤去
- ・辰野町馬草川で土石流(土砂量300㎡)リンゴ畑に土砂流出 4世帯自主避難 /土砂撤去

7月20日

- 10:00 | 上田市岡で地すべり(幅25m・長さ20m・厚さ3.5m)農地被害、電柱が傾斜 | /1戸が7/20夜のみ自主避難 市が警戒監視体制、土地改良事業
- ・箕輪町たきの沢山田で土石流(土砂量500㎡)空き家床下浸水 /町が流出土砂撤去、センサー1基設置
 - ・箕輪町山の田沢山の田で土石流(土砂量8,000㎡)山腹崩壊
 - ・中条村桂沢天間で土石流 山腹崩壊 溪岸の一部崩落 /土砂撤去予定
 - ・飯綱町芋川日向で地すべり(幅10m・長さ20m)斜面崩落 /ブルーシート設置

7月21日

- | | |
|---|---|
| <p>4:30 塩尻市鶯川沢折戸で土石流(土砂量10,000㎡)全壊4戸 /6世帯9人自主避難、避難勧告解除 (家屋全壊のため実質避難中)塩尻市が大型土のうで導流堤を仮施工</p> <p>6:00 岡谷市小坂でがけ崩れ(クラック延長30m)斜面にクラック /ブルーシート、伸縮計1基、警報灯設置</p> | <p>15:00 大町市菅の窪で地すべり(幅60m・長さ80m)斜面崩落 /センサー設置予定</p> <p>15:00 大町市菅の窪で地すべり(幅60m・長さ80m)斜面崩落 /センサー設置予定</p> |
|---|---|
- ・伊那市松倉で地すべり(高さ100m・幅200m) 11:40 一部崩落 (一)松倉川の埋塞なし (一)中山松倉線通行止め
7/21 11:30~松倉地区御堂垣外 131世帯は藤沢多目的集会所施設に避難 7/22 13:00御堂垣外解除
松倉勧告 7/26 9:30解除 専門家現地調査実施
(一)松倉川埋塞監視 (地元消防団)
 - ・中川村葛島渡邊でがけ崩れ 畑地の小規模崩落 /7/18 17:00 避難勧告 7/19 8:30 解除
 - ・南箕輪村北殿でがけ崩れの恐れ(クラック延長約60~70m) /7/21 11:00 避難勧告 17世帯57人14:25 避難指示に切り替え 7/22 解除 ブルーシート設置
 - ・佐久市竹之城でがけ崩れ(高さ7m・幅7m・土砂量25物置一部破損) /2戸3名が自主避難、内21日1戸1名帰宅 内22日1戸2名帰宅 伸縮計2基設置
 - ・伊那市松倉川松倉上で土石流(幅40~50m・高さ50~60m・厚さ10~20m・土砂量10,000㎡)人家等に被害無し / (一)松倉川の埋塞なし、(一)中山松倉線 通行止め
7/21 11:30~松倉地区 御堂垣外 131世帯は藤沢多目的集会所施設に避難
7/22 13:00御堂垣外 解除、松倉 勧告
7/26 9:30解除 国土交通省 監視装置設置(センサー設置まで)、センサー1基設置
 - ・諏訪市桑原一沢仏法寺上で土石流(長さ100m・幅15m)溪岸崩壊 /7/21 14:55 避難指示 8世帯 7/22 9:50解除、浸透防止シート敷設済み

7月22日

- | | |
|--|--|
| <p>2:00 上田市霊泉寺でがけ崩れ・巨石落下(3m×2.2m)家屋1戸一部損壊
／自主避難
1世帯5人(継続)、市が応急的に落石防護ネット張工を実施。</p> <p>2:00 岡谷市待張川川岸三沢で土石流 調査中
(主)下諏訪辰野線へ土砂流出、人的被害無し</p> | <p>／土砂撤去、センサー1基設置
岡谷市花岡でがけ崩れ(幅4m・長さ20m)民家裏斜面が崩壊
／1世帯に避難指示(23日解除)
ブルーシート、土のう積みを設置</p> |
|--|--|

7月23日

- | | |
|--|--|
| <p>11:40頃 箕輪町 上古田で地すべり(幅50・長さ50m・斜面にクラック)
地元が簡易伸縮計設置</p> | <p>4:00 長野市蕨原田で地すべり(幅50m・長さ30m)1件一部破損 なし
／ブルーシート設置</p> |
|--|--|

7月24日

- | | |
|--|---|
| <p>6:00 大町市笹尾で地すべり(幅20m・長さ30m)斜面にクラック
／ブルーシート、簡易観測装置設置</p> <p>12:50 小諸市錦久保でがけ崩れ(幅20m・長さ70m)斜面崩落 15名自主避難
／25日 11:45帰宅ブルーシート設置</p> | <p>小川村花尾で地すべり(幅4m・長さ5m)人家裏が崩落
／ブルーシート設置</p> |
|--|---|

7月25日

- | | |
|--|---|
| <p>5:00 大町市日向(2) 地すべり(幅50m・長さ30m)人家裏が崩落
／ブルーシート設置</p> <p>6:00 大町市押の田で地すべり(幅20m・長さ30m)斜面の一部崩落
／簡易観測装置設置</p> <p>6:00 小川村北尾沢北尾で土石流 山腹崩壊
一部河道埋塞(河川断面は確保) 土砂撤去予定</p> <p>6:00 小川村高山寺沢高山寺で土石流 山腹崩壊
一部河道埋塞(河川断面は確保) 土砂撤去予定</p> | <p>6:00 生坂村大倉で地すべり(幅30m・長さ50m)斜面にクラック
／ブルーシート設置</p> <p>7:00 大町市袖沢袖で土石流 山腹崩壊
一部河道埋塞(河川断面は確保) 土砂撤去予定
信州新町中村で地すべり(幅10m・長さ12m)斜面崩落
土砂撤去、大型土のう設置</p> <p>・長野市市埜で地すべり(幅50m・長さ150m)市道崩落 通常地すべり事業中</p> |
|--|---|

7月26日

- ・信州新町下川2で地すべり(幅10m・長さ8m)斜面の一部崩落 木柵により法面保護

8月1日

- ・小谷村黒木沢長崎で土石流 山腹崩壊 河川埋塞 県が監視観測(通常砂防休止中)

8月3日

- ・小谷村千国で地すべり 隆起 村道が隆起 舗装打替え(村)、簡易観測装置設置(県) 県が監視観測

8月7日

- ・佐久市駒込で地すべり(幅160m・長さ160m) (主)下仁田浅科線踏面に段差 伸縮計2基、警報機設置

8月13日

- ・箕輪町中の沢中村で土石流(土砂量50m³)県道町道に土砂流出
／自主避難(北小河内公民館70~80名、南小河内公民館45名)土砂撤去

土石流/57箇所 地すべり/24箇所 がけ崩れ/40箇所 合計/121箇所

平成18年7月豪雨災害 時系列 岡谷市

7月19日

- 4:28 小田井沢川土石流災害発生 住宅倒壊相当数/5名行方不明
 湊2丁目南中南側床下浸水 湊3丁目床下浸水/戸数不明
- 4:32 志平川土石流災害発生 住宅4棟倒壊/2名救出 1名行方不明
 本沢川土石流発生
- 5:40 岡谷市災害対策本部設置(会議開始)
- 6:05 県危機管理室に自衛隊へリによる状況把握依頼
- 6:15 川岸東2丁目橋原志平地区避難勧告(西部中学校へ)
- 6:15 橋原区避難勧告(西部中学校へ)
- 6:20 湊2丁目・3丁目小田井地区避難勧告(湊小へ、南部中学校へ)
- 6:22 川岸東3丁目站沢区避難勧告(川岸支所へ)
- 6:25 県知事から自衛隊要請したと、市長に連絡あり
- 6:43 長野県緊急消防援助隊出動要請
- 7:00 上の原小学校体育館に土石流情報あり
- 7:45 上の原小付近避難勧告(横川公会堂へ)
- 8:00 岡谷病院外来休診 災害被害者対応のため避難所へ
 医師看護師 2隊派遣
- 8:00 緊急消防援助隊各隊岡谷消防の指揮下に
 (長野、松本、伊南、伊那、長野、北アルプス、須坂など11隊45人)

- 8:20 久保寺南付近再度土石流の恐れ 警戒広報
- 9:05 川岸新倉区5町内避難勧告 川岸支所に 22名避難
- 10:10 自衛隊橋原現場行方不明者捜索へ
- 11:57 志平川災害現場行方不明者遺体発見
- 12:30 自衛隊湊地区へ転回
- 13:00 現地対策本部立上 湊被災現場捜索準備打ち合わせ
- 14:16 湊小田井沢川 2名遺体発見
- 14:38 湊小田井沢川 1名遺体発見
- 15:16 長地出早2丁目横川地区上の原小学校付近 避難勧告解除
- 15:40 湊3遺体身元確認
- 18:44 湊小田井沢川 1名遺体中央道上で発見
- 24:00 岡谷警察署で遺族確認
 災害対策本部24時間体制開始

<学校関係>全小中学校休校

<ボランティアセンター>ボランティア受け入れ/22人センター内業務

7月20日

- 4:25 湊小田井沢川 1遺体発見
- 11:20 横川区避難施設を上の原小学校から北部中学校第二体育館に変更
- 13:00 警戒を強める警戒広報を全市一斉に流す。
 (13:00、15:00、17:00に再度放送)
- 15:30 湊5丁目、栃久保下流域の一部住民約50世帯150人に避難勧告
 (避難場所/小坂区公民館・湊小学校)
 川岸一の沢川下流域の一部 住民約60世帯180人に避難勧告
 (避難場所/三沢区コミュニティー)
- 18:48 経務省消防庁、消防大学の専門家が来岡、捜査活動における
 雨量基準安全対策についてアドバイスを受ける。

- 21:00 小坂区公民館 約100人避難
 (三沢コミュニティーへ/約70人避難)
- 21:35 湊小田井沢川 1遺体発見
 要員交代し小田井沢川捜索継続

●7月20日現在 行方不明者/1名 死者/7名

<学校関係>休校:上の原小学校・湊小学校・川岸小学校
 南部中学校:西部中学校2時間遅で始業

<ボランティアセンター>受け入れ/30人 センター内業務 上の原小学校へ

7月21日

- 4:00 湊小田井沢川 降雨により二次災害の危険があるため捜索中断
- 6:30 避難所 賛助9箇所 合計 725人
- 8:30 湊1丁目8・9・10・11・12番の住民に避難勧告
 避難場所 南部中学校・下浜区民センター
- 9:00 湊中央高速道第二高架橋付近で山が動くとの情報あり
- 9:25 湊1丁目13・14・15・16・17・18・19番、
 湊2丁目1・2・3・4番の住民に避難勧告
 (南部中学校の避難指定を取消し) 避難場所 田中小学校
- 9:43 8:30、9:25の避難勧告を避難指示に変更
 高部中避難者を田中小に移動
- 10:25 湊1・2丁目住民避難完了

- ・ロマネット・諏訪湖ハイツの避難者入浴無料措置
- ・ヘルシーバル岡谷特定避難者の受け入れ依頼に対し了解
- ・被災地域への立ち入りを制限し、行政防災無線で注意喚起。
 県職員復旧作業ボランティア22、23日の実施申込み有り。
 避難解除のタイミング等調整が必要と回答
- ・ワイヤーセンサーなどの観測機器の設置や監視体制を整えた上で、捜索再開とする。
- ・被災地域の消毒作業 避難勧告区域外の土砂等が片付いた時から作業に入る方針。
- ・信州大学北原先生等の調査チームの報告を受け、湊花岡秋葉山地域の
 安全が確認できれば湊・花岡地域の一部を避難解除する方針決定

●7月21日現在 行方不明者/1名 死者/7名

<学校関係>休校:湊小学校・川岸小学校・上の原小学校・南部中学校・岡谷小学校・西部中学校 午後休校:田中小学校・長地小学校・神明小学校・小井川小学校 東部中学校・北部中学校

<ボランティアセンター>受け入れ/20人 物資仕分け

7月22日

- 4:00 湊花岡秋葉山方面に現地調査
- 7:00 湊1丁目13・14・15・16・17・18・19
湊2丁目1・2・3・4・5番の避難指示を解除
- 14:30 新倉5町内避難勧告解除
- 15:00 小田井沢川捜索活動再開
- 15:30 小坂橋久保地区避難勧告解除

- 16:00 川岸橋原志平地区、鮎沢地区避難勧告を解除
田中小学校避難所から南部中学校へ避難者移動

●7月22日現在 行方不明者/1名 死亡者/7名
<ボランティアセンター>受け入れ/116人 橋原・駒沢へ

7月23日

- 6:30 湊小田井沢川捜索開始
- 8:00 湊1丁目の避難指示解除
- 11:00 一の沢地区避難勧告解除
- 18:40 県道岡谷橋川線勝弦峠付近の通行止めを要請

流に監視員を配置。県建設事務所から早期の災害応急対応のため、被害全地域の詳細な現地調査中、順次対応説明をすとの報告有り。

●7月23日現在 行方不明者/1名 死亡者/7名

<学校関係>

上の原小学校	7月24日(月)～7月26日(水)	休校
	7月27日(木)～8月21日(月)	夏休み(予定)
湊小学校	7月24日(月)～7月27日(木)	休校
	7月28日(金)～8月21日(月)	夏休み(予定)
南部中学校	7月24日(月)～7月27日(木)	休校
	7月28日(金)～8月17日(月)	夏休み(予定)

その他の小中学校は、7月24日(月)は通常どおり

<ボランティアセンター>受け入れ/240人 新倉・駒沢へ

- ・湊小学校・南部中学校避難所 第1回一時帰宅実施
午前8時～正午 一時帰宅世帯数/53世帯(155人)
午後1時～午後5時 一時帰宅世帯数/43世帯(127人) 計96世帯(282人)
付添職員 警察/39人(内シルクエンジェルス/30人)
市職員/43人 計/82人
- <小田井沢川(岡谷市湊3丁目)の応急対策の実施について>
流出した土砂の撤去作業、セイル等で危険を知らせる土石流センサーを設置、上

7月24日

- 8:00 行方不明者捜索を中止。13時に今後の気象状況で再検討。
- 14:45 累計雨量と捜査部隊の安全を勘案し本日の捜索を中止
- 20:00 独立行政法人土木研究所の主席研究員からアドバイスをうけ、
累計雨量30mm時間雨量5mmの基準を設け今後これを目安に
捜索活動等を行うこととした。

釜口水門で規制指導。規制区域では市と消防で、ただし、昼間は交通安全協会等で指導をする。

- ・相当降雨量が予想されたため災害発生区域には引き続き警戒の広報実施を確認
- ・上の原小学校上 応急対策工事着工

●7月24日現在 行方不明者/1名 死亡者/7名

<ボランティアセンター>受け入れ/162人 橋原、夏明、駒沢へ

- ・県道岡谷茅野線 一般車両引続き通行止めを確認。警察署は、石船波・天竜橋・

7月25日

- 6:00 強雨のため、8:00からの捜索活動は中止
- 15:30 湊小田井沢川捜索活動開始
- 16:00 小田井沢川に監視カメラを設置

- ・避難所におけるメンタルケア等の実施
スクールカウンセラー/湊小・南部中・西部中に各1名
メンタルケア/湊小に配置
諏訪保健所長、食の安全・生活衛生チームリーダー/各1名
保健師/3名(保健師2名が湊小を基点に各避難所を巡回する予定)
- ・消毒 駒沢区、新倉区、鮎沢区、橋原区の一部で終了

●7月25日現在 行方不明者/1名 死亡者/7名

<ボランティアセンター>受け入れ/137人 橋原、駒沢、花岡へ

- ・被災者仮住居の提供
希望者12世帯(市住5世帯 教員住宅3世帯 調整中4世帯)
- ・市被災者総合窓口開設 市民ロビー、湊小学校、南部中学校、川岸支所で開設
- ・ボランティアセンター窓口変更 カノラホールから1F市民ホール東側へ移動
- ・湊小避難所、市内医院へ通院中の避難者に対する送迎サービスの実施

7月26日

- 6:00 湊小田井沢川捜索活動再開

- ・避難勧告解除に向けての方針決定
小田井沢川・八重場沢川の上流部に応急対策として、大型土のうを積み、安全対策を施し、早期の勧告解除を図っていく。

・上の原小学校復旧 昨日から県教職員ボランティアを毎日100人規模で受け入れ、体育館等の土砂の搬出をしていく。

●7月26日現在 行方不明者/1名 死亡者/7名

<ボランティアセンター>受け入れ/314人 新倉、橋原、花岡へ

- ・川岸支所避難所を閉鎖
- ・消毒作業 橋原地区終了 湊地区勧告地域以外住宅は終了
- ・ボランティアセンター 救援物資の受け入れについて
1/必要物品のみ受け入れ 2/直接避難所への持込はしない。
- ・JRバス 川岸～辰野間で代行バスをだす 7月26日～28日まで

7月27日

5:52 | 湊小田井沢川捜索活動再開

- ・避難生活の長期化に対応するため、徒手療法、スポーツリハビリ等の指導を実施
- ・湊小学校・南部中学校避難所 第2回一時帰宅を実施
10:00～12:00 13:00～15:00 15:30～17:30 の三班に分け実施
- ・応急対策工事概要承認
八重場沢川 上流部に横断的な大型土壌による壁堤を1箇所設置
小田井沢川 横断的なえん堤を1箇所と導流堤を数箇所設置
- ・消毒 湊小学校周辺道路、下浜ヤード、橋原、駒沢ゴミ集積所で実施

- ・県道岡谷茅野線の通行止箇所、浸地域住人に限り、通行許可証により緩和措置をする。小坂公民館、花岡区民センター及び避難所で配布
- ・上の原小学校での土砂搬出作業 県教員ボランティア中心に実施 教員311人、大体育館の97%の土砂の搬出を行った
- ・塩嶺病院検診車による、検診33人 問診異常なし
- 7月27日現在 行方不明者/0名 死亡者/8名
<ボランティアセンター>受け入れ/252人
橋原、新倉、駒沢、鮎沢、花岡、小坂、上の原小

7月28日

6:00 | 湊小田井沢川捜索活動再開

- ・志平川・的場川の埋土の除去し、水路の確保を進める。本沢は市で実施。
- ・被災者総合相談窓口 土日8:30～17:30開設
<ボランティアセンター>受け入れ/294人 新倉、橋原、駒沢、花岡、小坂へ

7月29日

6:00 | 湊小田井沢川捜索活動再開

- 15:05 自衛隊、警察、消防による人命救助活動を終了した。
- 16:10 南部中学校校庭で人命救助活動等終了式 自衛隊蔵収
- ・湊小学校・南部中学校避難所第3回一時帰宅実施
8:00～10:00 10:30～12:30 13:30～15:30 の3班に分かれて行う
- ・小田井沢川上流 応急対策工事着工 志平沢川の応急対策工事着工中

- ・的場川の流路の整正は完了。
- ・県道通行許可証発行 花岡区/740台 小坂区/926台 計/1,666台
- ・気象庁が命名した「平成18年7月豪雨」を災害名称とする。
- ・浸地区勧告解除について、一部解除も含め実施検討を進める。
- ・塩嶺病院検診車 湊小学校で実施/6名検診
<ボランティアセンター>受け入れ/472(県職32)人
橋原、新倉、鮎沢、駒沢、花岡、ニース調査

7月30日

- ・湊小学校・南部中学校避難所第4回一時帰宅実施
8:00～10:00 10:30～12:30 13:30～15:30 の3班に分かれて行う
- ・八重場沢川 大型土壌積み(導流堤)終了
- ・平成18年7月豪雨災害死傷者数/19名 確定数値
(死亡/8人 重症/1人 中等症/2人 軽症/8人)

- ・塩嶺病院検診車検診 西部中・南部中等で実施/22名が検診
3日間で計61名が検診
<ボランティアセンター>受け入れ/401(県職60)人
新倉、橋原、花岡、ニース調査

7月31日

- 7:00 | 湊八重場沢川地区避難勧告解除
- 18:00 | 県道岡谷茅野線 通行止解除
- ・避難解除後の地区への立ち入りについて
復旧工事等のため、一般車両及び関係者以外の立ち入りは禁止とし看板等によ

- り誘導案内をする。
- ・志平川、大型土壌で河道確保工事中 7・8割の進捗状況である。
- ・上の原小学校付近の応急対策工事(沈砂池設置)完了
- ・小田井沢川の応急対策工事 大型土壌による導流堤の設置完了を地元と確認
<ボランティアセンター>受け入れ/248(県職120)人 夏明、花岡へ

8月1日

- 7:00 | 湊小田井沢川地区避難勧告解除
- ・応急対策工事 小田井沢川、志平川は継続中
- ・消毒作業 小田井沢を重点的に実施

- ・降雨量を基本とした避難体制基準を提出
<議会>災害被災現場視察実施
<ボランティアセンター>受け入れ/366(県職248)人
橋原、湊小田井へ285人

8月2日

- ・湊小田井沢川地区復旧に本格的にボランティアが入る
北小路付近に、県職員ボランティア/280人
一般ボランティア/130人 計/410人
- ・鮎沢・橋原ゴミステーションの閉鎖
- ・工作車による被災車両からの貴重物品の撤出
- ・現地対策本部 24時間体制から、7:00～21:00勤務へ
- ・避難体制基準を策定

- ・17:00/南部中学校避難所往隣鎮
- ・19:30/志平沢川の応急対策工事等についての説明会を橋原区で開催
- ・志平川の大規模土壌積み工事終了
<ボランティアセンター>受け入れ/497(県職289)人
橋原、湊へ橋原、湊小田井へ285人

8月3日

- ・湊小田井沢川地区復旧作業
- ・405人のボランティアと、重機7台で各戸の土砂撤出
- ・北小路にボランティア用トイレを、湊小学校に救護所を設置
- ・上の原小学校 床改修工事に入る

- ・県・市で被災家屋訪問相談を実施
- ・義援金の受付状況 公表
- ＜議会＞正副議長、各会派代表と市長 災害について懇談
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／531(県職356)人 橋原、湊へ

8月4日

- ・湊小田井沢川地区復旧作業 ボランティア／405人 重機／15台
旧道から県道、北小路、南小路で作業を行う
- ・捜索区域の撤去作業 ボランティアの安全を考慮し来週まで持ち越しの予定
- ・総合相談窓口 土曜日から湊小学校の窓口を湊支所へ移設をする
開設時間は8:30～17:30まで ただし18:00～20:00まで湊小学校で

- 臨時相談を受けける 本庁と川岸支所の総合相談窓口は土日休みとする。
罹災証明は、87件発行
- ・19:00／西部中学校避難所閉鎖
- ・消毒作業／5件実施
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／593(県職378)人 湊他へ

8月5日

- ・湊小学校避難所 5世帯 19人
- ・仮住居 公営住宅に8世帯が同居になる。
- ・湊小田井沢地区復旧作業状況
- ・736人(県／328人 一般／282人 花岡区／126人) 重機／14台

- 旧道から県道、北小路、南小路を行う。ほぼ全部の家に作業の手が入る。
- ・被災企業の復興について個々に相談に応じ対応を進めている。
- ・病院事業の看護師巡回は本日で終了。保健師と養護教員で対応する
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／690(県職328)人 橋原、湊 他へ

8月6日

- ・湊小学校避難所 4世帯 15人
- ・湊 小田井地区状況 一般ボランティア205名と消防団員 重機／11台
中央道上の家屋、工場にも手入れ
- ・下浜ヤードの分別作業量が膨大化、作業音を振り向ける。

- ・被災者支援事項の確認
- ・消毒作業 20件実施
- ・今夕 大雨雷注意報がでる。22:05／解除
- ＜ボランティア状況＞受け入れ／262(県職0)人 橋原、湊 他へ

8月7日

- ・湊小学校避難所 6日夜の避難世帯なし
- ・19:00／湊小学校避難所を閉鎖
- ・湊小田井地区作業状況
重機／7台 県職ボランティア／200人・一般／100人位で実施
15:00／終了 台風に加え、各戸の危険箇所に土壌積みを22:30まで実施する
- ・小田井沢川に設置の監視カメラを撤去
- ・消毒作業 2件実施
- ・応急工事及び避難体制の地元説明会の開催
小田井沢・八重場沢地区 7日 20:00 湊小学校体育館

- 的場川地区 8日 19:30 駒沢公民館
- 橋久保川地区 10日 19:00 小坂公民館
- 本沢地区・駒沢地区 11日 19:30 川岸支所
- その他の地区は調整中 志平川地区は8月2日に説明会終了
- ・15:00／志平地区災害現場内の立ち入り禁止解除
- ・総合相談窓口
湊支所 開設時間 8月7日(月)から8:00～20:00
湊小学校 17:00～19:00
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／359(県職200)人 橋原、湊 へ

8月8日

- ・JR中央線 岡谷～辰野間 8月8日(火)始発から運転再開
- ・台風7号の接近により気象情報に注意
消防は今夜半から署・各分団で11の沢と流域で警戒態勢をとる。市職員は自宅待機、基準を超える雨量予想のため、広報車・避難所の準備体制をとる。
- ・湊小田井地区作業状況

- ボランティア県職／149人・一般／66人の215人体制 重機／6台
作業は、大方終了 県職ボランティアは本日で終了
- ・大型ゴミの集積所(湊保育園駐車場)は、お盆は休みで20日に閉鎖
- ・ボランティアセンターの今後の対応 市民ロビーは11日に閉鎖
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／285(県職149)人 湊へ

8月9日

- ・湊小田井作業状況
ボランティア／82人、重機／2台で全体の整備をし、15:00に完了した。
現地対策本部は解散
- ・台風7号の警戒体制 消防 今朝6:00まで223人体制で警戒巡回をした

- ・消毒作業 2件実施
- ・岡谷市災害対策本部の解散について 明朝8:30に発表する
- ＜ボランティアセンター＞受け入れ／118人 湊 ほかへ

8月10日

- ・総務部に豪雨災害復興対策室を設置
- ・平成18年7月豪雨災害の復興支援と復興整備の2担当で業務を行う。

- 復興参事兼対策室長を筆頭に11人体制で、災害対策本部業務を引き継いだ。
- ・8:20／災害対策本部閉鎖

平成18年7月豪雨災害 時系列 諏訪市

7月17日

6:14	大雨、雷、洪水注意報	10:30	対策本部員会議 警戒配備体制に入る 災害警戒本部設置
6:15	危機管理室召集	12:00	土砂災害警戒情報
8:15	冠水情報が入り始め、消防団に出動要請	13:30	新川決壊危険あり 消防団、建設業協会で土嚢対応
8:23	大雨警報発令	19:09	大雨、洪水警報(継続)
8:45	配備検討会 本部員を収集	20:10	新川作業終了

7月18日

11:30	大雨、洪水警報(継続)	19:13	県道岡谷茅野線通行止め(有賀交差点～神宮寺交差点)
14:30	通勤バイパス通行止め	19:20	新川左岸住民、南真志野公民館へ自主避難 9世帯18名
16:18	湖周線通行止め(温泉植物園～サットハーバー)	22:20	明星線通行止め
16:20	新川左岸、新川バイパス通行止め	22:41	尾王区住民、双葉ヶ丘公民館へ自主避難 2世帯4名
18:00	諏訪市災害対策本部設置 第一次配備	23:05	東柳町最上部住民、各自関係先へ自主避難 2世帯4名
18:15	県道諏訪辰野線通行止め(信濃橋切～県宿)		

7月19日

4:00	災害対策本部 第二次配備		湯の脇1・2、大和3の一部 浸水増大により
4:00	中央道通行止め	7:21	避難勧告⑤ 21世帯51人 片羽町の一部 土砂崩落発生により
5:45	避難勧告① 1,635世帯3,598人対象 中浜町、湖柳町、衣の渡、西大手町、大手1～3、高島町、弁天1～3、 末広1、島崎1 浸水増大により	8:12	湖明館通り通行止め
6:00	避難勧告② 16世帯36人 茶白山の一部 土砂崩落発生により	9:45	湖南北真志野 中の沢川 上流部で土石流発生
6:00	片羽保育園裏山、幅20m×高さ15m 崩壊	10:00	避難勧告⑥ 118世帯339人 北真志野の一部 土石流第一報受信により
6:10	避難勧告③ 105世帯228人 富浜町、浜町1・2 浸水増大により	16:45	避難勧告②④⑤ 解除 安全が確保されたため
7:05	避難勧告④ 351世帯848人	19:00	浸水等住宅への夕飯配布 職員13班編成 2,000人分
		20:30	国土交通省大型ポンプ車6台稼働開始 災害救助法が適用

7月20日

8:30	東ノル跡地ゴミ集積所開設	18:00	国道通行規制解除
11:00	中央道諏訪IC～岡谷IC無料開放	18:24	国土交通省ポンプ隊作業終了
15:16	大雨警報解除 洪水警報継続		ポンプ2台、運搬車両1台残すよう市長から要請
15:50	避難勧告①③⑤ 解除	21:10	小川公民館自主避難者帰宅の報告
17:46	通勤バイパス右岸、鷹野橋から下流、規制解除		

7月21日

8:40	避難勧告② 146世帯 北真志野中の沢川流域 土石流発生の危険のため	13:00	武道館にボランティアセンター開設
10:55	避難勧告③ 53世帯 大熊唐沢川流域 土石流発生の危険のため	14:30	香榊哲男防災担当大臣(内閣府)以下政府調査団現地視察
11:15	大雨警報発令 洪水警報継続	14:55	避難指示① 4世帯 桑原弘法寺上 土砂崩落の危険のため
13:00	自主避難 双葉ヶ丘 7人 自主避難 後山 2戸	15:30	羽田雄一郎参議院国土交通委員長現地調査

7月22日

6:30	中央道全面開通 清掃センター 土日受付可能	9:50	避難指示① 解除
9:00	県職員ボランティア 1,400人 浸水箇所消毒作業開始	10:09	大雨、洪水警報解除
9:40	避難勧告⑦ 解除	10:10	避難勧告⑧ 解除

7月23日

15:20	県道岡谷茅野線片側通行可
-------	--------------

7月24日

9:00 | 中ノ沢川に土石流センサーを設置
 16:00 | 武道館ボランティアセンター閉鎖 今後社協対応
 17:00 | 消毒作業終了 今後個別対応中心

7月25日

10:30 | 関東経済産業局産業部遠藤流通サービス産業課長以下現地調査

7月28日

10:00 | 衆議院災害対策特別委員会現地調査
 17:00 | 諏訪市災害警戒本部設置 全職員自宅待機解除

8月3日

10:30 | 石毛博行中小企業庁長官以下現地調査

8月4日

16:15 | 諏訪市災害復旧連絡室設置

8月7日

被災者生活再建支援法対象地域として長野県認定

8月9日

災害被害額中間報告及び報道発表

8月11日

9:30 | 国土交通省河川局亀江紗防部長現地調査

8月17日

13:30 | 被災者生活再建支援法に係る第二次調査説明会①

8月18日

13:30 | 被災者生活再建支援法に係る第二次調査説明会②

8月21日

被災者生活再建支援法に係る第二次調査開始 ～31日まで
 16:00 | 県議会商工生活環境委員会及び農政林務委員会現地視察

8月22日

10:30 | 関東経済産業局高橋伸一郎産業部長以下現地調査
 11:00 | 災害関連緊急事業・本復旧事業打ち合わせ(諏訪建設事務所)

随時折衝 (対策本部)

県関係

○災害復旧対策(危機管理局危機管理防災チーム・諏訪建設事務所・諏訪地方事務所)

○ゴミ関係(生活環境部廃棄物対策チーム)

○第二次調査関係(住宅部建築まちづくりチーム)

平成18年7月豪雨災害 時系列 伊那市

7月17日

9:15	伊那小沢区県道内の菅伊那線(西部1号西300m)で落石。		
9:18	長野地方気象台大雨警報発令(8:23) 猪ノ沢川付近農地冠水、冠水状況を写真撮影。		
9:30	竜東中央区古川があふれそう。春日医院前溢れている。 ／4班確認中央区交差点側溝溢水。 古川の水量も多い。(水位上昇+600mm)。 春日医院前水路溢水。		
9:45	西箕輪ゴルフ場前 ニラ沢川があふれている。		
10:20	西箕輪小沢川上流 大笠水利取水口から300m下流、 斜面から落石があり。23号台風の時も落ちた地点。	13:30	東伊那地籍で倒木有り。 伊那側を車両通行止め ・戸谷川宥賀一雄宅裏 土嚢をL=20~25m 伊那御園新町の水路あふれている。 ・高遠一級河川藤澤川の荒井地籍で河川が溢れそう。 土嚢を積んでいる。 一級河川藤澤川の弥勒地籍で護岸いっぱい溢れそう。
10:20	西箕輪羽広内の小水路があふれそう。	15:15	17日午前中から高遠 上笠井で土地改良区水路からオーバーフローして水が入り込む／現場土嚢対応
10:30	西春近沢渡木村付近水路があふれている。	15:20	東春近田原発電所北東200m土砂崩落 水路への土砂の流入の有無不明 上6277市道田原山方線、下6263市道田原山手線法面崩壊
11:20	伊那県文化会館上の県道水路があふれている。	15:30	西春近山本 あけび沢土砂が出始めた。 山間や田のアゼの糧食と土砂流出、水田への土砂流入もあり
11:36	天竜川水防警報発令	16:10	伊那R.O.A上、地区で水防作業を行うも、土嚢が足りない、
11:50	旧国道361号5号カーブ右へ進入する林道より出水。	16:30	西春近猪ノ沢川、藤沢川合流点付近決壊し始めた。
11:52	大雨洪水警報発令	20:00	西春近 沢渡伊那西高北道路側溝工事箇所で掘削部に水が入り込み、一部が宅地側へ侵入の恐れがあるため、土嚢を設置した。 高遠消防署から連絡はありましたか?高遠城址下の道で落石があった。 高遠大橋から長谷のほうへ行く道(県道芝平高遠線)通行止めにした いが...
12:00	国道361号田道全面通行止め		
12:30	県道西伊那線美郷上原 道路を流れた雨水により土砂崩落		
12:50	県道西伊那線 新山入口交差点から150m 路肩崩壊の恐れ		
13:05	伊那戸谷川 みやま画廊の裏、ギャラリー前の波がうねり水路を越えそう。		

7月18日

0:15	午前0時 高遠県道芝平高遠線 城址入口~白山郷の間 通行止め。 危険なため警察署から強い要請があったようである。(総合支所情報)		
6:00	西春近 板沢川右岸に倒木。崩落箇所あり	15:45	避難勧告1戸 警報の状況により周辺住宅の避難体制も整える。
10:35	伊那小沢区付近道路排水が侵入。現地を確認して欲しい	15:47	西春近小出三区 タカノ西側 加土が市道に流出
11:40	高遠町鈴持町町民体育館上で崩落(急傾斜地) 県道沢渡高遠線光丸寺横の歩道。倒木あり通行に支障あり	16:35	東春近下殿島水路が溢れて唐沢敏夫氏宅に侵入
13:00	伊那 ホテルオオハシ付近側溝溢水／現地確認 県道伊那駒ヶ岳線、市道室町伊那部線交差点下の久保村初さん宅の擁壁から湧水 天竜河畔病院P、松井自動車Pに雨水がたまりよけない。	16:45	西春近 美和湖洪水パイプから放流中 本日午後3時以降
14:05	美郷 市道の排水が宅地に流入する。	16:50	西春近 沢渡木村付近冠水 通行止めの措置
14:20	伊那警察署車庫(共栄)市道南部線 倒木処理	17:00	手良中坪区向山広さん宅北側の棚沢川
15:20	南郷線車庫側上り口150m位。 枯れた直径20cmくらいの木が根元から倒れて道をふさいだ。	18:15	釜口水門21時より130t/秒 ⇒230t/秒 天竜川増水
15:20	西箕輪 大笠北信号上の後藤さん宅。道路から水が流入する	18:42	高遠町藤沢 ヒューム管が詰まって水が道にあふれている。
15:20	美郷 17日午前中~18日 前原区藤沢広志さん宅 市道から排水が流入。 假人が土嚢を設置済	19:10	天竜川が特別警戒水位となりました。(H=7.1m)
15:25	美郷 市道2123号伊那北小南100m位グレーチングから溢れている。	20:40	伊那 県道内の菅伊那線と西部1号との交差点信号機から50m位下 左岸の護岸が欠けてきている。
15:35	高遠町市道福袴大谷河原線を全面通行止め、国道361号片側通行。 伸縮計の設置と警報機3ヶ所の設置を決定。	21:30	富県 南福地池 池上リョウジさん宅の上の川が溢れ、 自宅に流れ込む恐れがある。地区で土嚢をつんでくれる。
		22:00	竜東 上板八幡神社入口上50m位 倒木あり
		22:10	東春近 南部線と桜井殿島線交差点付近公民館あたり、 住宅に流入の恐れ。地元が土嚢対応中だが間に合わない。
		22:13	東春近 大沢川と南部線の交差点から30m上流で、ブロック積み が欠けているところが15~20m位空洞化して危険な状態。

7月19日

0:02	天竜橋～明神橋の東側南箕輪で避難命令を出した。		
0:10	東春近 桜井殿高線寺坂地区 側溝から水があふれ、谷側に流れ込んでいる。 ノリケードなどを併受け通行止めにする。	8:40	中央道の排水にものが絡まって西春近バス停から北へ5～600mのところの井筋に入り込んでいる。
0:35	西春近 山本あけび沢 昨日措置してもらったが状況が変わらない。	8:40	手良繁沢 棚沢川の上流が決壊。対応を、現地に区長が向かっている。 最終点より上で市と県の管理がわからない。
2:10	西春近 諏訪形手法正寺上。倒木で水路が溢れている。	8:45	伊那山寺県道伊那北線 一ツザワ双葉店～北マルダ工業方面へ
2:35	大型重機の要請が再度あり。	9:00	富県桜井県道沢渡高線法面崩落 大きなけやきが倒れ、水田にかぶさっている。
2:15	西春近柳沢の前沢川。中央道との暗渠、土砂が閉塞して土砂が中央道に出ってしまったのでは、その影響で中央道下の民家にも影響が出ているらしい。	9:15	東春近田原区 一昨日発電所北で崩れ対応したが、少し直で崩れた。 前より大きく道路が通れない。
3:17	市長の避難勧告を出すこと。作業のできる状況にない。また、隔く近づけないためどうすることもできない。住民の避難呼びかけをしっかりとするよう。避難の呼びかけは20戸に及ぶ。 H18.7.20 住宅の排土のストック場所を区と話し確保する。 建設で排土。	9:45	現地確認。ブルーシートで崩落拡大措置済み。区長とともに確認。 他に水道仕切り弁陥没。
3:23	西箕輪 木曾側神谷ランプから1km付近で土石流の恐れがあり、普及のめはたさない。3:00にR361を通行止めR19号もまだ復旧の目途が立たない状態 H18.7.20 沢上流のフン巻堰堤の排砂及び西部1号暗渠の清掃	9:25	高遠藤沢荒町1811 山で1軒しかなく生活道路が崩れ孤立し、軽自動車でも通れない。
3:50	柳沢会所に4戸が避難中。2戸はまだである。	9:43	伊那箕輪の境にある棚沢川が普段天竜川に流れ込むが、天竜川の勢いで箕輪側の田んぼに流れ込み、田んぼは水浸している。
5:00	富県北新区未舗装道路 碎石流出 3立方 市道奈良尾1号線(3041)	9:45	西春近諏訪形 堂沢川の土砂災害がひどい。1軒は床上浸水。 前沢川の水が中央道をつたって堂沢川と法正寺の沢に流れている。 「堂沢」ではなく「大洞」であることが判明
5:20	西春近 西部1号線 伊那食品猪の沢工場と田五十鈴の間、川のないところから水が出ている。大量の水で土手を欠いた。 南の沢が埋まって水が西部1号まで達する。 側溝の修繕や掃除の準備を始めた。鉄砲水が吹きさう、にげるように。	10:00	手良野口棚沢川 ブロック積み壁等崩れる。 ／現地調査により10m程度1箇所、40m程度1箇所。 他調査により増すとされる。
5:45	西春近小出三区住宅の横の道を茶色の水が流れている。 市道細ヶ谷犬田切線の西側の川筋から水が入り込んでいる。 下方の家屋敷地内に流入している。	10:00	山の土砂崩落 W=7m、H=10m 南割 美築東部保育所西方
5:50	西春近小出三区集落センター前、西部1号線西の小橋が落ちた。 西部1号に影響なし。橋の元が欠けた。	10:25	榛原河川道路(桜井河原線)6m×10mが崩れている
6:59	西春近猪の沢川 昨日と同様である。 地元とも話をして状況を連絡してもらうことになっている。 基本的に昨日と同様の対応しかできない。	10:50	平沢区重盛 現ヶ洞。 横山から水がきて下で溢れている。
6:10	伊那山寺区キタノヤ電気表牡丹園の駐車場付近から水が湧出ている。 付近冠水	10:50	平沢区重盛 花沢の路肩が崩れており、水路が埋まっている。
6:13	伊那西町ますみヶ丘水路橋あふれた。中央道へ落ちている。	11:30	東春近 晩野区から水が流れ出している。
6:30	国立高遠少年自然の家へ行く道が陥没	11:45	西春近小出二区 山本団地内公園の西。出た土は50センチ位 ／13:30現地確認。団地南西角の公道より山側、 がけ崩れL=20m、H=10mくらい崩れている。
6:40	伊那 前沢、南小へ避難 下小出前沢川北側→南小へ避難	12:35	西春近小出二区 山本白山神社の裏割が崩れてきている。 危険なので通行止めにしてある。 ／PM1:40現地 神社参道ではなく、社敷まで車でいける南側の迂回路。 1箇所沢によってがけ崩れ(L=2m、H=4mくらい)車の通行は不可。 神庭の裏も崩れている(H=3m、L=20mくらい)土砂が社敷に当たってはいるが、被害はない。
6:50	伊那水神橋の通行止め	12:50	東春近殿高沢川3らで堤防が決壊している。右岸L=20mの範囲で壊れている。現地で木流しの準備を進め、木流しを行った。
7:10	竜東 野底公民館上流300mの棚沢川。倒木(直径25cm)あり。 重機でないと撤去できない。根が洗われている。	13:40	伊那北保育園北側 棚沢川 現地確認 息担当者 立合いの元 護岸のブロック積み裏が壊れている。
7:24	東春近波場 殿高橋が通行止め	14:00	沢渡急傾斜地の崩落。朝6時半? 通行止めにして警戒中。
7:45	西箕輪大窪ニラ沢川支流 600×600U字溝の合流部やカーブのところで水が吹いている。	14:00	富県桜井サイクリングロード(3343)三峰川・左岸線L=120m 道路欠陥。
7:45	西箕輪大窪 市道大沢12号線(7107)水路が溢れ、道が川になった。 水路(U字溝)の一部が撤去してあるところあり、 L=10m 地元で撤去したものと思われる。 地元消防団により土嚢等の設置をしている最中だった。	14:15	竜東棚沢川右岸洗掘による堤防陥没。車の後輪が落ちている。
8:00	西春近山本あけび沢 昨日措置してもらったが状況が変わらない。 平沢建設にお願いでないが。 7/19朝～地区民が総出で作業。重機出る。 トラック10台分の土砂を運んだとのこと。	14:55	伊那山寺水神町の旧水神保育園で天竜川の水が流れているから見てくれとのこと。／この沿線は湧き水が多い。 ・天竜川の水位が上がると、旧中病から旧水神橋までの沿線に湧き水により水が出る。 ・北原、内山、春日の3軒が床下浸水となり、特に北原さんの所が水が多い。 ・基本的に天竜川の水位が下がるか、床を高くするしかない。
8:00	西春近市道田代神社線(7104)道路が溢れ、道路が川になっている。 地元消防団により危険箇所には土嚢設置済み		美築東部保育園の西 裏山が崩れて住宅の庭まで侵入してきている ／区長と現地確認
8:05	西箕輪羽広 大泉川の清水工業前の市道が決壊。通行止めの処置を		

15:00 美鶴赤羽南割 “18日頃頃から美鶴南割 春日東洋雄郎 裏の山林から集まってきた水が流れ出し崩れる恐れあり。”
 “3年前台風時にすぐ隣が崩れた。
 区からの要望は崩れ防止のため木枠の階段状の柵を作ってほしい。”

15:10 南箕輪村天竜橋水位が下がったら考えないが、今のところ解除は考えない。連絡を取り合いながら調整することとした。
 天竜橋、旧水神橋、明神橋、中央橋

17:00 市道羽広吹上線(7087)暗渠に穴が開いており、羽広第二公民館北東側の市道(7087)との境あたりから3箇所ほど水が吹いている。

7/20朝、羽広区長からも同情報があった。とりあえず、水が吹くところに土嚢を置いてくれた。水が止まってから暗渠の修繕の相談

17.00 手良 棚沢川(1級河川) 護岸ブロックの裏がぬけている貝沼区3116市道中島2号線沿いの水路 空石積護岸崩れた。L=300m
 いるが、被害はない。 状況を伝えると共に、道、社殿敷地内は部落のところから水が出ている。大量の水で土手を欠いた。/吉沢建設へ依頼
 南の沢が埋まって水が西部1号まで達する。
 側溝の修繕や掃除の準備を始めた。鉄砲水が起きそうにげうように。

7月20日

8:50 竜東野底 裏山が崩れて、住宅にも被害があり市管住宅等に避難したい。現地確認をしてほしい。
 9:30⇒現地確認へ 9:30 本人野底公民館へ避難。
 12:00 前西道路野底手良線一部全面通行止め。
 13:30 大萱団地96号へ引越し 17:20 野底手良線片側通行(信号機)
 18:00 プルシートで応急処置 野底区長へ 連絡
 19日頃南部線起点100m左側より水があふれ出ている。
 倒木あり 20日14:00頃。
 /現地確認よう壁ブロック下隙間より湧き水が出ている。
 倒木は切断され道路脇に移動されていた。

9:00 諏訪形西部1号通行止めのため、学校教育課に話をして通学路の変更をしてもらうように学校教育課へ依頼

9:30 西箕輪羽広宮下源明宅2996番地付近 市道大沢12号線(70m)、
 交差市道含む10m及びこの市道の終点から西へつながる私道(30m)
 全延長110mの水路から溢れた水が路面排水になる。
 私道部分は道路法面がL=30m崩れている。
 路面排水は宅地、農地への流入を防ぐため、土嚢設置済み

9:30 手良 ①棚沢川一農面竜東より下流100m倒木あり。撤去要
 ②水路の取り入れ土砂堆積

9:30 西春近沢渡 清水坂 市道8070
 19日から玉石積みの下部より湧き水。道路を流れる。
 玉石積みをクリックなし、天端に凹等なし様子を見るように区長へ依頼。
 ・西春近小出三区 小出三区市道(8400)VS300×300に土砂詰り水が溢れ路面を流れる。L=100m
 溢れた水が赤線をとおり畑へ流入被害(L=100m、W=2.0m)
 VS土砂の除去、路面整備が必要。
 赤線の整備と畑の土砂の除去が必要

・西春近小出三区 小出三区市道(8116)舗装損傷陥没、路盤部が洗い流されている。L=80m、W=2m。市道(8400)沢(3面)土砂が流木で詰り溢れ出す。
 18日から路盤、表層の復旧が必要。車両は通行できる状態でないので、上下にバリケードを設置し、通行止めにした。
 通行量がほとんどないので、バリで対応。土砂の撤去が必要。流木の前に土砂を撤去させる。

10:00 西箕輪大泉新田 大泉川及び吹上大泉河原線の泉水橋から上流清水工業前面(4.5m)間の法面コンクリートブロックが崩れている。
 (計測不能) 通行止めの指示を本庁へ連絡。古屋土建に依頼して通行止めの看板設置 現地バリケードにて囲み済み

10:00 手良八ツ手 瀬沢川沿いの法面崩落

10:30 手良八ツ手 市道堂坂矢口線(5278)道路崩落
 /現地確認 L=13m、H=4m 路肩危険防止のポールを設置する。

10:35 西箕輪大泉新田 市道7063吹上大泉新田河原線
 大泉川付近の泉橋～山中移宅まで通行止 迂回路あり

10:45 7/19連絡あり、棚沢川 護岸ブロック又は玉石積み護岸4箇所

西春近小出三区市道(8109)白沢 流量が多く水がオーバーフローした。
 18日から 被害なし。勾配が強く曲がりが多い。
 西春近小出三区市道(8126)城倉健治宅となり(宮ノ原)
 ①ヒューム管が埋まっている(中で管が曲がっているため)L=5m
 ②用水路が橋が洞沢からの土砂でいっぱいになる。L=20m
 ③橋が洞沢より土砂流出城倉氏休耕田が埋まる。
 ⇒昨年平沢建設で堰堤(じゃかご)の工事をした場所も埋まっている。

11:00 手良野口 棚沢川 市道蟹沢1号線(5074) ①橋梁下部洗掘
 ②河床W=2.0m、L=15m

11:10 西春近内の萱 小黒川溪谷キャンプ場300m程度下、小黒川内取水水路(河川内のため延長計測不能)、河川内砕石の流入。
 /河床作業中業者 1機
 内の萱小黒川溪谷キャンプ場300m程度下、県道伊那駒ヶ岳線山林側からの取水路砕石の流入による河床のえぐれ。
 ヒューム管3本分砕石による破損
 ・小出三区戸沢川中央道下河川土砂流出 法面じゃかご流出
 L=20m、SL=5.0m/法面じゃかごの復旧。土砂の撤去

11:15 手良野口 那須野好春宅東側の田んぼの土手崩落
 /現地確認 L=20m、H=3m

11:15 手良野口 ①野口の羽柴勝さん所有の田んぼの土手が崩れる。
 ②蟹沢康彦さん所有の田んぼの土手が崩れる。
 ③名和常喜さん所有の田んぼの土手が崩れる。
 /現地確認 ①L=10m、H=4.0m ②L=10m、H=4m ③L=5m、H=2m

11:15 手良野口羽柴宅へ入る橋梁の基礎下部が洗掘。左岸の護岸玉石積みが抜けたために、石積みの裏側と橋梁下部が洗われてしまっている。
 穴の中に人が落ちないよう地元で対応済み。

11:25 ・伊那西町大坊 県道伊那駒ヶ岳線 大坊公民館付近から西春近方面を望む。崩落の可能性のある山林を発見
 ①林道からの水が市道を流れている。路面に土砂あり。L=100m、W=3.0m 湧水あり水路なし。 ②常輪寺西の墓地より大量の湧水が流れ出し、寺沿線道路(市道8058)を流れる。
 /①路面の土砂の撤去が必要 ②墓地内の湧水であり水は水路に落ちていたため対応の必要があるかどうか。

11:30 西春近小出二区宮下那馬宅1436番地付近(小黒川河川内)取水水路から溢れ。

11:30 伊那西町区小黒 小黒川河川内落差側道にて砕石のつまり

11:30 手良野口東松の田んぼの土手が崩れる3か所/現地確認
 ①L=10m、H=2.0m ②L=20m、H=2.0m ③L=15m、H=2.0m

11:30 手良野口池上幸男宅南側の橋梁下部の護岸玉石が抜けている。
 今のところ橋の落ちる心配はなさそうだが、今後様子見が必要

13:00 ・19日早朝 西春近諏訪形西部1号線諏訪交差点から南 宮田村塚付近 貝付沢土砂流出 西部1号線 約100mおよびその東側住宅と田畑
 ・19~20日 西部1号線 岩澤建設 土砂撤去作業
 ・20日 窪村宅東側水路暗渠 田中産業 土砂撤去作業

・西部1号通行止め

・岩津建設に依頼し、貝付沢上流の砂防堰堤を調査、堰堤内に重機が入れないため、下部を鉄板でふさぎ、下流の暗渠、水路の高圧洗浄作業を実施。

・20日午前田中産業 暗渠開通。引き続き土砂撤去作業。

13:20 西春近小出島区・下島のこと沢と大配水の合流点に土砂が堆積してしまっている。残り1ブロック分。

・とざわ川上流で1~2箇所。川を道路が横断している場所にも土砂が堆積している。

13:30 西春近 地元水利組合の施設からの流水により、住宅内水路が満流。施設からの水は表土を流れているので、表面洗屈の可能性あり

／水利管理者との協議により側溝整備の必要あり

13:30 西春近 市道3060桜井河原線 道路肩ブロック積み下の斜面崩落 L=10m、H=20m／確認 地元でブルーシートを貼り応急処置済み。通行止めの必要なし。

・下殿島区市道唐沢殿島線 1級河川大沢川

①お蝶橋上流右岸護岸玉石積み下部が流出L=10m

②城造造園さん西 右岸L=15m 護岸玉石積流出

／①②状況を確認し、伊那建へ連絡。唐沢殿島線(堤防)の通行止め(バリ設置)が必要

14:00 竜東中央区おこのみ焼き店の前の道が陥没している。

大きさ(70cm×50cmくらい)

14:00 富県上新山休耕田の法面崩壊／確認地元で浸水防止策を行った。

14:00 富県北新東部線奈良尾橋南(羽柴大九郎宅下)道路法面の一部が崩落。S62年に県単治山事業で土留と落石防止のワイヤー施工がされている。／確認 大きな崩れになる心配はない。

14:00 小出島区小戸沢川の土砂が堆積 L=50~100m 今後の雨量増加により堤防部溢水の可能性あり。河床浚渫の必要

14:02 東春近大沢川お蝶橋上流5m右岸 L=7m 4mの石積み崩落

バリケードを5つほど欲しい。PM2:40 現場報告 バリケードを設置し通行止め。お蝶橋から上流の間

・東春近田原南信発電東側 県道車屋大久保線 沢の土砂が流出。18日から 県道へあふれ出している。

・東春近田原市道(6263)南発より北東。6263の法面と6277の路肩が崩壊2箇所 SL=3.0m L=10.0m SL=5.0m、L=15.0m

区でブルーシートで応急対応済み。ブロック積み等の復旧が必要。

14:30 西春近小出島区護岸終点部下流側から洗屈され土砂が流出

隣地、畑のため緊急度は低い。

14:30 西春近小戸沢橋 県道すぐ西の石積崩落。16年災害の部分のすぐ下流。裏込め土が流出。対岸部もひび多数あり。L=4m、SL=3m

14:30 富県上新山区上新山中平 田ノ入川より取り入れの水路法面が洗われた。L=6m、H=6m／確認

15:00 伊那山寺天竜町浸水とのことで確認に向かう。

天竜町、旧中央病院北~旧伊那ホームセンター付近一帯、天竜川増水による湧き水と思われる。

15:00 富県貝沼区分水弁に土砂が堆積しているため、用水路に水が流れない。

田に水が必要な時期になるので至急対応願いたい。

土砂があり水路があるかどうかわからなかった。

弁より上部に水路があれば土砂の撤去が必要(耕地)

15:30 東春近渡場 “家の前の道に穴が3~4箇所あいている。

見た感じでは道路の下に空洞がありそう。

市道 渡場6号線 6063

“東春近のメトロール班に連絡。土嚢袋をいれて対応 pm16:10頃。

15:30 西春近小出島区小出島公民館横の用水路(新道筋)石積み護岸の石がぬけてしまっている。

15:30 貝沼区大門東光寺南 畑法面崩壊 L=10m、H=5m／確認 畑上部林

道の配水が畑に侵入し、崩壊した区により路肩に土嚢を積み応急措置

15:35 13時頃課長へ電話で沢渡の河岸段丘が危険な旨の連絡が入る。課長が区長等現地役員等と話し合い。その結果の連絡が入る。

「2箇所崩落があり、湧水も通常より大量」助告のエリアや避難場所の検討 避難場所は西春近公民館と地元は言うが、かけ下なので危険。

西春近北小学校とする。／避難勧告発令

15:45 富県北福地区 登内孝宅入口手前の水路肩が崩れている。L=5m H=3m(耕地)／確認 地元で土嚢を積んで丸太と板で応急処置済み

16:00 竜東野底 棚沢川で洗屈により市道2441号(棚沢川日影林線)が崩落

／全面通行止めをかける。起点と終点にバリケード

・東春近中殿島春近神社下の住宅裏 護国寺墓地より多量の湧水が発生⇒住宅へ浸水(床上被害も出たとのこと)

福田や輪店横に側溝が入っていたが埋められた。

湧水は大量であるが住宅の脇を通過して県道の水路へ流れている。

唐沢宅への被害は収まっている。

16:00 富県北福地区 那須峰志宅裏の水路肩の崩落

用水路周囲の崩落(耕地)／確認 現地確認、水は落ち着いているので、今後大水がなければあふれる心配はない。

16:00 西春近小出島区ブロック積み護岸の裏が流出

L=3m、W=1m、SL=4.5m L=2m、W=1m、SL=3m

16:15 南福地区1級河川 竹松川伊藤豪松氏宅北西の橋梁横左岸の玉石積みがぬけている。L=2.0m H=1.0m

16:30 西春近小出1区 河床洗屈 戸沢川上流域林道蛇石線近く。

河川の洗屈により法面が流出。

下流で道路を横断しているため、道路横断ヒューム管が閉塞するとダムのように水がたまる。さらに、側溝発生も恐れ。

今後の降雨量により注意必要 SL=10m~20m

16:50 竜東福島区市道2070号棚沢川沿いが通行止めになっている。陥没しているが、余計子どもが見に行くと危ない。もっと封鎖してほしい。

対応後、区長へ連絡をほしい。／西武重機に対応を依頼

歩行者用バリケードを依頼し施行してもらったが槽の数が足りない。

PM5:30宮下建設で対応。処理後連絡あり。

PM7:00馬場現地確認、フェンス施行済み。

16:50 西春近下牧区長下牧2組に10戸ほど家あり、下の段で裏が山。

山を背負っているので地滑りの不安があるとのこと。

区長が現地を見たがいつもと変わった兆候はない。

組長が「不安なので市にみてもらいたい」との話があったので連絡した。

18:15再度連絡が入る。指示を受け、区長へ電話

地元で監視して、亀裂や湧水などがあつたら連絡を欲しい。

17:00 諏訪形区の災害現場より貝付沢上流方向に山崩れの後あり。

地元対策本部の話では幅が広がっているように見えるとのこと

／危険なため現地調査でまず。

17:00 富県南福地大沢川左岸護岸のブロックがはがれて、土が洗われた。

L=15m、H=2m

18:10 竜東野底区棚沢川の野底公民館50m下流右岸が5m位洗屈(護岸下部玉石積みが欠損)と公民館より上流左岸市道2441号線。

河川増水により浸食崩落(護岸のない部分)L=20m

河川増水による浸食は被害が拡大しないように応急処置が必要。

市道2441号は区で丸太をおいて通行止めになっている。

18:25 諏訪形区南坂

①7月19日発災分 諏訪形交差点の土砂。

交差点から300m堰堤が土砂で埋まり市道上を流れ、交差点内に堆積

／次の雨に備え、側溝等の浚渫を業者へ依頼

②7月19日発災分 中央道西側ボックス40号くぐった南30m畑地の土手が崩落。市道を封鎖

③に合せて依頼

7月21日

- 4:30 竜東中央区北町 宮下正幸宅付近の古川左岸、東台側の立木が倒れてきて、古川に枝が付くほどになった。
土砂が押し出されているのか、又は倒れて古川を塞ぎ、川が氾濫するのでは。／現場確認 傾斜した大木は2本。土砂が押し出したものかどうかは判断できず。(目視できる所では根が上がっている所は確認できない)古川に落ちるかどうかも不明。
- 6:12 西筑輪羽店 羽広観音から下へ下ってかねしん商店そばの水路でつまりがあるため、消防署で白沢管工へ依頼して作業中
- 7:01 竜東日影東部中学校 上 信号機の所でグラウンドに向かって水がどんどん流れ出している。土壌積みをして欲しい。
- 7:30 諏訪形区の災害現場の水路一部回復 引き続き水路回復作業続行中。降雨により、再び土砂の流出が始まっている。
・諏訪形貝付沢水路の土砂排出は完了。床下浸水対応は終了。
農道への土砂流入排出継続中
- 7:55 美郷R361号中県バス停から上段へ登る道。10m上ったところから湧水あり。量が多くなり、国道の反対側まで流れている。／現地確認
田に水をかける頃、30mほど上がったところから湧水あり、今日もその湧水しか確認できない。量はやや多いがU字溝の土を誰かがあげてあり、水の処理はできていた。
- 8:00 西春近 沢渡猪の沢川 西春近南丘の平沢林産南側 護岸ブロックが100mほど欠落している。下流から見ると
・竜東野底 棚沢川ノ外ロール班 野底の沈下箇所3箇所をみたところ、公民館の上下2箇所については落ち着いている。
・北保育園の北側について、水量も減り、状況は変わらないが危険と思われる。至急の処理が必要
・西春近藤沢川市水道の排水地の対面の崩壊が進んでいる。
・藤沢川水道配水池上流300mと100m。河川右岸の山斜面が崩落。前日より土砂崩落があり河川断面の1/3が埋まっている。
山の斜面から水が流れ落ちており、崩落が進み川がせき止められることも。
- 8:50 西部1号線通行止めの迂回路 日発前の南北の道を使用しているが、大型車が通ってしまうとすれ違いができない。路肩も崩れてしまおう。大型を国道へ回すことはできないか。／写田地籍看板設置
- 9:00 西筑輪経ヶ岳植物園線の間で川が溢れている。(戸谷川上流部)
7/20集落に水が流れてきた。たどると上記箇所、横断溝が埋まり、路面上に土砂水が溢れている。地元で土壌などで下流側に流した。
／現地調査
7/21 9:30頃 上戸区長と現地立会い、当面生活に支障がないとのことなので、後日早い時期に対応することとした。
- 9:05 西春近 小出島白沢川?と県道との交差点で石積み崩落。
NIT電柱倒れそう。土嚢を積んで欲しい。／崩壊箇所に土嚢20袋積み
- 9:30 手良棚沢川の田屋の集会所北の護岸が落ちた。
／現地確認 杭トラロープ30m、バリケード5~6枚必要。
人が近寄らないようにする必要がある。
- 9:32 富県下新山 東部線と西伊那線の交差点の手前。羽場さん宅の下が崩れた。土留があり、貯まっているがいついばいの状態。通学路なので子どもたちに土が落ちては困るので危険防止の措置を。／監視へ依頼
- 9:40 東春近渡場 春近大橋歩行者専用道路を片側だけ広くする計画があるとの連絡ある。
- 10:00 諏訪形水路部分開通、西部1号横断部も開通。引き続き掘土作業中
通行止め解除は夕方以降になるもよう。
- 10:00 西春近小山二区 現在大量の水が西部1号側の側溝へ流れ込んでいる。／現地確認。バリケードを設置。
- 10:20 伊那大坊 路肩5m盛りが低いので土嚢で対応。アスカープ等の設置をお願いしたい。／後日、現場確認により判断。
- 10:20 西春近 沢渡大洞川、西部1号の下のS字になっている部分で左岸のブロック積みが長さ100mくらいで崩れて、右岸が洗掘されている。その下の堤堤は流木なのでいついばいの状態。流木は現在増えている。
- 10:50~ 西春近諏訪形法正寺西貝付沢付近 信大教授の調査
- 11:00 西春近沢渡 大洞上流合流南側の支流大規模倒木あり。
- 11:20 21日 東春近小学校 東側の山 水が出ている。消防と共に現地を見たが水もきれいで特に危険な様子は見られなかった。
- 11:30 竜東野底 棚沢川天竜川合流点~手良野口までの調査 堤防下部流出。裏側市道に穴H=2.5m L=5.0m 玉石堤防下部流出H=1.0m L=3.0m 玉石堤防あり?なし? 流出始まる H=1.5m L=1.5m
堤防流出始まる? 今回のものか不明H=1.0m L=5.0m
堤防低いため地元施行 ただし、施行不良のため不安 H=0.5m L=3.0m 堤防流出始まる(裏山)H=1.0m L=5.0m
堤防流出とが崩れ一部あり H=1.0m L=5.0m
古い玉石積み、崩壊の恐れあり H=1.0m L=5.0m
堤防裏側左岸、右岸に穴 H=2.0m L=2.0m⇒現場保安のみ
- 12:10 国道152号土砂崩落のおそれ(21日11:45~当分の間全面通行止め)
- 12:30 伊那警察署交通課 大型農道諏訪形の信号から宮田沢渡線に下りる道。大型車の通行には狭い。
交互通行も難しいので中の豚361号かその前の大宣信号でR153へ下るほうがいいのでは?
案内看板を置くように検討 大芝で下ろすように看板を出してある。長期間でなければ上記のようにしなくてもいい。
- 14:40 西春近沢渡 市道西部1号(0135)表木下小出。
19日早朝(3:00過ぎ)柳沢からの流水で大型農道伊那食品猪の沢工場前が冠水して道路の東側の路肩が崩れた
／19日5:20から対応 吉沢建設が土嚢で排水溝に流し、側溝を浚渫した。宮下建設が西側(カーブ内側)側溝を柳沢集落入口まで浚渫した。
- 14:50 西春近 市道下小出2号線(8177)水路合流部で水が噴出して、東側の畑2面が浸水(いつもよりかなり水が多い)
／合流部に土嚢を置き対応した。
木曾建設事務所 伊那木曾連絡道路(R361)迂回路の通行について

7月22日

- 9:30 諏訪形区 7/21市道821B 道路陥没 1m×1m/現場を見て
- 16:30 西筑輪手地国道361号明沢橋手前から峠道へ登る林道
①道路谷側が下がり、アスファルトに亀裂が入っている。ブロックが崩壊したり、ぼろぼろしていないので、ブロック積みごと下がっているものと思われる。
②道路谷側斜面の崩落。道に影響は出ていないが、今後崩落がすすむと危険/現地確認
／①道を両側から通行止めにしてある。 ②特に対応していません。

7月23日

10:50	富原桜井サイクリングロード(3343)三峰川-左岸級 L=120m 道路欠陥。通行車が道路流出箇所まで入ってしまい危険。流出箇所の前後に管理ゲート(白)に通行止めの表示はされているが、人が入ってしまっている状況。／「三峰川サイクリングロード この先道路が流出しているため、通り抜けできません」看板を設置。管理ゲート前後2箇所 サイクリングロード入口(公園側、高遠側)各1箇所。 下流の流出箇所手前にバリケードを設置しビニールテープを張る。 上流側は倒木があり、通行できないので未処置。⇒監理課に連絡済み	①左岸護岸裏洗堀 L=6.0m ②右岸護岸洗堀 L=3.0m ③橋台洗堀 ④橋台洗堀、河床洗堀 ⑤河床洗堀 ／①については路肩に車や人が近づかないようバリケードを置いた。
12:15	西春近小出島区小戸沢川(1級河川部分) 護岸洗堀、玉石積み崩れ。 ①護岸洗堀(両岸) ②右岸護岸裏洗堀L=20~30m ③左岸護岸玉石積みくずれL=4.0m H=1.0m	12:15 西春近小出島区市道南原東線(8120)側溝の泥溜 泥溜がいつい 土の除去をお願いした。
12:25	西春近小出島区 戸沢川(1級河川部分)護岸洗堀、河床洗堀。	15:15 手良 棚沢川 橋台両岸とも脚下载堀、護岸洗堀。 伊那建設事務所立会い状況確認。地区役員と相談の上、橋の通行止め。通行止めの処置を依頼。 橋より上流(準用河川部分)L=150mくらゐまで両岸とも護岸洗堀 L=150m、H=3.0m A=150×3×2=900㎡
		15:45 市道野口蟹沢線終点、蟹沢1号線(5074) 蟹沢にて棚沢川橋梁橋台が洗われている。／通行止め処置。

7月24日

8:46	諏訪形区 8:00頃 西部1号諏訪形交差点 側溝の水が溢れている。 ／現地確認 9:30頃から市の作業班3名と地元区で側溝清掃作業実施	
9:20	美篤芦沢バチンコエキサイト東 竹内モーテース南側の水路(二番井)の法面で石が落ちたりしている。地元でブルーシートで保護。見て欲しい。 ／現地確認 10:00区長と現地 個人の斜面が一部崩れる。 (H=3.0m L=10.0m)ブルーシートで水があたらないようにしている。 現場は安定。区長及び竹内モーテースに注意(ブルーシート追加依頼) また、個人敷地の擁壁が一部下部にクラックがある。所有者(竹内モーテース)は今回の雨の前にはクラックがあった。変化はない。	
9:30	西箕輪羽広 大門沢の土砂が流れてこないか地元の人が心配している。18~19日にかけて大門沢下の市道が川になったり、水路が壊れたり、畑が冠水したので今後、雨が降った場合が心配。 ／今後のスケジュールを現地確認 19日 7:30~ 消防団で土嚢を設置済み 20日 西箕輪調査班 現地調査 24日 10:00~ 沢の上流で一部崩れがあるが、水は濁っていない。 耕地、林路へ報告済み	
11:50	・手良野口 蟹沢百庚申の10m上の石垣。裏が洗われ崩落の危険がある。(1ヶ月ほど前、維持係で修繕している) ／現地確認 24日 15:00 現場確認 L=1.5m H=2.0m 緊急ではないが災害工事で対応。⇒市単災 ・美篤笠原 19日 5:30頃 笠原(マレットゴルフ場よりさらに上)沢、側溝が詰りオーバーフローし道路を横断した水が路肩を崩した。 ／現地確認 24日時点 L=3.0m W=1.0m 横断溝の水は通っている。路肩の修復が必要だが、緊急ではない。 ・美篤上原 17日 夜0:30頃 西伊那線上原地籍(坂の終了手前)土砂崩落 巾2m、長さ5m(住宅地への影響なし)。 ／消防団が当日土止とブルーシートを貼り拡大を防止する 現地確認 側溝が詰りあふれた水で路肩が崩れた。 24日時点、側溝の土砂の撤去は終了している。 ブルーシート、土嚢設置済み。	・美篤南割 19日 午前10時頃 南割地籍葉山土砂崩落(巾7m、高さ10m)／消防団で配水処理 倒木(松)5本 宅地被害なし。 崩落箇所 安定した勾配をとれていると思われる。(個人所有の山) 諏訪形区具付沢中央道ボックス西側の堤壁に流木ブロックを設置し、バックホウ1台を常駐させ、たまった流木を除去 ／情報の混乱を避けるため住民からの個々の要望は、区長及び土木部長を通じてのみ受付。 14:00 手良野口棚沢川 護岸崩落。水道施設フェンス際まで崩落している。 ／現地確認 L=10m、H=2.0m 人が行かないところなので特に安全対策はしていません。 14:30 西箕輪羽広 太清水川右岸が崩れてきている。羽広マレットゴルフ場12番ホールの北側(人が近寄らないようにバリをしてある) ／現地確認 スポーツ振興課情報以外にも崩れてきている箇所あり。 15:00 富原北福地地籍大沢川左岸 橋梁けた下部の根継ぎ部が洗われて流出。 以前からの状況であり、市にも現地確認してもらっているが、この雨で心配なので様子を開きに来庁 /現地確認 県と協議し、市で根継ぎ工をするように計画し、自営工事申請書を5月に提出している。 15:00 手良野口区棚沢川(1級河川) 21 川底上昇 護岸崩落(27 護岸崩落 6 護岸崩落) /現地確認 21 河床1m上昇、護岸崩落左岸 L=10m、H=1.0m、右岸L=30m H=1.0m 27 護岸崩落 左岸L=30m、H=1.0m 右岸L=15m、H=2.0m 6 護岸崩落 右岸L=10m、H=2.0m
		15 10 西春近小出島小黒川河川内に流木あり、上島地籍2018番地6付近 下流に堤壁、道路橋があるため、流れた場合は河川の支障となる可能性あり。 17:30 諏訪形具付沢 堤壁部の流木ブロック巡視について 24日から25日にかけて午後10時と午前4時の2回

平成18年7月豪雨災害 時系列 辰野町

7月17日

6:40	砂防課から町長あてに土砂災害警戒の連絡あり 砂防課	12:08	下辰野桜町足助宅前 大堰溢れる 止水
7:50	中村総務課課長補佐 役場着	12:10	防災無線(川島県道通行止めについて) 総務課
7:52	宮木ポーラ化粧品前道路 対策済	12:13	防災無線(川島県道通行止めについて)再放送
7:52	上高建設前町道1号線道路側溝溢れる連絡あり 消防署	12:16	宮木公園西 西天溢れそう(土のう20~30個) 4分団・区長
7:55	上高建設前町道1号線道路側溝溢れる 総務課	12:20	西天 鳥居沢地籍水路から水溢れる 上高平一郎氏
8:00	上高建設前現場に建設水道課宮原補佐到着	12:20	西天事務所連絡川岸取水調整要請 西天理事長宅
8:10	小沢淳良宅(中村公民館横)警戒するよう電話連絡	12:21	土のう袋 砂手配1.5~ (13:05) ローター
8:20	消防団各分団警戒体制を要請	12:23	西天水門停止(2時間30分かかる) "川岸事務所詰滞"
8:30	総雨量50mm	12:30	平出 有賀工業北上野北上野川 木流し 7分団
8:41	大雨警報発令 県防災	12:31	赤羽 真金寺下 堀内伝次郎 河川 土のう15個設置 4名
9:27	上高区会計よりの橋水位あと1mほどの連絡あり	12:31	鴻の田 小林博 牛小屋下田 土手欠壊 連絡あり 区と相談中
9:40	防災無線にて広報	12:31	赤羽真金寺下 堀内伝次郎 河川 土のう積み 6分団
9:45	小野駅駒沢側丸山橋上100m 木流し 15名	12:31	鴻の田 小林博牛小屋下 田んぼ土手決壊
9:45	小野駅駒沢側丸山橋上護岸欠壊200m上 木流し15名	12:40	天竜川下辰野ひび半分見えている (天竜川伊那富観測1.6m)
9:45	小野駒沢川水縁付近護岸崩壊木流し警戒中 1分団	12:44	川島よけ土砂流出 塩尻消防署連絡 2分団 水道建設
9:55	平出ニシザワ食採館裏倉庫土のう25個 平出区長		県道通行止め 木流し 6名
9:55	総務課長 町長へ災害状況報告 課長	12:55	地方事務所被害状況確認 行田
10:00	駒沢川確認のため消防署小野係長を現場へ	12:55	駒沢川木流し
10:09	地方事務所地域政策チーム ハンザキ氏被害状況の確認	12:55	よけ地籍通行止め・左岸崩落
10:10	建設水道課漆戸係長・熊谷 駒沢現場へ	12:55	他市町村警戒本部設置なし
10:13	岡谷警察署降旗さん町道1号線状況確認	12:57	小横川川 リッポー・構造うえ木流し実施(11:00から) 消防・区
10:25	総務課長 助役へ災害状況報告 課長	13:03	町長連絡(午後5時関係課長招集し状況報告を行う。署長室)総務課長
10:30	天竜川伊那富観測所水防警報発令(1.5m)	13:10	平出保育園下上野川木流し(11:00から13:00) 7分団・区
10:30	小野南沢 枝垂れ栗踏切付近小野川 木流し実施	13:26	建設水道課宮原補佐 川島 小沢清利さん妻 2分団土のう設置依頼
11:00	小横川 リッポー・構造上50m 木流し3分団	13:30	消防団員95名待機中
11:00	蛇石上流土砂流出の連絡川島区長	14:00	根橋町議到着(総務課へ災害状況の確認)
11:05	川島よけ地籍よけの沢土砂流出し県道へ、県道冠水 門前耕地総代	14:10	天竜川水位 1.7m
11:20	ダム事務所から蛇石上荒れている連絡あり(流入量44t)	14:10	沢底区 鴻の田 岩花沢・木沢・山寺川奥 決壊
11:25	地方事務所・建設事務所へ状況報告	6分団対応 沢底区長	
11:25	駒沢川木流し	14:47	鴻の田 岩花入口200m 5~6m 川の土手くずれ区・団員9名
11:25	川島よけ地籍県道通行止めについて(12:00から700m) /管理係セキ	6分団団長 土藁	
11:25	建設事務所/現場確認へ	14:50	町管バス川島線・スクールバス通行止めの件、
11:30	小野郡境河川あふれる 道路冠水	下飯下栗平橋上流右岸決壊 木流し実施 川島区長	
11:30	城前線冠水の連絡あり 小島さん	14:57	教育委員会北條課長、産業振興課松井係長、
11:30	消防団は各屯所待機	県道通行止め手配 関係課	
11:35	天竜川上流管理シモザワ氏ひ管操作について連絡あり	14:57	バス等迂回の手配を連絡
11:39	天竜川ひ管操作について宮沢係長連絡	15:00	下飯沼沢 下栗平橋 上流50m右岸 木流し 2分団10名
11:45	広報たつの(100ミリ超えた災害危険あり消防団屯所待機) 消防署	15:00	総雨量125mm 総雨量125mm
11:45	保健福祉課林補佐「ぬくもりの里」監視依頼する。	17:00	災害警戒本部設置 被害状況等説明伊那富観測1.67m
11:45	城前線冠水状況(道路側溝のつまりによる)	17:00	消防団屯所120名は一旦自宅待機とし、様子をみながら招集する。
11:50	川島よけ土砂流出 2分団対応、水道建設 県道通行止め対応	17:30	警戒本部を消防署に置き、本部員は自宅待機とする。
11:50	よけ地籍県道・横川川決壊 対応のため2分団へ要請	17:30	川島伊良沢地籍 冠水している。川島区長
11:50	小野唐沢川氾濫 塩尻消防署へ連絡済み	17:40	消防団員は自宅待機
11:52	洪水警報	19:00	神戸 中井水門東側 鳥居沢南側土手水路裏側土砂抜ける
11:57	消防署小野係長春宮巡視報告(特になし)	(深さ3m、幅2m) 消防署現場確認に向う。	
12:06	よけ地籍通行止め確認 伊那建 佐藤	特に線路への影響を確認してもらう 署・村水利組合長	
12:05	かやぶきの館よけ通行止めの件連絡	19:00	川島区長 災害報告
12:07	伊那建より 特別警戒水位になったら町長にダイレクトに連絡する。	19:15	川島地区通行止めページング放送
12:08	大せき道路冠水 大堰止水	19:48	消防署畑行 神戸中井水門付近線路への影響はなし

7月18日

3:40	伊那富観測水位 1.49m	19:50	上辰野北東技研積水路越水 8分団対応中
8:52	宮木下町 宮原八子宅入口 土のう22個	20:40	信用建設の重機対応中 0:35 終了
9:25	湖北衛生センター天竜川右岸大沢下30~50m護岸決壊している 湖北 小島さん	20:12	3分団屯所横小横川が越水寸前土のう対応間に合わない (費用かかる 相談中20:25)
12:33	宮所 北原利行宅裏 横川川右岸確認	20:17	6分団2名 赤羽の沢底川(ローソン横)カーブのところ侵食されて いる 消防署2名確認に向う 23:16 作業終了
12:33	県道岡谷橋川線慰問通行止め 松本建設事務	20:32	赤羽ローソン横沢底川現場、長さ6m幅1mで侵食 民家まで5mの報告
13:10	伊那富観測水位 1.50m	20:50	赤羽ローソン横へ 署長・総務課長・建設水道課長・小松係長・ 赤坂係長の5名で 20:32 現場へ出向する
15:00	土砂災害警戒情報(横川ダム)16mm/h・累加162mm	20:50	中ノ橋 津谷宅1世帯4名避難 平出の知人宅へ
15:10	土砂災害警戒情報(辰野)	21:00	釜口水門300t放流 (20:50 放送済み)
15:20	湖北衛生センター天竜川左岸東天水路決壊の恐れあり 下辰野区	21:13	下飯沼沢 小沢直十宅裏浸水の恐れ有り
16:00	湖北衛生センター天竜川左岸東天水路付近木流し要請 (消防署7人、消防団常備部5人) 伊那建設・建設水道	21:30	2分団員23名土のう対応中 22:41作業完了 以後住民が監視
16:00	伊那富観測水位 1.71m	21:30	天竜川樋口観測所 水位2.1m
16:00	8分団屯所待機中	21:45	金子光雄宅前の小横川護岸(左岸)が侵食されてきたとの通報
16:16	東天竜取入れ口へ出動		3分団本流し対応
16:23	東天竜取入れ口へ常備部土のうを持ち出動	22:05	赤羽 大野宗一宅裏より浸水しそう 7分団 6分団 署5名(小野・松沢・根橋(巻)・根橋・赤坂) 現地へ
16:32	下辰野足助和実宅裏加太せぎより越水8分団対応 17:00 作業終了	22:14	署タンク車 赤羽大野宅現場へ 現着 22:30(7分団作業中)
16:41	宮木南町ミズ光学付近 4分団 作業終了 (木詰まりで取れた)	22:30	中央道 伊那~駒ヶ根 通行止め(上・下線)
16:46	消防団 各分団屯所で待機	22:30	川島 川上高橋うめ子78歳女性一人暮らしで小沢せい子宅へ避難
16:57	平出上野川高速高架橋下越水 7分団出動	22:30	川上 小沢しげぞう96歳男性、はる子86歳女性、けい子59歳女性 小沢朝一宅へ避難
17:14	宮木南町城南公民館 4分団 終了 土のう60積	22:30	小沢うめ88歳女性 町外へ避難(時刻不明)
17:25	東天竜取入れ口木流し2本目投入	22:37	下飯沼沢 荒井宅横セギより水越す 現場確認中 23:48 土のう50袋 終了22:38 門前 田中まさひろ宅裏セギ水が溢れて土のう40袋 積み対応
17:25	崩れが50mに拡大 道幅6m→1mに縮小 20名で作業にあたる	22:54	川島 田中建材前通行止め バリケードを置き団員撤収 1:41
17:34	下辰野大せぎ川上段明宅前越水 6分団 土のう24個積み 17:56 終了	22:54	下飯沼沢 田中建材機橋コンクリート破損 車両通行危険な状態
17:35	湖北衛生センター上流200m付近現場部隊引き揚げ命令	22:55	赤羽 原田敏研前土砂崩れ 6分団、ソウアで対応 重機使用 建設課戸 0:00 復旧
18:13	宮木南町メゾンラフォーレ南福高アキラ宅越水 4分団土のう20積 完了	22:55	新町 ヒルギな上 セギ流出 23:22 4分団15名対応中 0:00 土のう50袋 作業終了
18:18	北太田田原修宅前西天竜あふれそう 5分団出動	23:25	上ノ橋 秋本さん小野川が10cmくらゐ溢れそうだが避難拒否 0:45 通行止め 23:25 上島大堰溢れる 3分団団員6名で土のう 23:50 作業終了 23:30 消防署2階に災害対策本部を設置
18:35	平出吉江たなみ店(工場へ)冠水 7分団土のう65積み 作業19:46終了	23:58	下飯沼沢 荒井まさひろ宅横水路溢れる 2分団確認中 1:06 安全を確認
18:45	8分団も応援	23:58	2分団は川島の各の違う場所を巡回中
18:40	藤沢(山)より水が濁水 1分団対応 18:55完了土のう15積み		
18:42	上平出前沢川氾濫 畑が水没 7分団対応		
18:45	小横川川大堰農道へ向う橋近く畑水没 3分団19:08土のう対応中 23:25 撤退 3名で監視中		
19:00	パーナライン線入口側溝より水溢れる (1分団土のう対応)		
19:15	沢底~鶴ノ田間 道路通行止		
19:17	右賀工業(辰野新聞横)上野川 木流し		
19:20	町議長宅横水路溢れそう 1分団対応		
19:40	下飯沼沢 小沢信行宅越水 2分団土のう対応 19:43~作業開始		
22:18	作業完了 屯所19名待機中		
19:50	小野保育園裏山から水が流出 1分団対応中		

0:20	平出 辰野中学校南天竜川大幹線確認に向 平出地区防災無線で情報提供	6:05	松沢上辰野助役宅床下浸水
0:30	農免道路ノザワ資材現場前山より土砂流出 信用建設重機が対応中 2:30 通行止め バリケード設置	6:07	中央道辰野PA上から土砂崩れ トラック転がる 東小まで土砂流出 救助出動
0:45	北大出 上垣外公民館前道祖神の所土砂流出 農免(上記が終了次第向う)	6:20	有賀峠通行止
0:50	上島 がおん伝承館から今村タケショウ 北の沢から土砂流出により 床上浸水 中信工業対応中 2:20 作業終了	6:25	うとう峠通行止(松建)
0:55	唐木沢 松沢つねお宅庭に水流入 3分団対応 2:20 作業終了	6:30	徳木水周辺通行止・R153崩落 歩行者も通行止
1:27	小野中村 小池としお宅上の方の休耕田より家の方に流のように水が 流れ玄関(土間)に水が入ってきている 1分団対応 土のう300追加	6:30	平出で7分団長 住民に避難をよびかけ
1:33	小野春宮 小野保育園西側鈴木俊一宅前道路が越水 1分団対応	6:44	豊南短大裏側 赤羽中山地区(秋葉好男宅・小松利子宅)土砂崩落 7:00 秋葉さん救助 小松さんは留守
1:38	門前 岩崎ふみ夫宅前 県道際あぜ道が陥没している 土のうを置いて危険箇所の明示	6:47	新町農免道路(ノザワ資材場)崩落 新町区長 通行止め看板を設置
1:50	川上 三浦今朝し宅前U字溝より水が溢れて床下浸水の恐れがある 2分団5名で土のう積み対応中	6:47	羽場村上スタンド付近せきあふれ床下浸水3軒 5分団対応
2:14	下飯沼沢 小沢直十宅前県道陥没	6:50	東部保育園(三沢紙器)うら 増水の連絡
3:00	上島中の橋 菊地勝(2名 上島1600-9)がおん伝承館に避難	6:50	羽場 松井シンイチ宅床下浸水 処理済
3:00	秋本海福(4名 上島1576)大石平の娘さん宅へ避難	7:03	赤羽中山地区(41世帯91人) 豊南短大付近に避難指示 (対策本部会議にて勧告から指示への変更 19世帯55人 20日18:20)
3:00	国道361 権兵衛トンネル通行止め	7:05	赤羽中山地区、秋葉さん宅から3名救助
3:10	丸山球場北 長田博治宅裏より水流入 8分団対応 3:40 終了	7:10	宮木 矢島あきら玄関先浸水
3:20	小野川 ずず原橋上流 旧国道通行止め	7:28	上平出流橋建設土場 土砂崩れ
3:25	新町 松田忠義(じやげな上)家に入ったら松田隆司宅へ	7:30	上平出 前沢川決壊 向山正一宅へ鉄砲水 上平出(95世帯250人) に避難指示
3:35	上島中の橋 中村ひろし(1名)がおん伝承館へ避難	7:30	樋口農花園浸水
3:35	百々橋近くの中西(?)2名 宮所コミュニティーセンターへ避難	7:35	小野水処理センターへ送電開始
3:45	唐木沢 松沢(?)宅 3分団5名土のう対応	7:50	小野雨沢地籍の停電 復旧
4:05	下辰野 足助和実宅前のセキ沼瀬 8分団土のう対応	7:50	北大出農免道路崖崩れ 1台埋まるが運転手は病院
4:15	中の橋 4世帯床下浸水 唐沢今朝之(2名)がおん伝承館へ避難	7:55	辰高北で鉄砲水の恐れあり 消防ポンプにて排水
4:22	新町 松田忠義 避難 松田リュウジ宅へ	7:58	宮本桜ヶ丘 道路の水が流れている
4:30	小野下村下 深沢から県道へ土砂流出 県道通行止め	8:00	沢底水源19日中持ちそうもないと思われる
4:30	共生館あさひヶ丘東 沢底川崩壊 7m 阿50m上流崩壊2ヶ所	8:00	小野色白水上のテング池 土砂崩れ 通行止め
4:48	平出 増沢宅床上浸水(1Fまで)3名避難 5:17 平出コミュニティーセンターへ 7分団 根橋(巻)、松沢、向山、金子 対応	8:03	学校全校休校 保育園希望保育 決定
4:55	小野雨沢下町国道153長橋付近通学路陥没により耕地でロープを張り 通行止め	8:10	小野 今井利男宅 水害 状況確認に向 状況確認
4:57	樋ノ沢川氾濫の恐れ有り 5:40 重機手配	8:23	利久荘上土砂崩落 地元で対応 10m崩落
5:12	小横川公民館上火の見を上がった赤羽清志 山のほうから水がしみ出してきて川状態 3分団対応	8:25	平出法性神社裏池土宅石灰2袋浸水で煙 処理済み
5:15	北小野境 小野えいご宅R線の方から水が入ってきている 5:40 1分団対応	8:25	宮本セブンイレブン裏土手水氾濫 4分団対応
5:18	小野水処理センター含む雨沢地籍(長野アトム~小野下町)停電 中電課訪久保田さんから連絡	8:26	下辰野日の出町ポンプ所 水氾濫 8分団対応
5:30	東小学校の東 中央道トンネル上の山 崩壊 (下り191.7kmポスト) 土砂流出 床下浸水5棟	8:45	上平出前沢川 線路がぶつかるところ氾濫 東天に水が流れている
5:35	雨沢新田 利久荘入口田中タケオ(46-3020) 大沢川氾濫 1分団対応	8:47	平出高徳寺入口新村一幸さん畑の石積み30m決壊
5:43	赤羽 赤羽やすひで宅東田の土手崩れそう 6分団対応	8:47	小口久夫宅上30m 30m決壊
5:45	平出上野川付近 林2名避難	8:50	長野アトム裏山崩落
5:55	R153徳木水地籍 路肩浸食 交通整理対応(町→県)	8:55	下辰野 小浜宅(41-1286)自宅横の倉庫冠水しているので 土のう対応して欲しい 天竜川逆流
5:55	樋口下田地籍 天竜川ひ管から逆流 下田地籍が冠水	8:57	樋口 山田覚宅県道より床下に浸水 6分団へ連絡済
5:55	R運行計画ページング放送	9:05	小野大沢川 利久荘上100m道路侵食 車両通行止め
6:00	平出旭町 (天竜川と大幹線の間)各戸をまわり危険状況の説明	9:10	赤羽あさひが丘避難を誘導 赤羽コミュニティーセンター
6:05	宮木宮原光学(南町公民館上)工場へ浸水 従業員が土のう4個で対応	9:10	北大出 大日尻川 林一昭宅浸水 田畑に流入
6:05	両小野中学校周辺停電との連絡が中電からあり	9:11	下辰野桜町 松井ナツ子宅土砂床下浸水しそう 8分団対応依頼 分団長連絡済 9:22 確認
6:05	上辰野 三浦正義宅下 8分団対応	9:20	春宮団地の一番上山際 山から水が出ていて浸水しそう 横の池あふれている 安協を現場に配置
		9:30	小横川 リッポー鑄造から上 電話電気不通 ます池・高山さん宅使用不可
		9:37	湯の田 有賀イサム宅・小林タカヨシ宅前の橋流出 山側へ避難 人的被害なし 近所の人たちで対応してもらおう連絡済み
		10:05	川高部上小沢よしゆき67歳、けさいち66歳、けさみ69歳、みき7歳、 みゆき35歳5名 自主避難 源上公民館

10:08 赤羽 ニッシン平出工場前沢底川氾濫しそう(41-5246)

10:14 小野中村 小林そう宅(46-2897)・小沢カズオ宅2件土砂崩れ
行方不明者あり

10:24 小野中村火災への対応 (田中)松本広域へ出動要請 広丘署出動

10:28 出動中止10:40 赤羽 ローソン右岸 流出恐れ

10:45 平出旭町一帯、広報車で老舗・西小へ避難を誘導

11:16 西ヶ丘 宮下宅 水がオーバーフローしている 4分団対応

11:17 宮木 出光信号橋 武井明宅土のう対応

11:30 災害対策本部会議開催

11:35 小野 災害現場屋根に筋カイをして行方不明者検索に入る

11:56 北大出 桑沢川上流 炭焼き小屋北側斜面で土砂崩れ
明光寺の沢に流れ込んでいる 業者対応

11:58 樋口下田 中谷ミツアキ宅 道路が冠水している 6分団対応

11:58 上野 ほ場整備の用水路が氾濫している 7分団対応

12:00 小野保育園の庭に土砂が流入しそとの連絡

12:03 上島中の橋 全戸冠水、唐木沢東西の道 土砂水 3分団対応

12:31 小野中村 土砂流出現場 検索開始

12:40 田中職員山口の田んぼ崩落

13:30 上野 (新)上野製作所付近 上の川決壊しそう 7分団対応

14:10 自衛隊に出動要請

14:30 上野MKマツザワ付近 堤があふれアスファルトがめくれはにめている
7分団出動15:00 自衛隊 北部グラウンド着

15:02 小野中村 飯沼コミュニティーセンター対策本部設置(40-1223)

15:20 自衛隊 災害現場着 15:30 捜索開始

15:30 北湯舟1171-1赤羽龍司(リノ)下流流出

16:46 ほたる童謡公園わらべ橋 平出側護岸が崩れている
安全対策を 7分団対応

17:05 小横川 中学2年女子 土砂にのみこまれたと通報あり

17:10 下辰野松尾橋上流右岸約100m崩れ始めている
→第7分団で下辰野パレード

17:45 "小横川 リッポー-鑄造下に80m×200mの自然ダムができ、大規模な氾
濫水の恐れあり 小横川及び宮所の小横川沿川区民へ避難指示(高
台へ逃げるように) 500世帯1,100人 グレイスフル患者も2Fへ避難"
避難場所辰野高校体育館確保する

17:55 "小横川流域住民避難状況(小横川 48世帯 185人、
宮所 181世帯 558人、中央高畑 40世帯 130人、
上辰野中央 153世帯 516人) 全 500世帯 1100人"

18:44 県警ヘリから 小横川土砂崩れ負傷者2名 救急車要請出動

19:03 "県警ヘリ「やまびこ」よりリッポー-鑄造下100m土砂崩れ確認
高山孝七夫妻2名救助 リッポー-鑄造に3名救助に向かい19:15完了"

19:15 小横川流域避難指示対応の避難所 老人福祉センター追加

20:00 小野中村現場 がれき撤去 捜索継続

20:24 小横川リッポー-鑄造下の自然ダム安全を確認

20:35 小横川川下流域の避難指示解除

21:30 小野酒造裏 駒沢川南側堤防洗刷田へ水が流入(量は少ない)

22:50 北大出新田(林建築近く)のつつみ決壊の恐れ
4世帯避難(区から要請)→新田公民館・三ツ谷公民館 林建築
(往んでいない)、林昭子、東安ゆき、小林つね行 5分団から通報
下辰野法雲寺うら山から出水、区、消防団等で対応、
法雲寺居住棟床下浸水

7月20日

0:30 樋口矢の坂下、信号手前50m~70m間
土砂流出で片側交互通行 伊那建設事務所

6:45 天竜川横川合流点から小横川川合流点 人命検索 7:10

7:30 災害対策本部会議開催

9:05 佐兵衛せぎに山沢合流点あふれ、武井ひろし宅・上島宅喜島宅
床下浸水 地元対応済み 地元対応済み

9:35 "小野下雨沢土石流発生 七歳寺線崩壊倒木等により通行できない為
上辰野区から表示の依頼" 建設水道課補佐

9:39 天竜川 東西橋から上流に向かい中学生の捜索開始(7名)
病院事務長

9:40 長野アトム裏、かけ崩れにより1階トイレに土砂流入、社員に雨等災害が
起こりそうな場合は逃げてもらおう話をする。

9:50 ①サトウ(北大出43-3578)から南原線の土砂除去作業の申し出あり
建設水道課

9:55 赤羽中山地籍(秋葉、小松、土屋)を除き一時帰宅許可

10:00 徳木水小野側 車両がどんでん来てしまい地元で誘導している
岡谷の迂回できるところでパルクードをはってもらえるよう
松本建設事務所へ依頼

10:00 赤羽中山地区、被害にあった3軒をのぞき一時帰宅実施(~10:40)

10:10 上野 古田ちひろ氏から364-1の田、土手崩壊の報告

10:15 上辰野区 土のう用砂を要請 坂本屋に手配 上辰野屯所前へ

10:23 上島区長 中の橋一帯の水を重機で小野川に流したいが、重機を区で
手配してみる 出来なければ電話がくる

10:32 小横川現場 中学生の検索作業開始

10:50 小横川災害現場バックホー3台宮建工業に手配済み

11:00 赤羽区民センターで町長出席し懇談会開催

11:04 中学生の捜索 天竜川東西橋~新橋橋発見できず 病院事務長

11:15 小横川現場からNTTとLCVのケーブルがあるがどうすればよいか
→LCVは現場へ向かってもらった NTTは電話で連絡した

11:15 中学生 病院捜索隊7名 天竜川道瀬まで捜索 異常なし

11:50 清水県議から徳本辰野側で誘導しているようだが大渋滞になっていると
の苦情が伊那建にあり、伊那建から確認があった
→町では誘導していない 病院下に看板も出している
伊那建で対応してほしいと伝えた

12:00 小野中村 捜索現場からブルーシート40枚 杭100本要請あり
樋口防災倉庫対応

13:22 赤羽真金寺横ため池で音がする。職員確認に向う。区でも対応

14:00 真金寺横ため池職員確認済み。現時点では大丈夫と思われるが、
区で定期的に見回ってくれるとのこと ため池下の1軒2名自主避難

14:10 唐木沢区緊急用道路として上辰野にゆける道を区で通れるよう整備し
区民が通れるようにしたとの連絡あり。区民のみの利用を徹底してほしい

14:35 小野中村の現場作業継続中。2次災害防止用センサー(土石流感知セ
ンサー)を設置し建物裏から山へ向かって重機と手作業で捜索をしてい
る。雨が降り始めた。

16:35 12:25に始めた病院捜索隊6名合流点より上流から現地まで確認作業終
了(帰る)

17:25 伊那消防本部7名小横川現場から伊那署へ発庁

18:20 災害対策本部会議開催

18:20 上平出(95世帯、250人)避難指示解除

20:47 南湯舟 山田商店上の道アスファルト盛り上がり出水 4分団長へ連絡

21:37 平出保育園上増沢千広・上野川増水したら浸水危険あり 7分団へ連絡

7月21日

5:20	沢底公民館上竹入喜明宅裏山 19日に5m×5m崩落し上部崩れそうのため、5世帯15人が沢底公民館に自主避難	11:35	小横川現場昼食により作業中断 (小野現場は12時より昼食予定)
5:35	4:47須波戸根橋きんいち宅裏用水路の水あふれ床下浸水。ポンプ2台・5名で対応 5:35 出発・7:30 完了 2分団対応	11:40	小野中村現場 住宅部分の土砂半分撤去 現在牛小屋があったところを重機2台にて検索 土砂崩れセンサーの設置取り付け間もなく終了
6:15	学校(町立)休校を決定	12:00	内閣官房審議官町内災害現場視察訪問 (小野、小横川 R153徳本水 赤羽 中央道) 順次箕輪町へ
7:24	町内の保育園休園		長野市13時到着 14時町内到着予定
7:30	災害対策本部会議開催	12:05	小野捜索現場 昼食による作業中断
7:30	小横川現場 検索開始	12:05	小野捜索現場 11:45にセンサー設置完了との報告
8:15	小野現場 検索開始	12:15	上島中の橋 4軒6名一時帰宅
8:25	沢底現場確認(仲組竹入義明宅裏山)消防署員3名	12:25	小横川捜索現場 作業再開
8:25	両小野国保病院の救急は直接塩尻消防署へ通報するよう連絡	13:10	JRから連絡 12:20に飯田線伊那北～北殿で山の亀裂が見つかり電車の運行見合わせ 伊那北～岡谷は運休継続
8:25	土のう用の砂を川島小学校・役場小野支所へ各7口手配済	13:30	川島、小横川両現場とも作業続行中
8:26	大雨情報35号発令	13:30	小横川捜索現場の検索作業ボランティア申し出 危険なため断る
8:40	小野捜索現場(辰野病院事務長) 8:10～作業開始。今のところ変化なし。今後2時間ごとに連絡予定。	14:00	川島区長より横川ダム湖右町道の脳電柱が倒壊し断線による感電危険発生のため中部電力への連絡要請あり 要請済み
9:03	川島小学校へ砂到着 2分団長	14:10	小野現場作業続行 小横川現場捜索場所を変更し継続
9:30	8:30 現在の避難状況(保険福祉課から) 赤羽コミュニティセンター10世帯20人・平出コミュニティセンター1世帯3人、沢底入村6世帯19人・上平出コミュニティセンター2世帯7人・がおん2世帯2人 以降、毎日、8:30現在、12:00現在、18:00現在の報告予定	15:15	公明党国会議員来庁 災害現場視察 視察終了
9:35	小横川捜索現場降雨のため一次中断、小野現場これから検討。	15:20	小原県会議員来庁 災害現場視察
9:50	小野現場作業継続の連絡、今後にあつては検討中。	15:35	釜口水門300t放流を徐々に減らしていくとの連絡あり
9:55	役場小野支所へ砂到着	15:40	横川ダム右側町道電柱はNTTであったため中部電力からNTTに連絡してくれた
9:57	小横川現場捜索再開	15:40	小野・小横川とも徹夜で作業することを決定
10:00	小野にいる職員から8:00に小野中村4人中村コミュニティセンターに降雨のため自主避難したとの報告	15:49	重機2台が小横川捜索現場に到着
10:00	沢底現場確認から消防署員掃着、沢底(山寺除く)～鴻の田確認。災害の発生は認められないが、仲組危険箇所付近の住民は公民館へ自主避難し始めている。1世帯は避難済み。	16:05	小横川捜索現場 重機2台による捜索開始
10:00	災害ボランティア受付開始(社協41-4500)	16:40	空間情報技術という業者より航空写真提供の申し出あり 週明けに連絡をとる
10:10	高速道路通行止め(塩尻～諏訪～駒ヶ根)	16:45	小野捜索現場 住宅から牛小屋へ捜索場所を移動 (住宅では発見できず)
10:19	県道下諏訪・辰野線全面通行可能	17:05	沢底区から避難勧告継続の依頼あり。継続決定。
10:30	小野・小横川両現場共作業継続中	17:27	小野捜索現場 遺体発見 身元確認中
10:50	崖崩れの危険により沢底仲組23戸63人対象に避難勧告 避難先は樋口コミュニティセンター 全町へ防災無線にて放送	17:49	小横川捜索現場 遺体発見 身元確認中
11:00	小野・小横川両現場共作業継続中	17:59	防災無線にて全町に身元確認中ではあるが2遺体発見の放送
11:00	保険福祉課職員2名により樋口コミュニティセンターへ避難所開設	18:11	小野捜索現場 遺体を収容 検死に入る
11:15	赤羽上の原団地・上村敷宅上出水確認 6分団へ巡回指示	18:20	災害対策本部会議開催
11:35	沢底仲組避難状況 樋口コミュニティセンター6人 赤羽コミュニティセンター4人 知人宅8人 の計18人(世帯数8～9世帯)	18:40	小野 遺体身元確認
		18:47	小横川 遺体身元確認
		20:25	消防署解散
		21:00	自衛隊に撤去要請

7月22日

6:30	高速道路全面開通		
7:30	災害対策本部会議開催	9:30	合せあり。そのようにお願ひした。9:30宮下代議士到着、現場視察へ
8:45	県ボランティア職員10名、小野駅で職員と合流、現地に向かう		小野中村現場 県ボランティア職員10人、松本建設事務所2名と作業開始
9:00	県ボランティア職員27名、役場から、東小学校(10名)、交通整理(10名)、ホテル本路(7名)向かう	10:00	沢底仲組避難勧告解除(10:10防災無線放送)
9:15	東小学校へ土のう50個搬送	10:30	赤羽中山地区、一時間を日処に一時帰宅。職員、警察同行
9:20	赤羽避難所(コミュニティセンター)にいる県職員から土のう袋150の要請あり。対応済み	10:38	宮本湯舟水源上、にれ沢山で水たまりができてしていると区長から通報あり。助役、署、職員で確認に向かう
9:25	上平出前沢川現場の区から現場近く赤羽シズコさん宅下の水路が壊れているので、作業中の業者(神山建設)に修繕をしてもらってよいかとの問	10:40	上平出前沢川に7分団で土のう積みで22名出勤
		11:10	伊那建設事務所整備チーム沢底山林現地視察に入る
		11:17	にれ沢山 鉄砲水のおそれなし

第6章 平成18年7月豪雨災害経過概要

11:40	赤羽中山地区 一時帰宅終了 (17世帯 27名)
12:00	しだれ栗線 旧つけもの工場の川上さんから、テラスが川の真中に流されてとまっているとのこと。現在は水が流れているようなのでようすをみてもらうことにした。
12:00	樋口コミュニティ避難住民、全員自宅に帰った。
13:24	沢底災害復旧作業現場から救急車の要請あり。 区民が土砂除去作業中に倒れた。
13:25	伊那建設事務所整備チーム沢底仲祖現地調査報告。 地元区長らと現地視察、山が動いた形跡はみられない、湧水も見られないが引き続き注意をお願いしたい。
13:30	杖突峠通行止め解除 建設事務所から連絡
13:36	沢底へ救急車到着、有賀利明さん心臓停止状態。 救急処置をしながら病院へ搬送。
13:45	平出区から上野公民館前竹やぶの土手がさけていたとの通報あり。 ブルーシートをはってもらってしばらくようすを見てもらうようお願いした。

14:15	地方事務所長到着
14:28	沢底 有賀利明さん、辰野病院にて死亡を確認
14:52	知事到着 (3:00視察発)
15:30	ホテル水路及びにれ沢水源、県ボランティア職員作業終了
15:47	樋口区長から矢沢原の山が動いているような気がするという通報あり。 職員、区役員と確認に向かう
15:55	2006/7/19朝、荒神山斎藤哲二郎宅の石積みが崩れ小沢勇雄宅の家屋を一部損壊との通報あり。(L=20m、H=4m)
16:00	小野中村県ボランティア作業終了(道路班は15:50ころ終了)
16:15	県ボランティア解散
16:30	松本地方事務所解散
17:00	交通整理県ボランティア終了 役場にて解散
17:30	樋口矢沢原 土砂崩れのおそれなし。 沢の土砂崩落箇所は治山事業で対応するむねを区に説明
18:00	災害対策本部会議閉催

7月23日

7:30	災害対策本部会議開催
8:30	平出区から上平出前沢出現場において消火栓を使用するとの連絡あり。 担当課へ連絡済み。
8:35	伊那建設事務所2名と土砂センサー等の設置について協議
9:00	県ボランティア職員集合(役場100人、小野駅58人) それぞれの作業箇所へ出発
10:45	赤羽中山地区、10戸33人を除き避難指示解除。
10:45	赤羽中山地区、引き続き避難指示世帯一時帰宅(11:50までの予定)
10:48	町長 防災無線にて町民に呼びかけ(2回実施)
11:00	小横川リッポー鑄造 通電 町内の停電なし
12:30	徳本水斜面を地方事務所林務課、伊那建で調査。一部堆積物が今後の雨で流れてくる可能性はあるが、ま道まで出てくる心配はないと思う。 伊那建としては対応を考え連絡してくれるが、今すぐ災害は起こらないと思う
14:20	赤羽矢島精工裏山 幅5m 長さ7m山が動いている。倒木あり。 確認に向かう。茅野さんから電話
14:34	中の橋 通水完了
14:40	赤羽矢島精工裏山 中腹で亀裂・倒木を確認、 職員が伊那建と合流して現地へ向かう
14:50	北大出区長から西部林道委沢水源から1km上がったところに亀裂ありの通報。林務係で確認に向かう
15:05	赤羽矢島精工隣のアパート・ホワイトハウス管理者と所有者に状況連絡
15:27	北大出現場から報告、水たまり→所確認。 桑沢英明宅裏山に亀裂2か所を区役員と水が入らないように作業中。 富士山グランドは付近にも危険箇所があるが民家がないため緊急性なし
16:05	赤羽中山矢島精工裏の確認班帰庁。5m×50m削られ木が倒れている。 自主避難を呼びかけている。雨が降れば、矢島精工、ホワイトハウス、 竹沢さんに避難勧告の検討をしたほうがよい。 付近は通行止め、片側通行の規制をかける。雨の場合は警察が対応

16:30	赤羽中山(矢島精工、ホワイトハウス、竹沢さん)3棟15人(13世帯15人)に避難勧告、周辺道路通行規制
16:50	中村総務課補佐、信州大学の先生と赤羽中山を調査中。 崩落現場から入り、矢島精工裏へ行く予定。
17:18	上伊那地域に大雨洪水注意報発令
17:30	県ボランティア職員、 ・小野中村11人 15:30 終了 ・下雨沢15人 16:00 終了 ・中の橋10人午前中終了後下雨沢へ合流 ・唐木沢26人 16:00 終了 以上 16:15 小野駅解散。 ・沢底入村10人 16:00 終了 ・赤羽10人 11:20 終了後沢底入村へ合流 ・北大出20人 16:00 終了 ・西ヶ丘10人 午前中終了後北大出へ合流 ・原井20人 午前中終了後小横川→北大出合流 ・交通整理8人 17:00 終了
17:40	JRから連絡 明日(7/24)は辰野～塩尻運行、臨時ダイヤで対応。 岡谷～辰野は連休
17:55	信州大学の先生 北大出西部林道現場に向かってもらう
18:15	北大出西部林道の崩落箇所応急処置終了。 林道横断パイプの閉塞による水たまりだが、水位が下がっているので緊急の危険はなしとの先生の判断を受け、雨水流入防止の処置をして撤去。区役員20名立会い? 信州大学の先生 対策本部で説明を受ける
20:20	信州大学の先生 赤羽コミセンにて説明を受ける
21:00	赤羽中山(矢島精工、ホワイトハウス、竹沢さん)3棟15人(13世帯15人)避難勧告解除 交通看板撤去

7月24日

17:50	県ボランティア 明日(7/25)は28名の予定。 小野方面/20名、ごみ処理/8名
18:05	小野中村 5戸10人 橋が狭くなったから下村コミュニティセンターへ自主避難する体制にある
18:15	赤羽避難所説明会終了

18:35	上平出ラーメン大学付近 東天電護岸が決壊しているところ県道部分まで落ちそうとの連絡あり 伊那建では資材を入れながら毎日観測しているとのこと
18:45	災害対策本部会議開催

7月25日

7:30	災害対策本部会議開催	11:45	野沢鉄工近くの水路で保安帽を発見
7:37	大雨注意報発令（防災無線で町内に注意を呼びかけ）	11:50	中日本道路公団から町職員と協議して、
9:00	9:30から釜口水門 100t/秒以上放流すること （防災無線放送済み）	11:50	中央道辰野トンネル付近の現場は処置の必要なしと判断した。
9:10	官下代議士視察 徳本地籍から北へ向かって視察開始	11:50	中央道辰野パーキング職員駐車場で倒木があるとの通報あり、 職員対応を指示
9:25	平出区から中央道辰野トンネル下り側の山が崩れそう。 職員2名確認に向かう。中央道も連絡済み。	12:15	北大出行方不明者 天竜川まで流されている可能性あり、 消防団5分団・常備部出動
9:45	赤羽中山の土砂除去作業、天候のようすみながら開始する予定。	12:20	中央道辰野パーキング職員駐車場付近の倒木、
10:20	中日本公団、中央道下り188.7キロポスト付近の山に5mほどの亀裂が ある。シートを張って対応してくれるとのこと。	12:25	中央道の敷地内と思われるため中央道へ連絡
10:25	小野水処理センター近く、ケーブルへの倒木 処理完了	12:25	北大出行方不明 草薙川にはいないと思われるとの連絡
10:40	中央道辰野トンネル付近通報現場は沢の崩落 土砂は塚原石産土場と思われるところで止まり水の中央道へ流入。 中央道下り線は一車線通行規制中、職員確認後、 中日本公団の方と合流する予定	12:25	官下代議士、川島、小野を視察終了
10:55	赤羽中山避難指示地区、業者が倒木撤去作業をはじめる。 業者に監視員がいるため、職員の監視は11:00で終了する予定。	13:47	北大出行方不明者捜索 ふれあいセンターに現場本部設置
11:21	行方不明の連絡あり、 軽トラのエンジンがかかったままずっと停まっているが付近にいない。 8:10に川を見に行くといつて家をでたまま。	15:00	伊那建から連絡あり 県道川上-唐木沢線 よけ地籍開通
		15:33	小野中村センサー設置現場、水抜き完了
		15:50	平出区長から連絡 上平出コミュニティーセンターは全員引き上げたため避難所を閉鎖予定
		16:45	伊那建(佐藤さん)からR153徳本 本日18:00に開通との連絡
		17:00	赤羽中山地区、サイレン再調整
		18:40	対策本部会議開催
		19:00	北大出行方不明者捜索 中断

7月26日

6:00	北大出行方不明者捜索開始	11:30	伊那建から 牛首峠木曾川 全面通行止めの連絡あり
7:30	対策本部会議開催	11:40	西天竜 明日(7/27) 通水予定
7:42	北大出行方不明者捜索 県警ヘリコプター要請	13:00	赤羽避難所にて中山地区センサー警報音の説明会開催。 赤羽中山地区避難指示を避難勧告へ、 あわせて一部避難指示解除(1世帯6人・館野さん)。 建設水道課 農免道路通行規制解除 通行可。
8:25	行方不明捜索 西天竜、中井の捜索 発見できず終了 対策本部員出勤者帰庁	13:30	役場職員15名を赤羽中山の土砂除去作業に派遣
8:40	中電 赤羽中山地区へ調査に入りたいということなので気をつけて 入っていただくようお願いした。	14:00	赤羽避難所 閉鎖
8:55	行方不明捜索 役場職員隊帰庁。 伊那消防署、三峰川合流点から水神橋までの天竜川 行方不明者捜索開始。	16:50	17:00から町道50号(はたる童謡公園南側～松尾峡橋下辰野)通行止
9:05	南箕輪村助役さんから職員応援隊3～4人を派遣する用意をしていた だいているとの連絡あり(辰野町助役へ)	17:30	赤羽中山 作業隊、17:00に作業終了し帰庁
		19:00	北大出行方不明者捜索中断
		19:30	対策本部会議開催

7月27日

0:00	警察署から赤羽中山地区の警報器から音がするとの通報あり、 現地を確認、雨音をマイクがひびく音が危険なし。	11:20	町道54号(赤羽中山地区付近)作業に支障があるため通行止め 建設水道課対応
7:00	北大出行方不明者捜索開始。 署11名、E1(常備部)12名、警察署7名、家族3名(堤防から目視)	11:30	伊那建手配の500キロ土のう到着(50袋)
7:30	対策本部会議開催	13:10	小野中村の〇〇さんを保健師訪問、血圧等をみたが緊急性なし、帰庁。
9:00	県ボランティア/56名 町職員/15名 南箕輪派遣/6名 社協ボランティア作業出発	14:15	JR東海から依頼。飯田線いしがみ踏切、鳥居沢川鉄橋のところ 崩れそうなので立会いをお願いしたい。建設水道課で対応
10:20	町道54号(赤羽中山地区)作業に支障があるため 通行止めを建設水道課で対応	14:30	松沢設計さん沢底入村の〇〇さん宅を診断、倒壊のおそれなし。
10:25	小野中村 保健師手配の依頼あり、保健福祉課へ手配。	19:00	明日、小野と赤羽中山を診断すること。
10:35	あさひが丘に仮入居している住人から水漏れがあるという話があったが 保健福祉課補佐と相談して引き続き入居してもらうことした。	19:00	対策本部会議開催
		19:30	北大出行方不明者捜索中断、現場本部を閉鎖し、署に対策本部を設置 小野下沼沢センサー説明会

7月28日

7:30	対策本部会議開催	12:30	住宅倒壊調査(建築士会)、小野2、赤羽10、上平出1 調査終了
9:30	北大出行方不明者捜索開始 消防署4名、常備部4名、警察は別隊	13:05	赤羽中山地区、被災車両の燃料を抜いてもらいたいとの依頼あり、(現場:社協事務局長) 小沢物産15:00現場へ
10:00	赤羽中山地区 避難勧告解除 引き続き万全を期すため雨水対策を行う。防災無線放送(10:05) 保健福祉課長、保健所と住民ケアに出発	14:55	小野 県のボランティア作業終了
10:30	赤羽中山地区 勧告対象世帯に本部で連絡完了 鳥居沢(いぼがみ踏切)土のう使用	15:30	伊那市から水など救援物資(1,200本)届く
11:30	伊那市(福祉部長)から水等の飲み物の救援申し出あり、 いただくことでお願いした。 赤羽中山サイレン調整中 湖北衛生センター通常稼働開始	16:10	赤羽中山地区 県ボランティアと社協ボランティア作業 終了
11:40	小野中村 トタン等の処理のためトラックと人員の依頼あり、 遠藤産業手配、人員確保済み。	16:55	小野区長から、小野中村 小沢光良さん宅 建物の取り壊し等は県で行ってくれると小沢さんに連絡があった。
		18:00	伊那建設事務所長 災害の避難基準について町長を訪問
		18:30	対策本部会議開催
		20:00	県から連絡あり、 小野中村の小野光良さん宅の建物撤去は県ではできなくなったとのこと

7月29日

8:00	対策本部会議開催	10:15	宮木交差点の現場は、国道のにれ沢川暗渠の詰まり。業者に依頼済み
9:45	宮木区長から宮木交差点の暗渠が詰まっているので みてほしいとのこと。課長確認に向かう	10:30	釜口水門30.53t 放流中 (10:00現在)
10:05	県庁危機管理室 住家の基本的解釈について連絡あり。 生活の本拠があるところで基本的にはひとり一箇所ということ。 具体的に現在内閣府に問い合わせをいただいている。	15:00	川島作業終了
		16:00	赤羽中山作業終了
		16:10	R153徳本水 片側規制 7月31日9:00~16:00まで 伊那建から連絡

7月30日

10:20	北大出捜索本部より午前7時より捜索開始、 消防団第5,6、常備より各10名(30名)、辰野消防署16名、 警察署25名、地元50名で両岸に分かれ捜索。	13:45	なお、協力隊で、飯田、駒ヶ根、阿南署出動。 防災ヘリ午前10時より泰阜ダム~天竜川草場合流点まで捜索開始。 捜索隊より報告、発見できず、ヘリも捜索中
-------	---	-------	--

7月31日

10:00	捜索(消防署・消防団・警察)	13:30	捜索(消防署・消防団・警察)
-------	----------------	-------	----------------

8月1日

9:00	対策本部が消防署2階会議室から、役場内の助役応接に移動する	15:50	赤羽中山(根橋常務より)作業終了連絡、 午後はWP処理の人員増に伴い16人(2班体制)で実施
9:30	捜索(消防署・消防団・警察)		
13:30	捜索(消防署・消防団・警察)		

8月3日

14:05	13:55高森町、高森消防署付近の天竜川でうつ伏せの遺体発見、 確認中。	17:00	身元確認
-------	---	-------	------

8月7日

18:00	対策本部廃止
-------	--------

平成18年7月豪雨災害 梅雨前線豪雨災害時系列 塩尻市

7月17日

6:30	市内の道路側溝からの出水、床下浸水などの通報あり／ 区、消防団、松本広域消防局、木曾広域消防本部、塩尻警察署、市など 関係機関による応急活動、情報収集始まる。		ホームページ、メール、防災無線及びオフトーク放送で配信。 松本地域・木曾地域に大雨警報発令
8:00	担当事業部による応急活動(D体制) 担当事業部、支所等からの被害情報収集開始	8:45	国道19号(贛川地籍)土砂崩れ 全面通行止
8:43	気象情報を緊急メール配信。以後、気象情報、交通情報等について	10:00	楢川地区警戒態勢に入る
		11:52	松本地域・木曾地域に洪水警報発令

7月18日

19:58	国道19号東側斜面崩落のおそれ 奈良井区6世帯12人に避難勧告 奈良井分館へ避難。後、楢川地区公民館へ移動(7/22 12:00解除)	20:00	危機管理総合対策チームによる警戒態勢(C体制)
		20:39	警報の重要変更:過去数年間で最も土砂災害の危険が高まっている
		21:32	贛川区大曲3世帯4人が折戸集会所へ自主避難

7月19日

0:32	贛川区大曲3世帯5人が折戸集会所へ自主避難	8:30	上小曾部区、下小曾部区、岩垂区断水(7/19 24:00通水完了)
1:10	助役を本部長とする塩尻市大雨警戒本部(B体制)に移行	9:10	第1回本部員会 本部事務局は、消防防災課に置く市長を本部長とする塩尻市災害対策本部(A体制)を塩尻消防署3階に 設置避難場所に市職員延べ131人を配置
2:17	奈良井区池の沢から土石流 楢川公民館奈良井分館、仲町から 下町へ土砂流出住家1件全壊、床上・床下浸水多数奈良井分館全壊	11:00	避難勧告、自主避難あわせて411人が避難所へ避難
3:00	大雨災害対応情報を各議員へ配信(以後、第9報まで)	16:15	贛川区断水(7/22 4:00通水完了、桜沢のみ17:00通水完了)
4:37	奈良井区自主避難(神社から駅)(同日中一次帰宅)		
5:16	奈良井区自主避難(宮前・20世帯)(同日中一次帰宅)		
5:30	奈良井区断水(7/19 15:00通水完了)		
8:10	贛川区大曲で、贛川沢の増水により床下浸水始まる住家4件全壊		

<学校> 休校:楢川小・贛川小・楢川中・両小野中学校
休園:北小野保育園・楢川保育園・贛川保育園

7月20日

5:17	木曾地域の警報が注意報に	17:00	全壊3世帯に市営住宅を手配 順次入居 土木振興会による奈良井区地質調査を実施(7/22まで)
7:30	収入役を本部長とする楢川地区現地災害対策本部を楢川支所に設置 全壊、床上・床下浸水家屋の防疫作業開始		
9:47	松本地域の警報が注意報に災害対策本部を本庁3階庁議室に移転 本部事務局を本庁3階第5会議室に移転		

<学校> 休校:楢川小 午後休校:楢川中学校 登校繰り下げ:両小野中学校

7月21日

6:15	奈良井区土石流の危険奈良井地区JR西側全世帯(281世帯 775人) に避難勧告 楢川小学校、楢川保健福祉センター、 楢川中学校へ避難(7/21 16:00解除)		勝弦公民館へ避難(7/21 16:00解除)。 奈良井区西側斜面の地すべり不安の声あり。
10:30	上田区地すべりの危険上田区10世帯24人に避難勧告 上田公民館へ避難(7/22 15:00解除)。 勝弦区地すべりの危険 勝弦区24世帯79人に避難勧告	16:00	奈良井区JR西側全世帯(281世帯 775人)に避難勧告解除 22日まで自主避難の継続を要請 勝弦区24世帯79人に避難勧告解除22日まで自主避難の継続を要請 土木振興会による上田区地質調査を実施

7月22日

12:00	奈良井区6世帯12人に避難勧告解除 当分の間自主避難の継続を要請	17:00	楢川地区災害調査結果報告会(楢川支所)
15:00	上田区10世帯24人に避難勧告解除 当分の間自主避難の継続を要請	18:00	楢川地区自主避難解除 楢川地区現地災害対策本部解散

7月25日

くらしの相談窓口開設(橘川支所、本庁1階くらしの相談室内) 14:00~16:45 | 自衛隊ヘリコプター等にて被災地視察
10:30~ | 経済建設常任委員会現地視察。協議会にて災害概要を説明 | (県知事、県出納長、市長、市議会議員、市建設事業部長)
11:00 | 北小野地区へ簡易雨量計設置

7月26日

9:00 | 県職員70人橘川地区にて片付け作業従事
| 県知事、県出納長へ支援要望書提出

7月27日

9:00 | 県職員20人、市職員18人橘川地区にて片付け作業従事
| 義援金受付開始 (8/18まで)

7月28日

16:00 | 区長会理事会へ概要説明

7月29日~31日

土石流センサー設置(大曲、池の沢、矢沢川)(床尾は、8/11)

8月7日

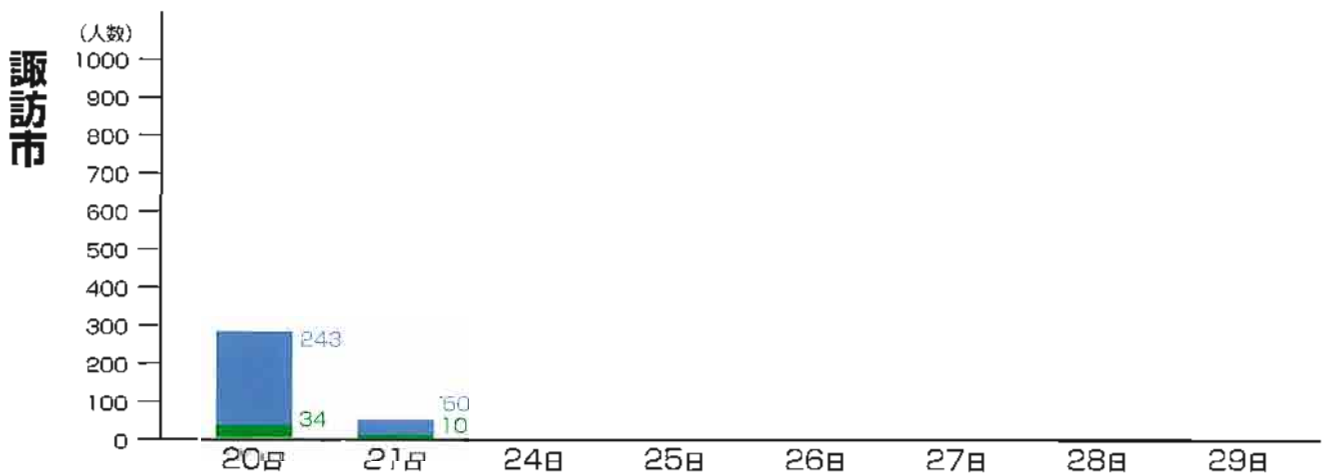
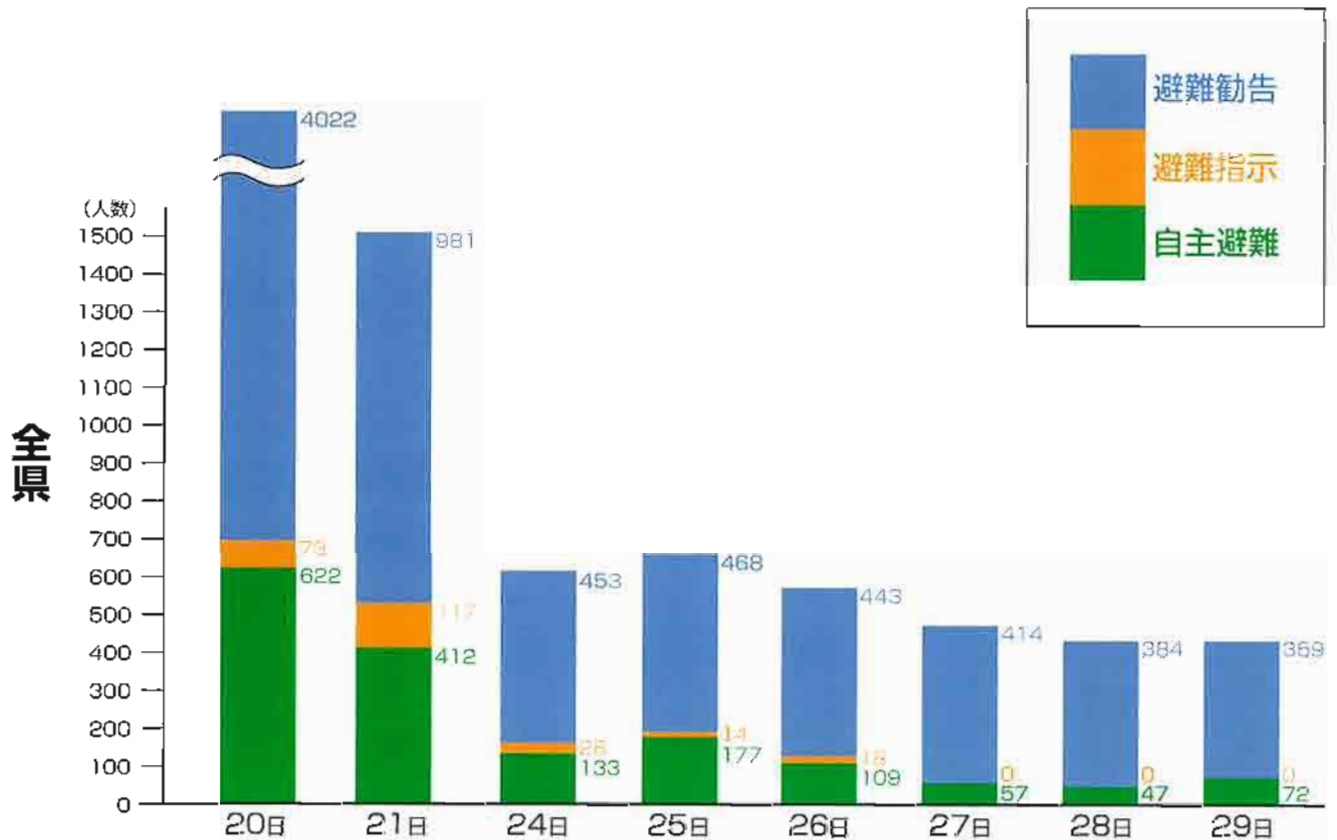
被災者生活再建支援法の対象自治体となる
全壊世帯に対し説明、事情聴取開始

8月11日

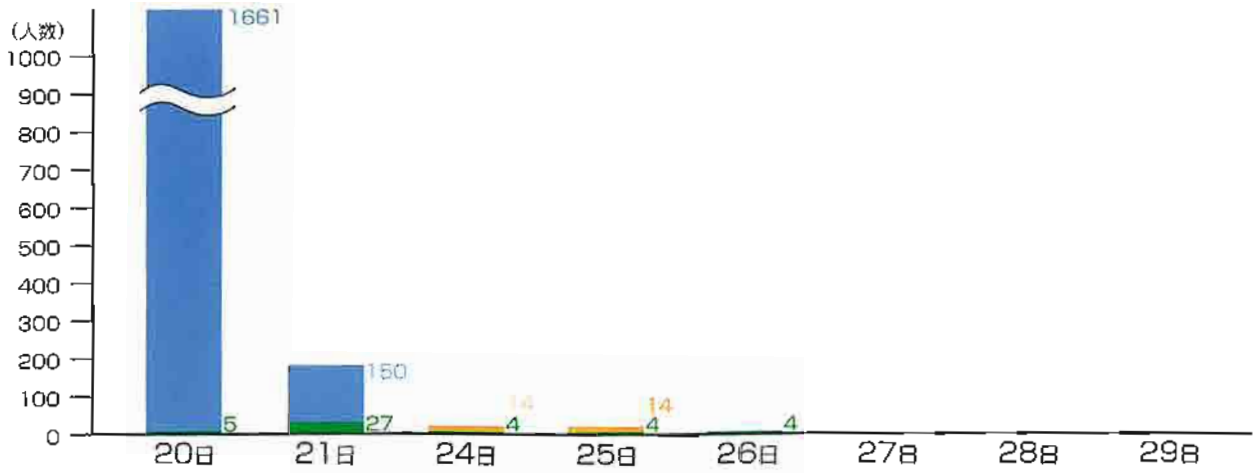
11:20 | 災害対策本部を廃止

※避難勧告は、対象世帯・人数

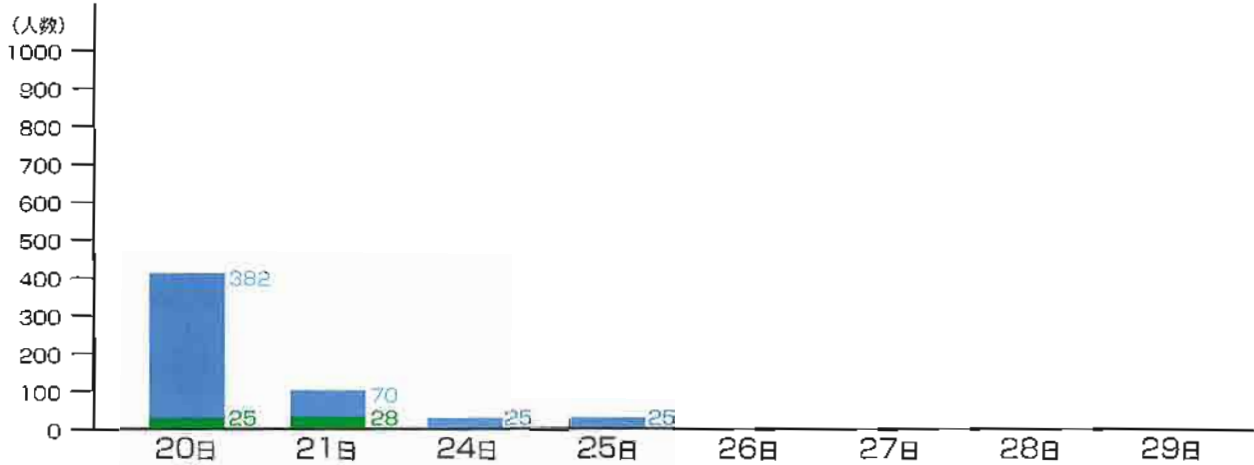
避難所の開設状況



伊那市



箕輪町



		20日	21日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
下諏訪町	自主避難	22	37		1	1	9	9	9
	避難勧告		13	9	9	9	9	9	9
茅野市	自主避難	2	6				1	1	1
	避難勧告	5							
辰野町	自主避難	4	4		19	10	10		25
	避難指示 避難勧告	53	50	14		18	25	25	
南箕輪村	避難指示 避難勧告	48 384							
	自主避難	3							
松川町	避難勧告	5	3						
木相村	自主避難 避難勧告	5	1						
木谷町	自主避難 避難勧告	79	16 58						
上松町	自主避難	2	2						
南木曾町	自主避難	5							
大桑村	自主避難	5	5						
塩尻市	自主避難	335	234		10	5	5	9	9
	避難指示 避難勧告	8	117						
松本市	自主避難	69	3	12	11	7	7	7	7
安曇野市	避難勧告	88							

		20日	21日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
生坂村	自主避難	11							
	避難勧告	43							
麻績村	自主避難	1							
大町市	避難勧告	15							
佐久市	自主避難	6	2	3	3	3	3	3	3
上田市	自主避難			5	5	5	5	5	5
小諸市	自主避難				27				
千曲市	自主避難		10						
	避難勧告		30	15	30	30	30		
東御市	避難勧告	1							
長和村	避難勧告	93							
長野市	自主避難	4	1	3	3	1	1	2	2
	避難勧告	16							
小川村	自主避難		1						
信州新町	避難勧告	124							
中野市	自主避難	1	1						
	避難勧告	65							
須坂市	自主避難	34							
飯山市	避難勧告	60							
栄村	避難勧告	138							

■平成18年7月豪雨による土砂災害に関する関係機関の危機管理対応状況

	岡谷市等市町村	長野県	国土交通省地方整備局	国土交通省河川局砂防部	備考
7月	★7月19日災害発生 7/19 岡谷市等は湊3丁目等に避難指示・勧告	7/19～災害報告の報告 7/19 土砂災害専門家の派遣依頼 要請:14:00頃 到着:19:00頃 (～20日20:00)	7/19 災害対策車の派遣の打診(関東) 7/19 岡谷市の要請により湊3丁目地区へ照明車を派遣(関東) 7/20 関東地整の要請により、北陸地整ヘリで岡谷市方面を調査(北陸)	7/19～20 岡谷市へ専門家派遣(技術的支援)	
	7/19 岡谷市は関東地整に照明車を要請 要請:15:00頃 到着:18:45	7/20～応急対策工事 県ヘリコプターに災害調査			
	7/21 伊那市は中部地整に照明車を要請 要請:20日 17:00頃 到着:21日17:00	7/21～23 県が災害箇所現地調査、現地機関への指示、助言	7/21 伊那市の要請により松倉地区照明車2台を派遣(中部)		
	7/22 岡谷市は志平川(川岸東)の避難勧告を解除	7/21 国交省に地すべりがけ崩れの専門家派遣依頼 要請:14:00頃 到着:21日19:00 (～23日13:00)	7/22 松倉地区の照明車1台を撤収(中部) 7/23 松倉地区の照明車の残る1台を撤収(中部)	7/21 岡谷市他へ専門家派遣(技術的支援)	
		7/21,23 現地機関による土砂災害危険箇所等の緊急パトロール			
		7/24 砂防ボランティアによる危険箇所点検パトロール			
	7/25 被災された方への相談窓口を開始	7/24 国交省に湊地区へ土砂災害専門家の派遣依頼、監視カメラの設置依頼	7/24 長野県の要請により湊3丁目地区へ衛星通信機材を設置(関東)	7/24～25 長野県へ専門家派遣(二次災害防止)	
	7/26 伊那市は松倉地区の避難勧告を解除	7/25～31 専門家からの指導、助言に基づき、湊3丁目等へ土流センサー・サイレン設置		※災害発生状況等についてHP等へ最新情報を随時掲載	
	7/27 岡谷市から国交省に対して、照明車の撤収を依頼	7/27～市町村へ災害箇所の警戒避難基準の作成指導	7/27 岡谷市の要請により湊3丁目地区へ派遣した照明車を撤収		
	8月	8/1 岡谷市は湊3丁目の避難勧告解除 ※以上で避難勧告は全て解除(県内)	8/7 国交省へ湊地区の監視カメラ撤去依頼	8/7 長野県の要請により湊3丁目地区へ設置した衛星通信機材を撤収(関東)	8/2～3 災害緊急調査団による技術指導 8/6 岡谷市へ災害ボランティア(保全課長他) 8/8 「台風等による土砂災害に対する警戒避難体制の強化について」(砂防計画課長) 8/11・8/14 災害関連緊急砂防等事業による緊急対策の記者発表



中央自動車道上に配備された照明車(岡谷市湊3丁目)



小田井沢川に設置された監視カメラ(岡谷市湊3丁目)

岡谷・湊地区

仮復旧工事始まる

暴雨終了後避難勧告解除へ



岡谷市湊地区では、二十八日朝、暴雨による被害を受けた六ヶ所地区の仮復旧工事が始まりました。大雨による土砂災害の危険がなくなった地域では、避難勧告が解除され、仮復旧工事の着工が始まりました。

現場には、土砂を運ぶトラックや、土砂を処理する機械が活躍しています。また、仮設仮設の仮設仮設も進められています。

大雨による被害を受けた地域では、仮復旧工事の着工が始まりました。大雨による土砂災害の危険がなくなった地域では、避難勧告が解除され、仮復旧工事の着工が始まりました。

夜にかけ県北部、強い雷雨の恐れ。大雨による被害を受けた地域では、仮復旧工事の着工が始まりました。大雨による土砂災害の危険がなくなった地域では、避難勧告が解除され、仮復旧工事の着工が始まりました。

大雨による被害を受けた地域では、仮復旧工事の着工が始まりました。大雨による土砂災害の危険がなくなった地域では、避難勧告が解除され、仮復旧工事の着工が始まりました。

豪雨災害

ボランティア最多440人

岡谷 要望受け泥搬出作業



岡谷市湊地区の被災者の泥を運び出すボランティア

豪雨災害を受けた岡谷市湊地区では、ボランティアの協力を得て泥搬出作業が行われています。ボランティアは、被災者の要望を受け、泥を運び出す作業を行っています。

ボランティアの数は、最多で440人に達しました。ボランティアは、被災者の要望を受け、泥を運び出す作業を行っています。

ボランティアの数は、最多で440人に達しました。ボランティアは、被災者の要望を受け、泥を運び出す作業を行っています。

ボランティアの数は、最多で440人に達しました。ボランティアは、被災者の要望を受け、泥を運び出す作業を行っています。



陸自の派遣 部隊が撤収

陸自の派遣部隊が、被災地の泥搬出作業を完了し、撤収しました。陸自は、被災地の泥搬出作業をサポートするために派遣されました。

陸自の派遣部隊が、被災地の泥搬出作業を完了し、撤収しました。陸自は、被災地の泥搬出作業をサポートするために派遣されました。

信濃毎日新聞7月31日付朝刊

岡谷市川岸の土石流は洪水型

信大研究者ら状況を確認



岡谷市の志平川流域上流付近で表土崩壊の状況を見る信大自然災害科学研究会のメンバーら。30日

信大研究者ら、岡谷市志平川流域の上流付近で、表土崩壊の状況を確認した。崩壊した土壌は、洪水型に属する。崩壊した土壌は、洪水型に属する。崩壊した土壌は、洪水型に属する。



岡谷市避難勧告 16世帯分 きのう一部解除

岡谷市志平川流域の上流付近で、表土崩壊の状況を確認した。崩壊した土壌は、洪水型に属する。崩壊した土壌は、洪水型に属する。

志平川流域の土石災害の発生状況 (大塚勲・信大助教授作成)

大山や岩の崩れが、河川を堰き止めた。崩壊した土壌は、洪水型に属する。崩壊した土壌は、洪水型に属する。

信濃毎日新聞8月31日付朝刊



県が岡谷市内12溪流に砂防えん堤20基を建設する計画を示した説明会

豪雨災害

砂防えん堤20基建設へ 県、岡谷市内の12溪流に

県が岡谷市内12溪流に砂防えん堤20基を建設する計画を示した説明会。説明会では、砂防えん堤の建設の必要性が説明された。

県は、豪雨災害の被害を軽減するため、岡谷市内の12溪流に砂防えん堤20基を建設する計画を示した。説明会では、砂防えん堤の建設の必要性が説明された。

編集後記

長野県は過去数多くの土砂災害に見舞われてきましたが、今回の災害は我々防災に携わる者に多くの課題を残しました。

今回、災害が発生した現場は、勾配が極めて急峻なわけでもなく、また山々の荒廃も見かけ上はほとんど見られない状況でした。にもかかわらず、十名の方が犠牲となるなど激甚な災害となりました。災害後に設置された「平成十八年七月豪雨土石流災害検討委員会」から頂いた提言にもありませんが、このような現場は長野県内に数多くあり、これらの地域の安全を確保していかなければなりません。

しかしながら、財政的な状況もある中で土砂災害に対応した施設の整備をどのように進めていくか、現場の危険度を把握できる技術的開発が待たれるとともに、整備の進め方についても柔軟な発想のもとでの議論が必要になると思います。

また、今回の災害では、住民の的確な判断により避難が行われ、人的被害が生じなかった地域もあれば、活動中の消防団の方が不幸にして土砂災害に巻き込まれ、亡くなられるケースもあり、避難の重要性とその難しさを痛烈に知らされた災害でもありました。土砂災害の警戒避難の判断にあたり、前兆現象の把握が重要であると言われていますが、土砂災害のおそろしさを知ってもらい、個々の現場でどのように対応してもらおうか、より実践的な対処法を身につけることが必要になってくると思います。そういう意味では、

土砂災害を体験された方の経験談はとても貴重で、その教訓を多くの方に伝えていかなければなりません。

このほかにも、流木対策、土砂災害警戒区域等の指定、警戒避難を判断するための雨量情報の伝達、下流部の流末処理などについても取り組んでいく必要があります。

災害発生当時、私は独立行政法人土木研究所に所属していたこともあり、前述の検討委員会に参加させていただきましたが、これからは長野県の土砂災害対策のため、微力ではありますが真摯に努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、七月豪雨災害により亡くなられた方々のご冥福とご遺族の方々、そして被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、この土砂災害の状況をしっかりと将来に伝えてまいりますことをお誓いたします。また、記録誌への寄稿、編集にご協力いただきました多くの皆様に、心より感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

平成十九年五月

長野県土木部 参事兼砂防課長

栗原 淳一

土石流が街を襲った
平成18年7月豪雨 長野県土砂災害の記録

2007年5月18日 発行

発行 長野県土木部砂防課
〒380-8570
長野市大字南長野字幅下692-2 長野県庁
TEL. 026-235-7317 FAX. 026-233-4029
制作 国土防災技術株式会社長野支店

※本書の無断転載、複製を禁じます

報告書作成にあたり、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(岩槻)(長野)(御代田)(塩尻)(鉢伏山)(霧ヶ峰)(津久塩)(諏訪)(北小野)(豊川)(宮本)(辰野)(茅野)を使用した。

